LIBERATED DISTRICT VOL.8

EL ZINE



CHILDREN OF TECHNOLOGY

SPEED MOTÖRCHARGED CRUST

NORWEGIAN HARDCORE PUNK AND POWER POP

Dishonorable Discharge

CAROLINE AND THE TREATS

Serbia | Anarchy

ADULT CRASH

TADPOLE

GRITA O MUERE RECORDS

FIGHT FOR YOUR MIND

FUCK YOGA

9 Questions Terror For Hardcore Punk Labels

Contents vol.8



welcome to EXPRESSION →



CHILDREN OF TECHNOLOGY

Motorcharged Speed Crust!!イタリアのCHILDREN OF TECHNOLOGYのデモCD-Rが高円寺のBOYに入荷したのは確か2008年の夏頃だったように思います。
暴発と暴走を繰り広げるロックンロール・メタルパンク・サウンドと、やり過ぎ感すら漂わせるド派手なルックス&紅一点の女性ドラマーの存在で一躍注目を集めると、その後も日本のG.A.T.E.SやカナダのBASTARDATORなどとのスプリットやシングルを立て続けに投下、そうして遂に今年、待望の1stアルバム「It's Time To Face The Doomsday」をリリースしたわけであります。
取材するならこのタイミングしかない!!というわけで、モミアゲ・ヴォーカリストのDeathlord Astwülfへのメール・インタヴューを敢行しました。

■まず最初に、メンバーそれぞれの音楽遍歴を詳しく教えてください。CHILDREN OF TECHNOLOGY以前にもいくつかバンドをやっていたんじゃないかと思うのですが。

「やあ、みんな!もともとCHILDREN OF TECHNOLOGY（略してC.O.T.）は、Turbo-Rattle Fingers（Gt/Ba）、Goddess of Hammering Chaos（Dr）、Deathlord Astwülf（Vo/歌詞）の3人編成だったんだ。Turbo-Rattle Fingersは以前からDEATH MECHANISMというバンドをやっていたんだが、これは奴のメイン・プロジェクトになる。今でも活動しているよ。このバンドはCORONER、初期SADUSやSLAYERに影響を受けたオールド・スタイルなテクノ・スラッシュと呼べる音だね。C.O.T.以前に別のバンドをやっていたのは奴だけだ。2度ほどレコーディング・セッションをし



た後にTurbo-Rattle FingersがC.O.T.を離れたのは、そのメイン・バンドが大きな理由さ。他のメンバーとは反対に、あいつはC.O.T.をスタジオ・バンドにしておきたかったんだ。ライヴをやる時間が奴にはなかったからね。Astwülfの激しいヴォーカル・スタイルは最初のリハーサルの時から自然に生まれていたよ。Goddess H.C.はとても若い時から、ロックンロール主体のGIRLSCHOOLやGUNS'N'ROSESぽい、全員女性の趣味レベルのバンドでドラムの叩き方を学んできたようだ。Turbo-Rattle Fingersが抜けてすぐに、あいつの後釜にSplatterheadがベースとして加入することになった。Splatterheadもそれまでは真剣なバンドは経験してこなかったね。AstwülfとGoddessがSplatterheadのキャッチーなスタイルを気に入っちまってさ!これがC.O.T.の最初の完璧なかたちさ。ギターのThermoNuclearThrashard（以下、TNT。Splatterheadの兄弟）は最近、クロスオーヴァー/パンク・バンドのMINKIONSでシンガーもやっている。初期SUICIDAL TENDENCIES、D.R.I.、WEHRMACHTを連想させるバンドだな（VOETSEK、BARBATOSと3ウェイをリリースしているよ）。結局のところ、俺たちはクオリティの高いミュージシャンでもなけりゃ、楽器の経験が豊富なわけでもないぜ。情熱と怒りをぶちまけているだけの、4人のダーティなクソッタレさ。たぶんそれは俺たちの音楽スタイルになっているし、君はそこを評価してくれたんだと思うな!」

■CHILDREN OF TECHNOLOGYの結成はどんな風に?

「さっきも話したように、C.O.T.は3ピースで始まった。俺たちはバーに座り込んで酒を飲みながら、地球の終末を暗示するような黙示録映画のシーンについて話していたんだ。そこでアイデアが生まれ、ロッキンで残酷な音楽に突き進むシナリオが出来あがっていったってわけさ。エクストリームな音楽への俺たちの情熱は、このプロジェクトからくるところがデカいかもな…」

■君たちのCD-Rを買った時は物凄く驚きました。MAD MAXのようなイメージもあるし、CARNIVOREやもちろん、MOTORHEAD、DISCHARGE、SACRILEGEなどもの影響も感じましたが。

「本当か!?CD-Rを手に入れてくれたってのか!?!やったぜ!あれは俺たちの初めての"作品"なんだぜ。CD-Rを作ったのは、仲間や親しいジン/レーベルを通じて、C.O.T.の名前を広めるのには金のかからない方法だったからね。東京のレコード・ショップのBOYではMFG（G.A.T.E.Sのギタリスト）が間に入って連絡を取り合って、すぐに50枚（それ以上だったかな?）を日本のマニアのために注文してくれたよ!もちろんイメージとしては、核戦争後の世界、デニムにパッチ、武器などが心にあったね（笑）。君があげたバンドには大きな影響を受けているぜ。特に前のギタリストはMOTORHEAD、ROSE TATTOO、CARNIVOREにかなり近いな。兄弟（SplatterheadとTNT）の出現によって、ラインナップも変わったし、その他の面も変わったね。オリジナリティと他にない独特なものを持ったSplatterheadのギターとTNTのベースは、C.O.T.に強烈なパワーをもたらしてくれた。他にインスピレーションを与えてくれたのは、ENGLISH DOGSとBROKEN BONESの中期、初期ONSLAUGHT、BATHORY、BLACK UNIFORMS、TANK、G.I.S.M.などだね」

■ハードコア/パンク・ミュージックとの最初の出会いも教えてください。イタリアのバンドでしたか?WRETCHEDやDECLINO、IMPACTなどの80'sのイタリアン・ハードコア・バンドからの影響は感じないですが、そこいらへんのオールドスクールなイタリアのバンドに関してはどう思っていますか?

「兄弟はパンク/ハードコア・シーンにどっぷりだね。Astwülfはハードコア/パンク以上にポスト・パンクや80'sゴス・ロックに夢中だな（CHRISTIAN DEATH、JOY DIVISION、VIRGIN PRUNES、CURE…）。Goddessは後期のパンク・クラストを発掘したりしているよ。これは旅に似たような感覚らしいね。新しいジャンルを発見し、そこから違うテイストを感じ取るのは、音楽好きの生活にとっては素晴らしいことだと俺たちは思っているよ。このバンドに関しては、君があげたような80'sイタリアン・パンクの影響は受けていない。UKの古典や日本、アメリカの現行のバンドのほうにインスパイアされているね。でも兄弟は栄光の80'sイタリアン・ハードコア/パンク・シーン（WRETCHED、EU'S ARSE、UPSET NOISE…）の猛烈なファンだな。一方Goddessは昔のイタリアン・スラッシュのほうに夢中だ（NECRODEATH、BULLDOZER、SCHIZO…）。Astwülfが好きなのは初期RAW POWER、NEGAZIONE、PUTR







ID FEVERのような速いバンド、他にJESTER BEAST、NEURODELIRI、INCINERATORのようなクロスオーヴァー・バンドかな。ところで、イタリアには過去に本当に素晴らしい状況があった。君はとっくに名前を知っているよな…」

■ところでメタルやハードコア、ロックンロールは君たちにとってはそれぞれ別ものになりますか?それとも近い存在?どう考えていますか?C.O.T.はこれらをミックスし、新しいものを作り出しているようにも感じますが。

「メタル、ハードコア、ロックンロールは音楽的に全く違うよな。でもこの荒々しい音楽を特徴づけている反抗や怒りってものはそれぞれ共通しているね。俺たちはあらゆるジャンルのファンだから、自然に混ざり合ったものが生まれてくるんだろうね」

■短期間に多くの作品をリリースしているのも興味深いです。シングルにスプリットEP、そしてアルバム。音楽だけでなくアートワークも素晴らしいですが、アートワークに関してはやはり拘りがありますか?

「ああ、強い印象を与えるアートワークや写真が好きだし、自分たちの作品に特徴を持たせるものがいいね。独特なテーマ/内容、質のいい絵やキャッチーなタイトル。ガキの頃から俺たちが夢中になっているものをいくつかあげてみるぜ。IRON MAIDENにMOTORHEAD、それからCELTIC FROSTなどのLPジャケットの素晴らしいアートワークに魅了されてきた。写真を使った作品も同じだな。超トンガッたJUDAS PRIEST、血なまぐさいW.A.S.P.、冒涜のSARCOFAGO、銃弾マニアックスのDESTRUCTION、荒くれたVENOM、緊張感のあるDISCHARGE、他にもPLASMATICS、MISFITS、DEATH SS、IMPALER…。時が経ち、俺たちも大人になったが、昔の偉大なアイドルのショッキングで強烈なヴィジュアルにずっとはまったまんまだぜ。それをC.O.T.にぶち込んでいるのさ!!!」

■作品のいくつかはすでにソールド・アウトしてレア盤になっていますが、再発の予定はありませんか?

「過去のシングルやスプリットは再プレスの予定はないんだ。ごめんよ。音源集みたいなものは考えているんだけど、いつ実現できるのかわからない。たぶん2011年の頭くらいになるかな。他では見られないアートワークや写真になると思う。もちろん、全曲の歌詞も掲載するつもりでいるんだ。今までの作品を買い逃したファンにとっては、完全な"初期作品"コレクションになるだろうね。LPヴィニール、CD、カセットテープなどのフォーマットにするつもりでいるよ」

FOUR UNHOLY DOGS OF THE NIGHT PLAYING BATTLE HYMNS USING STREET WEAPONS IN A POST-ATOMIC AGE
CHILDREN OF TECHNOLOGY
SPEED Motörcharged CRUST

■自分たちを"Motorcharged Speed Crust"と紹介していますが、これって誰の考えですか?クールですね。

「それはAstwülfから生まれたクレイジーなアイデアだね。DISCHARGEとMOTORHEADスタイルを見つけ出した後に、C.O.T.のサウンドが出来上がった。C.O.T.の特徴を方向づける"Speed Metal"も使いたいんだが、俺たちのサウンドにはあまりにタイト過ぎる。それで"Speed Crust"としたんだよ。"Speed"は速くてロウで狂ったメタル、あるいはピュアなエネルギーを表すだろ。もちろん"Crust"は俺たちがクラストに影響を受けているとしても、そのジャンル以上に特別なものを表している。それで、"Motorcharged Speed Crust"とレコードに入れているんだよ!!!」

■イタリアではどんなバンドと共演しているのですか?ハードコア・バンド?それともメタル・バンド?オススメのバンドはいますか?

「イタリアじゃ、いろいろ違うバンドと共演しているんだ。メタルとパンクのどっちともね。会場もクラブでやったり、パブ、スクワットでやったりと決まっていない。誰とやるか、どこでやるか、それは俺たちには重要じゃないんだ。でも情熱あふれる奴らと、本気で音楽を楽しめる状況でやれるなら、それは申し分ないけどね。薦めたいバンドというと、MINKIONS、CANCER SPREADING、CAMPUS STERMINIIかな」

■最近のイタリアン・ハードコア/メタル・シーンをどう思っていますか?良い面/悪い面を教えてください。

「近頃のイタリアン・メタル・シーンは良いバンドが少ないな。クローン・バンドの上塗りみたいだ。ほんの一握りが良いバンドと呼べるだけ。メタル・シーンには反感や嫉妬がはびこっていて、アンダーグラウンドは根っこから崩壊しているよ。クラスト・シーンはうまくいっている感じがするな。お決まり







の問題はあるけど、勘違い野郎は少ないし、ギグをやるのも、協力しあう体制もできているよ」

■シンパシーを感じるのはどんなバンドですか?BLUDWULFやG.A.T.E.S.、INEPSY、DISHAMMERなどのようなバンド?

「現行のバンドって意味かな?そうだね、俺たちはINEPSYと良い友情を築いているぜ(去年のINEPSYのヨーロッパ・ツアーで、うちのベースがヘルプで参加したんだよ)。G.A.T.E.SのNegishiとTatsuにも2回会っている。本当に素晴らしい2人だよ。彼らとスプリットをリリースできたのは誇りだね。TOXIC HOLOCAUSTも好きだな。Joelは本当に良いやつだ。BLUDWULFはメタル/パンクを見事に表現しているバンドの一つだよな。他にジャンルは違うけど、USAのDIE WASTED、スウェーデンのSONIC RITUAL、日本のPARASITEもそうだね」

■曲を作る上で重要視しているのは?

「この答えを考えるのは妙な気分だな。いつだって予習なしに曲が生まれてくるからね。重要視していることなんかないんだよ。ただ一つあるとしたら、新しくてオリジナルなもの、自分たちにとって特別なものを作ることだね。俺たちの曲を聴いてくれたら、それぞれの曲が他のとは違うことがわかると思うよ。君が感じたものだけが、俺たちのスタイルさ」

■「No Fuel No Hope」は何回かレコーディングしていると思うのですが、この曲は一番のお気に入りなのですか?

「再レコーディングしたのは「No Fuel No Hope」だけで、2回レコーディングしているんだ。だから全部で2つのヴァージョンがあるぜ。オリジナル・ヴァージョンはデモ(CD-R/テープ)に収録し、CANCER SPREADINGとの1st 7"EPスプリットにも入れたよ。これはC.O.T.の代表曲になり(一種の「Ace Of Spades」、「Back In Black」、「Paranoid」のようなもんだね)、アルバムにも再録することにしたんだ…。ライヴでも燃える曲だしな!1stデモの他の曲も再レコーディングするつもりでいるんだ」

■イタリア語ではなく英語で歌うのはどうしてなんですか?理由を教えてください。

「理由は簡単さ。英語の響きはキャッチーなロックンロールにぴったりだからね!あとはAstwülfが曲にイタリア語を使うのが好きじゃないってのもある」

■アルバム・タイトルの"It's Time To Face The Doomsday"はDISCHARGEの「Doomsday」から?

「それは全くの見当違いだぜ。タイトルは地球崩壊の到来から生まれたんだよ。俺たちは直ちに破滅と向き合わなくちゃならない!君は俺たちの曲にインスパイアを与えるテーマを知っているだろ。"It's Time To Face The Doomsday"以上に世界の終末を予言するようなアルバム・タイトルを思い浮かばないよ、ハハハ!たぶんこのタイトルはSACRILEGEの曲の歌詞にある"It's time to face the reaper"から受けたインスピレーションを用いているんじゃないかな」

■では、君たちにとっての"メタルパンク"とは?

「メタルパンクはピュアなライフスタイルだね。ファッションと文化の間でもあり、CIRITH UNGOLやMISERYの両方を熱狂的に楽しむ生活に幸福を持ち込んでくれる味わいでもあるな。俺たちはスタイルや音楽の教科書に従うやつらが大嫌いだ。だから"新しい"ムーヴメントは音楽の中で同じアティテュードを共有する者たちの情熱からしか生まれない。しかし、新しいものは何もない。メタルパンクは過去の灰から蘇る」

■バカバカしい質問だけど、フットボールは好き?ワールドカップは見ました?

「金儲け主義のフットボール・チームなんてクソだね、ハハハハ!!!」

■今後の予定や目標を教えてください。

「ちょうど今、イタリアや他の国で5回のショーを考えているんだ。いつか日本とアメリカでもやってみたいね。アルバムのCDヴァージョンをリリースした後の予定は特に決まっていないんだけど、2011年のアイデアはいくつかあるよ。もちろんスプリットも2作品以上作るつもりでいるしね。でもサプライズを連発できるかは確信できないんだけどさ!新しい曲も書いているよ。地球最後の日を迎えた後にはどんな未来が広がっているのか、自分たちの目で見てやるつもりでいるぜ…」

■日本の読者にメッセージをお願いします。どうもありがとう!

「将来、君たちの国でプレイしたいね。スピードクラストを君の顔面めがけて叩きつけてやるぜ!!!Stay motorcharged!!!ツアーで会おうぜ!!!」





Dishonorable Discharge

NORWEGIAN ANARKI AND KAOS

スカンジナビアに位置するスウェーデン、フィンランド、デンマーク、そしてノルウェー。
…どうもノルウェーだけ突出して影が薄いような気がしてならないのは、僕だけでしょうか?80年代のバンドならFader WarやSvart Framtid、レーベルだとSvart Framtid～Kafka Prosess～So Much Hateなどでプレイしていたが主宰したX-Port Plater辺りは認知度が高いように思えますが、それでもスカンジの他国と比べてしまうと地味な印象が拭えません。
そんなわけでのノルウェー特集です。まずはex After The Bombsのメンバーがいることでも話題になったDishonorable Dischargeのインタヴューをお送りしたいと思います。寄せられた回答を読むまで全然知らなかったのですが、メンバーが関わっていた/いるバンドを列挙するとStatens Menn、Hevn、Summon The Crows、Knuste Ruter、Infamy、Longing For Dawnと、現行のオスロ・ハードコア・シーンの主要メンバーが集まっていると言っても過言ではないラインナップです。当地のシーン事情も含め、色々と聞いてみました。
そして、この8月に来日したばかりのYum Yumsのメンバーも在籍し、フロントに立つ女性ヴォーカルは元ポルノ女優というポワー・ポップ・バンド、Caroline And The Treatsのインタヴューへと続きます。
同じノルウェーで同じパンク・バンド(音は全然違うけど)として活動しながらも、100%接点がないと断言出来る組み合わせ。両バンドから、「なんでこんなバンドとうちらが一緒に載ってるの???」と疑問符を大量に投げつけられそうですが、楽しんで頂ければ幸いです。

■まず、Dishonorable Dischargeというバンド名なのですが、バンドのDischargeとは無関係ですか?どんな感じでDishonorable Dischargeを結成したのでしょう?

K「俺が覚えている限りじゃ、Dischargeにインスパイアされたバンドをやろうぜって、Larsenと俺が思いついたんじゃなかったかな。俺たちはオスロの違うパブで呑んでいたんだが、ぐでんぐでんに酔っぱらってDischargeの歌詞を叫んでいたんだ。まぁ、実際のところは本当に思い出せないんだけど、Stianがカナダから戻って来た2006年のいつかだったはずだよ。Dishonorable Dischargeって名前は、ろくでもねぇことをして軍隊から追い出されたって意味だ(不名誉除隊)。元々の発想はDischargeの完璧なコピーになるってことだったんだが、俺たちは酷いもんだから、今じゃこの名前も面汚しだな」

TARJEI「誰かバカな奴が正式なヴォーカルとして見つかるまでの、一時的なもんだとメンバーが約束したから俺はヴォーカルとして加入したんだが、あいつら俺を騙しやがったんだ、ハハハ!既に俺は4年近く在籍している。俺たちはストレートなハードコア・パンクをプレイしているけど、もしDischargeが俺たちのキーワードであるなら、それはDischargeにとっては汚名とも言える形容だな。一度だけ、Dishonorable Disorderとしてショーをしたこともあるぜ」

■After The Bombsのメンバーもいるんですよね?カナダのバンドだったはずですが、彼はノルウェー人なのですか?カナダからオスロに戻って来たの?

STIAN「俺は2004年から2006年までAfter The Bombsでギターを弾いていたんだよ。2000年の後半にカナダに引っ越して、After The Bombsで行った2006年5月の北米ツアー後に、ノルウェーに戻って来たんだ」

■Dishonorable Dischargeに関する質問じゃなくて申し訳ないのですが、After The Bombsってどうして解散したのでしょう?

STIAN「俺の知っている限りじゃ、バンドを作ったメンバーの2人が解散を決めたんだよ」

■メンバーはそれぞれどんなバンドでこれまで活動していましたか?

TARJEI「ドラムのLarsenとやってた、Going Underというバンドで歌っていたぜ」

K「Statens MennやHevn、それにもっと沢山のバンドで活動していたよ。最近じゃ、Summon The Crowsでもギターを弾いて歌っている。ほぼ休止中だけど、すぐにまた忙しくなるだろうな。ファストなメタリック・クラストだ。あとはKnuste Ruterでも歌っていて、こっちは伝統的なノルウェー・ハードコア・パンク・ロックだな」

STIAN「Infamyっていうハードコア/クラスト・バンドをLarsenと、それとLonging For Dawn(フューネラル・ドゥーム)、After The Bombs(メタル・パンク・クラスト)。新たにHjernesvikt(rawだな)ってプロジェクトも始めたところだ」

■例えばX-Port Platerからリリースされていたような、ノルウェーのハードコアってあなた達にとってはどうなんでしょう?スウェディッシュD-Beatからの影響はかなり感じますが。

TARJEI「俺はAnti Cimex、Avskum、Crude SS、Asocial、Mob 47、Crudityなどといった古いスウェーデンのバンドは好きだぜ。ストレートなハードコア・パンクのスタイルだ。





俺がバンドでやりたいのはこういうもんだしな!けど、ノルウェーのFader War、Psykisk Terror、それにForbudt Ungdomといった素晴らしいバンドも忘れちゃいけない。こういったバンドは前述したスウェーデンのバンドと同じくらい最高だ!Dishonorable Dischargeにおいての俺にとっては、Dischargeと今挙げたバンドからの影響はでかいよ。ノルウェーのハードコア、X-Port Platerのバンド(ノルウェーの80'sな)は恐らく今でも俺にとって最も重要なパンクであり、ベストなものさ。叙情的なバンド、BannlystやBarn Av Regnbuen、Kafka Prosess、Stengte Dørerなんかの音楽性からもかなりの影響を受けているな。ピュアで正直な音楽でさえあれば、歌詞が欲望や戦争、搾取といったものであろうと、団結や連帯、慈愛、共有、そして個人的な問題といったものであろうと、俺は毎日、いつだって影響を受けているよ」

K「Anti Cimexの「Raped Ass」EPは最高のレコードだよな。それにCrude SSもグレートだ!古いノルウェーのバンドの大部分も大好きだよ。けど、Bannlystだけがこのバンドに関しては影響を与えていると言えると思うな」

STIAN「X-Port Platerからリリースしていたノルウェーのバンドの多くはスゲェよな!俺たちに影響を与えたのなら、BannlystとSvart Framtidからの影響は明白だぜ」

■ところで、曲作りはどうしているのですか?

K「まずはリフを作ってそれからどうするかを、練習しながら議論するのが普段のやり方かな。大体、リフを弾いては出来る限りシンプルに曲が終わるようにしている。そして目一杯速くプレイするってことだ!」

TARJEI「そうだな、いつもKかStianがリフを思いつく。それから俺やLarsenを交えてどうやって曲として組み立てていくか一緒に色々と議論を重ねる。最終的に曲を出来る限り速くプレイしてから、歌詞の概要が湧き出てくる。それで完成って感じだな!」

STIAN「俺たちって気難しいところもあるから、曲が完成したとしても30〜40曲くらいはボツにしているぜ」

■では、歌詞を書く際に大切にしていることは?

STIAN「俺たちの歌詞は戦争、不公平、欲望、虐待などに関するものだ。俺が歌詞を書く時に最も重視していることは歌詞に"正しい"言葉を使うことだな。あからさまになりすぎずに、それでいて意味が伝わるようにしているよ。時にはバスに乗っている時に2分で出来上がることもあれば、永遠に書けない時もある」

TARJEI「ああ、歌詞の大半は、不運に苦しまなきゃいけない不公平に関することだな。一方じゃ、金の力で幸運を得ている奴らもいるっていうさ。俺は個人的なことについての歌詞も書いてみたいんだけど、他のメンバーが、俺たちはエモ・バンドじゃねぇんだよって書かせてくれないんだよな、ハハハ」

■ノルウェー語を使っていないのはどうしてですか?

STIAN「ノルウェー語の歌詞もいくつかあるが、ほとんどが簡単な英語だな。ノルウェー語は450万人くらいにしか使われてないからさ」

■盤のラベル面にピアノを弾いている兵士の写真を使っていますね。この写真は映画か何かからとったのですか?

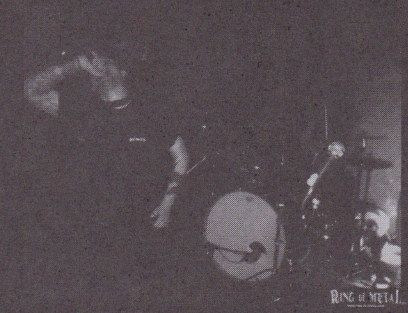


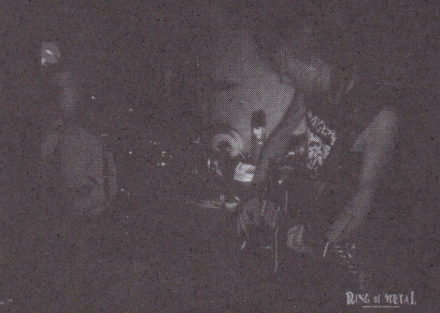
TARJEI「俺は以前、郵便配達/ポストマンの仕事をしていたんだよ。で、みんな異なった種類の色んな雑誌やら新聞を購読しているだろ。ある日、俺の配達ルートに入っているクソ野郎のジャーナリスト誌を読んでいたらさ、その写真が使われている記事にばったり出くわしたんだ。こいつはいつか使えるなと判断した俺は、そっとそのページを破り取ったんだ。ユーゴスラビアでの戦争中に撮影された写真だろうな。男(兵士)の二重性を表しているもんだと俺は思っているよ」

■最近のノルウェー・ハードコア・シーンについてはどう感じていますか?オススメのバンドとか沢山いますか?

みんな同じことをやって同じことを考えて同じ格好をしているんだ あまりにもファッション過ぎるぜ、自由がないんだ







TARJEI「ノルウェーは小さな国だし、オスロ以外じゃほんのいくつかの都市にシーンがあるだけで、オスロが全てみたいなもんだな。トロンハイム(中部の都市)には少しだけバンドがいて、あとはUFFAと呼ばれるDIYの会場がある。ベルゲン(南西部の都市)にはいくつかバンドがいるけど、他のもう2、3の都市は小さなシーンがあるだけだ。オスロにはDIYの会場が2つあって、それに商業主義のロック・バーもいくつかあって、時々そこでもパンクやハードコアのショーはやっている。俺が思うにここのストレートエッヂの連中はかなり活動的だ。そして大量にエモ/スクリーモの奴らもいるが、俺にはよく分からねぇ。良いバンドを挙げるなら、Knuste Ruter(Kが歌っているバンド)は伝統的な80'sノルウェー・ハードコアだな。それにDanger!Man(オスロの古くからいるパンクスによるメロディック・ハードコア)、Eminent Scum(アナーコ・クラスト)、Final Threnody(ネオ・クラスト)とかかな。レーベルやディストロもいくつかあって、俺も小さなレーベルだけどSjakkMatt Plater(Dishonorable Record Company)てのをやっているぜ。何かオスロ/ノルウェーに関して質問があったらsjakkmatt666@hotmail.comまでメールしてくれ」

K「近頃のハードコア・パンク・シーンはあんまり好きじゃないな。どいつも自分の考えってのがないように思う。みんな同じことをやって同じことを考えて同じ格好をしているんだ。パンクやアナーキズムとは自分自身であるべきものだし、自分自身を表現するものだと俺は思っている。あまりにもファッション過ぎるぜ、自由がないんだ。Danger!Manは実に良い新しいオスロのメロディック・パンク・バンドだな」

STIAN「最近のバンドでオススメはProblems、Eminent Scum、Knuste Ruter、Speedergarben、それにDanger!Manだ」

■日常についても聞きたいのですが、どんな生活を送っていますか?仕事はしてますか?

TARJEI「俺はヤク中のための、オスロのホームレス施設で夜勤しているよ。オスロはヨーロッパにおけるジャンキーの中枢だからな。問題は山積みだし、キメる奴らは大量にいるから施設はいつも満員だよ!昼間、俺が起きているとしたらパブにたむろっているか、時々はレーベルやディストロの作業をしているぜ」

K「今はバンドで演奏するのに時間を費やしている。政府から失業手当をもらっているんだよ。俺はパンク・ハウスに住んでいて、その家を修理したりもするけど、もうすぐ失業手当が切れちまうから仕事も探しているんだ」

STIAN「子供が一人いて、俺の自由時間の多くは子供に使っている。材木置き場でフルタイムの仕事に就いているよ」

■Dishonorable Dischargeをやってて、一番楽しかったことは?

TARJEI「InepsyやAvskum、それに他のバンドとも一緒にショーをして、良い時間を過ごしている。ブダペストからミュンヘンまで、安いシャンパンを呑みながらのパーティはナイスだったし忘れられないな(ラッキーなことにその時の写真があるから思い出せるんだ)。スイスのSchrottbar Bielフェスも素晴らしい経験だったな!」

STIAN「ショーでプレイして、みっともないほど酔っぱらってバカやって楽しんでいるよ。2009年のヨーロッパ・ツアーもすげぇ面白かったな、俺たちドイツのテレビにも出たんだぜ!!!!ハンブルグでの初めてのショーは、俺たちかなり呑んでいたけど全てが実にうまくいってベストなものになったな!最悪だったのはその翌日。キールでプレイしたんだけど、遅れが生じたりでイマイチだった」

■ちなみに日本のハードコア・パンクは好きですか?

TARJEI「あぁ、好きだぜ。良いバンドが日本には沢山いるから挙げきれないよ。色んなスタイルがあるよな!常にお気に入りなのはLip Cream、Death Side、Poison、Bastard、Systematic Death、Gogol Plex、Kuro、Outo。新しいバンドだとFramtidにKriegshog。えーと、このリストは延々と続けられるよ!」

K「俺も好きな日本のバンドは色々あるぜ。G.I.S.M.、Gauze、Death Side、Bastard、JudgementにFramtidが個人的には最も好きだ。日本には行ったことがないけど、かなりノルウェーとは違っているんだろうな」

STIAN「クラシックなバンドも沢山好きだ。The Execute、Crow、The Clay、Kuroとかね。"新しめ"のバンドも本当に楽しんでいるよ。Age、SDS、Disclose、Effigyとか、もっと色々とね。日本はパンクにとって素晴らしい場所のように思う。侍とかの古い伝統についても知っている。お前んとこの首相って忍者なんだろ?」

■今後の予定を聞かせて下さい。

TARJEI「ベルリンのPeace Bastardっていう最高のパンクスとのスプリット7"を、この秋に出せればなと思っている。それとビール/スイスのRinderherz RecordsがDishonorable Dischargeの音源を出したがっているみたいだな。あとは、出来ればまたツアーに出たい」

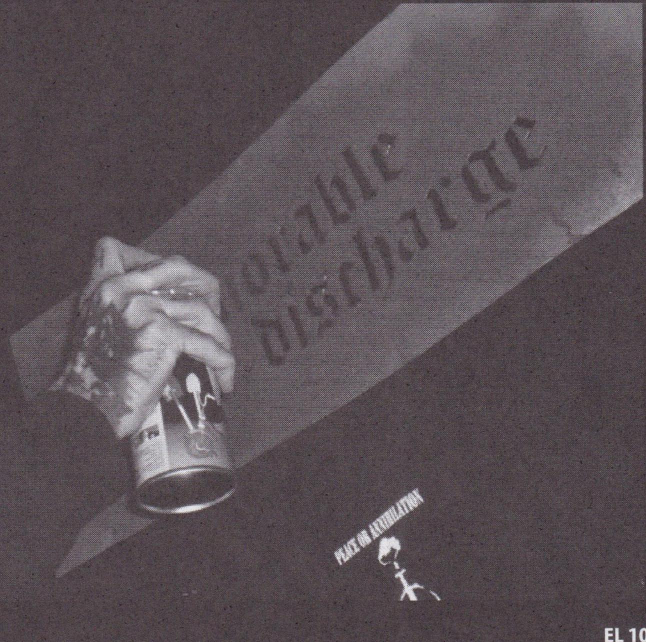
STIAN「1曲を提供したコンピがHeartfirstからリリースされるね。そうだな、またツアーが出来たらいいよな!」

■最後に読者にメッセージを。どうもありがとう!

K「BE YOURSELF - STAY PUNK!!」

STIAN「インタヴューありがとう、Kenji!全ての読者によろしく!俺たちの初めてのインタヴューが、遠く離れた日本からのものになるなんて!!!!俺たちの連絡先は:
ghostofmankind@gmail.com
www.myspace.com/dishonorabledischargeoslo」

Dishonorable Discharge is:
TARJEI - THROAT & INSULTS
K - LIGHTNING AXE
LARSEN - ASSAULT & BATTERI
STIAN - BUZZBOMB BAss





CAROLINE AND THE TREATS

NORWEGIAN ANARKI AND KAOS

ノルウェーのパワー・ポップ/ポップ・パンク・バンドYUM YUMSのフロントマン、モートンが新プロジェクトを始動した!それだけでも興味津々なのに、女性ヴォーカルだって?しかもその女性がポルノ女優なんて!このニュースだけで多くの男性ファンがサウンドそっちのけで、この情報に飛びついちゃったのは無理もないってもんだ。そして、リリースされたデビュー7"シングル(エロポストカード付き)は、その話題も手伝って1000枚があっという間に売り切れてしまった。そして待望の1stアルバムが2010年7月に早くもリリース!YUM YUMSそのままの軽快なロックンロールにのせて極上なポップ・メロディーを、キュートかつセクシーな女性ヴォーカルが歌い上げる、これぞまさにパワー・ポップ/ポップ・パンク・チューンで一気に人気に火がつくのも当然ってもの。早速、モートンではなくキャロラインちゃんにインタヴューを行いました!使って欲しいという写真にはエロ要素はなく残念かもしれませんが、動く(?)キャロラインちゃんを見ることができるサイトのアドレスも教えてもらいましたのでお許しを〜!あっ、サウンドは極上なので音源もチェックしてみて下さい。

INTERVIEWED:WSオニギリ　PHOTO:Antonio Campanella

■初めましてキャロラインちゃん。まずは自己紹介をお願いします。

「ノルウェーのロックンロール・ファンで、元ポルノ女優兼ストリッパー、そしてバブルガム・ロックンロール・バンドCaroline And The Treatsでヴォーカルをやっているわ」

■Yum Yumsは日本でも人気があるんだけど、そのリーダーでもあるモートンとバンドを始めた経緯って?彼との馴れ初めを教えてもらえないかな?

「モートンとは7年前に出会ったの。オスロにYum Yumsのライヴを見に元カレと一緒に行ってね。モートンが「女の子なんて僕に話しかけたくないんだよ」っていう歌詞を歌っている時に、「私は話しかけたいわ!」って思って、すぐ彼に恋に落ちたの。それから2年後に再び彼に会うチャンスがあって、すぐに彼と付き合い始めたの。それ以来、彼とはいつも一緒で、今はオスロの郊外のモスってところで一緒に暮らしている。私たちの家はHouse Of Rockって名付けられていて、たくさんのツアー・バンドのライヴもやっているのよ。Fleshtones、The Baby Shakes、Nikki Corvette、The Feversとかね。もうホントに楽しい環境よ!彼との生活はホントに最高なの」

■Caroline And The Treatsの他のメンバーも紹介してもらえるかな?

「去年、「Caroline's Birthday Party」っていうポルノ映画を製作している時に、そのサントラに最高なロックンロールを流したかったの。モートンがそれを助けてくれて私がタイトル曲の「Birthday Suit」を歌ったのよ。この曲はアメリカのThee Makeout Partyのヴァージョンで聴いたことがある人いるかも。話を戻して、その曲を早速レコーディングしてB面用に「Let's Do It」を作ったの。その音源をイタリアのRockin' Bonesがピンク・ヴィニールでリリースしてくれたのよ。その製作過程がすっごい面白くて、それでちゃんとしたバンドを結成することに決めたの。ベーシストはずーっとYum Yumsファンで私たちが良く知っていたグレン。彼はOoweesっていうポップ・パンク・バンドでヴォーカル兼ギタリストだったわ。そのバンドは解散しちゃったんだけど。彼はノルウェーでタトゥー・ショップを経営しているの。ドラマーのオレは私たちと同じ街に住んでいて知り合った。彼は典型的なやんちゃな10代って感じの子だったけど、ドラムを叩くことに関しては本当に最高なのよ。彼に叩いてもらいたくて、声をかけたら幸運にもオーケーしてくれた。このメンバーは最高に大好きなのよ!」

■最初のシングルはCaroline Andersen名義でリリースして、フル・アルバムはCaroline And The Treatsっていう名義なのはバンドとして活動したからなんだね。

「最初の7"シングルは、バンドとして活動していくなんて思ってもみなかったからその時だけのプロジェクトのつもりだったし。バンドを始めるんだったら私だけでやるんじゃなくて、きちんとバンドにしたいなと思ったから。こんなにも早く始めるとは思ってもいなかったけどね。だから"私"じゃなくて"私たち"にしたかったの。それで名前を変更したのよ」

■フル・アルバムすごい良かったです。キャロラインの声も可愛いしセクシーで、めちゃくちゃバンドのサウンドに合っていると思います。歌も上手いしね。信じられないんだけど、これが初めてのバンドなの?

「そう言ってくれてすごくうれしい!私は歌手じゃないし、これが初のバンドの経験なの。子供の頃に女子聖歌隊には参加していたけど。えへへ。Caroline And The Treatsで歌うことはすっごいすっごい楽しい。思う存分楽しみたいわ!すぐにでも日本に行って歌いたいな。絶対に最高にファンなロックンロールを披露することを約束するから!」

■歌詞はキャロラインちゃんが?だとしたら、どんなことを歌ってるのかな?

「共作もたまにあるけど、大体は私が歌詞を書いて、モートンが曲を書いているわ。私の歌詞は私の愛してることや、例えばアイスクリームとか男の子、ばか話やロックンロールについてね」

■これまでにリリースした音源はCaroline Andersen名義の7"と、Caroline And The Treats名義のフル・アルバムだけ?

「その通りよ!」

■7"シングル、アルバムのアナログはイタリアのRockin' Bonesのリリースで、アルバムのCDは自身のHouse Of Rockからですね。House Of Rockはあなたとモートンで始めたレーベル?どうしてレーベルを始めることに?それともう一つ、最初のリリースが自分たちのバンドじゃなくてYum Yumsでもキーボードを弾いてるVibekeのニュー・プロジェクトTwistaroosだったのは?

「"Bad All Over"を2010年の1月にレコーディングし始めた時に、Rockin' Bonesがアナログで出したいって言ってくれて、最初の7"シングルをリリースしてくれたことに凄い感謝しているから、アナログ盤をRockin'





Bonesにお願いしたかったの。春にモートンと私でHouse Of Rockという名前でレーベルを立ち上げようと思った。丁度その時期にモートンはYum Yums、Twistaroos、Caroline And The Treatsのアルバムを同時に完成し終わっていて、自分たちでリリースした方が良いんじゃないかって思いレーベルを始めることにしたの。その3作品は同じ日にリリースされて、オスロと私たちのホームタウンで2日間に渡って3バンド共同でリリース・パーティーを開催したの。最高に楽しかった！だからカタログ・ナンバーはただの偶然なのよ」

■今後のリリース・プランはあるのかな？

「今、丁度とりかかっているのは、私たちの家House Of Rockのライヴからのライヴ・レコーディングをリリースしようとして作業をしている。The Fleshtones、Paul Collins、Muck And The Mires、The Baby Shakesとか収録する予定よ。あとは、Death By Unga BungaとUse Meっていうノルウェーの注目している新人バンドをリリース予定。それと、誰にも見向きもされていなかったけど大好きな先人のバンドの再発とか、コンピレーション・アルバムをリリースしたいなって考えているの」

■Caroline And The Treatsは頻繁にライヴしているの？YouTubeでライヴ映像を見たけどお客さんがすごく楽しそうだった。でも、一番楽しそうだったのはキャロラインちゃんだったけどね（笑）。

「もう、ライヴってホントに最高！！！YouTubeにアップされているのはイタリアでのライヴ映像で、あの日はすっごい楽しかったのよ。ツアーももっとやりたい！秋にはノルウェーでライヴをたくさんやるわ。それから、来年のはじめにイタリアとスペインに行くの。日本にも行・き・た・い！」

■そうそう、君がテレビ出演しているのをYouTubeで見たんだけど。あれって何？

「ノルウェーでは私はテレビにいっぱい出演しているのよ。私は本名で公に活動した初のストリッパー兼ポルノ女優だから。ノルウェーのメディアは私のことを、女らしさとかセックスについての物議を醸すような意見をすると思っているのよね。私が性の自由や女性の自由についてオープンに話すから面白いみたいなの。あなたが見たのは多分「Valen TV」っていう番組ね。あれはバラエティー番組なの。コメディアンが、有名なさえないノルウェーの司会者の真似をして私の映画について質問するっていう。私はちゃんと回答したの、そうしたらノルウェーで問題になっちゃって…。私の口の悪さや放送禁止用語が原因でね」

■キャロラインちゃんへの個人的な質問なんだけど、今は普段何をしているの？もうポ

バンドは誰にも指図されることなく悪態をついても好きなだけ楽しむことができるもの！





ルノ女優はやめちゃったの？

「もう、ポルノはやめたのよ。ポルノ女優はすごく楽しかったんだけどね。今はバンドに集中したいし。バンドがそれくらいすっごい楽しいのよ。ポルノ映画にはこれまで12本出演したかな。企画ものは10本くらいね」

■そのDVDって手に入れられるのかな？こないだ日本に輸入しようとして税関でストップされた奴がいるんだよね。正式にダウンロード出来るサイトってあるの？

「うーん、私の出演した殆どの作品はwww.carolineandersen.comにあるわ（このページで作品のプロモを見ることができます。もちろんモロです）。今このインタヴューを読んでくれている人で興味のある人は、私にメールをちょうだい。そうしたら、ばれないように包装して送ってあげるから。えへへ」

■バンドで歌っているのと、映画で演じている違いって感じる？

「そうだなあ、両方とも私をめちゃくちゃにしてくれるけど、映画の場合はいつも監督がいて、こうして欲しいって言われることかな。それと映画会社や番組によってルールが違うから、思いっきり乱れたくても許されないことかな。その点、バンドは誰にも指図されることなく、悪態をついても好きなだけ楽しむことができるもの！それが最高！」

■どんな音楽に夢中になってこれまで過ごしてきたの？好きなアルバムとか教えてもらえる？

「10代の頃は、The Donnasの最初の5枚のアルバムが大好きだった。もちろん他の同い年の子のようにRamonesも聴いていたわ。Transvision Vampも大好きだった。去年、うちでウェンディー・ジェームスが演奏してくれたの。それにAnn MargretやPatsy Clineのような60年代のギャルも好きだったな」

■最近はどんな感じのを？

「最近だと、Nikki Corvette、Tina & The Total Babes、Detroit Cobras、The Queers、The Bunnies、5'6'7'8's等をよく聴いているわ。モートンが私にくれた最初のCDはTina & The Total Babesの「It's Tina Time」だったから、それは別格ね。他には、Jim Jones Revue、The Singles、The Fevers、The Fleshtones、The Swingin' Neckbreakers、The Devil DogsにもちろんThe Cosmic Dropouts、The TwistaroosにThe Yum Yums！」

■映画とかは好き？

「「Pervert!」や「ア・ダーティー・シェイム」みたいな、くだらなくて楽しませてくれるのが好きね」

■聞きづらいんだけど、知りたい人が多いと思うんで年齢教えてもらえるかな？

「26歳よ」

■Yum Yumsが来日するけど、一緒に来ないの？

「行きたかったんだけど、残念ながら行くことができないの。モートンと私は離れることが嫌なんだけど、今回はどうしてもスケジュールが合わせられなかったのよ」

■今後のプランや目的を教えて下さい。日本で会えればいいんだけどな。

「私もそれを願ってるわよ！日本にはすぐにでも行ってみたいの。Nikki CorvetteやThe Baby Shakesに話を聞いたんだけど、聞いた話全てが驚きなの。ライヴに来てくれる人のことや目にしたものとか」

■長々と付き合ってくれてありがとう。日本のみんなに伝えたいことがあれば。

「Caroline And The Treatsはいつでも日本に行く準備ができています！みんなに会えることを楽しみにしています。誰かツアーのブッキングをして下さい！キャンディーとキスだったらいっぱいあげるから」



NORWEGIAN ANARKI AND KAOS DISK REVIEW

TEXT:WSオニギリ(O)/PALA(P)/山路健二(Y)

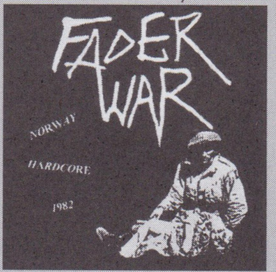
BANNLYST/LA DEM IKKE LURE DEG



押し潰した声のヴォーカルで好みは分かれるかもしれないが、このバンドは何と言っても速い。タイトなドラムが引っ張る強烈なサウンドと重圧かつ混沌としたギターが印象的。そして前に出まくるベース・ラインが滅茶苦茶カッコイイ!HEART FIRSTのサイド・レーベルから音源がまとめて出るようだが、一足先にオリジナルに忠実なブートが出ちゃいましたね。(P)

(X-PORT PLATER/X002)7" 1984年

FADER WAR/NORWAY HARDCORE 1982



ANTI CIMEXがまだDISCHARGEじゃなかった時期に既にDISCHARGEだったノルウェーの伝説!81年7月にこのサウンドは生み出され知る人ぞ知る存在だったがこのブートのお陰で日の目を見る。まんまDISCHARGEな曲も渋く五月蠅い激ノイジーなギターでSKITSLICKERSも真っ青?オリジナルは"V.A./INGENTING FOR NORGE"に収録。(P)

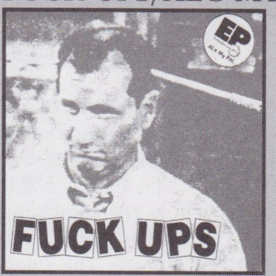
(BOOTLEG)7" 2006年

BASEMENT BRATS/TALES FROM THE BASEMENT



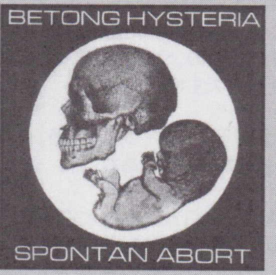
NUGGETSのメンバー等により結成されたバイキング・パンクの1stアルバム。この前年に7"がリリースされているけど、世間的にも彼等のサウンドが開花したのはこの音源でしょう。シンプルな3コードを基軸としながらもDEVIL DOGSを彷彿させるロックンロール要素も満載、そして疾走感もバッチリなファンファンファン!このバンドのヴォーカルMAGNUMがバンドを後に首になるんだけど、その一部始終を当時のルームメイトが本人から愚痴を聞いていた(爆)。(O)
(SCREAMING APPLE/SCALP107)12" 1994年

FUCK UPS/AL'S MY PAL



オスロ産Oi!も一発いっときましょう。オリジナル2曲とSHAM 69の"BOSTAL BREAKOUT"とCOCK SPARRERの"WATCH YOUR BACK"のカヴァー(ベタベタな選曲)も収録した彼らの1stシングル。キャッチー、シンプル&ファンな英語詞のOi!パンクで、ノルウェーっぽさは皆無です。せめてカヴァー曲くらいは母国語でやってくれれば面白かったのに…。90年代をサッと駆け抜けて消滅してしまいました。(Y)
(NIGHTMARE REC/KNOCK OUT REC GEMA KONS016)7" 1994年

BETONG HYSTERIA/SPONTAN ABORT



70's PUNKからHARDCOREの懸け橋的存在。言わばノルウェー版LAMAなんて解りやすいでしょうか。なんとも不穏のギターがヨーロッパのバンドらしい雰囲気を醸し出しており、速い曲はないがPOPかつ荒々しいハードコア・パンク・アタック炸裂!ジャケットから受ける印象ほどサウンドに期待はできないがオリジナルは激入手困難なだけに嬉しい正規再発。(P)

(Mind Expanding Records/MES04)7" 1983年

KORT PROSESS/SVART NATT



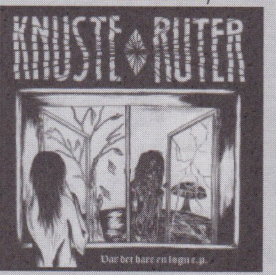
90年代初頭、ノルウェーのホルテンという人口2万人程度の町で、どうしてこのようなバンドが誕生したのか?!当地の80'sハードコアへの敬愛と激情を込めたかの、1曲1分弱のその刹那に戦慄が走る。タイトルは英訳すると"BLACK NIGHT"になるみたい(ずっと"1997"がタイトルだと思ってた…)。メンバーは後にHEVNやTOAMOLへと。封筒ジャケ+ブックレットもクールです。(Y)
(HEARTFIRST BEAT030)CD 1997年

DAGGERS/KISS THAT GIRL



オスロ産。90年にSTRAITJACKETSというレーベルから4曲入りでリリースされた7"(激入手困難。未だに探索中)から2曲を抜粋してUSリリースされたのが今作。まさにカルト・ポップ・パンク/パワー・ポップ。60年代ポップを思わせるゆったりなテンポにウーワッパッパ・コーラスで溜めに溜め一気にバーストして雪崩れ込む、ずるい展開がたまらない。裏面にはTHE WHOの"KIDS ARE ALRIGHT"のポップ・パンク・カヴァーを収録。このカヴァーは自分的にはありだと思ってる。(O)
(SYMPATHY INDUSTRY/SFTRI127)7" 1991年

KNUSTE RUTER/VAR DET BARE EN LOGN E.P.



2007年の結成で、DISHONORABLE DISCHARGEのKがヴォーカルをとるバンドの初単独音盤。DDのインタヴューで"伝統的なノルウェー・ハードコア・パンク・ロック"と自身が紹介しているように、メロディーが際立つサウンドはキャッチーなコーラス・ワークも含め素晴らしい。隣国スウェーデンのTRALLパンクとの共通項もどこか見出せるような…。(Y)

(SJAKK MATT PLATER No Number)7" 2008年

DRUNK/…AGAIN



ハードコア、メロディック・パンク好きにはノルウェーの二大巨頭となるSO MUCH HATEのエリックとLIFE BUT HOW TO LIVE ITのロジャーとトムによるバンドによる、それまでにリリースされていた7"シングルをまとめた編集盤。基本的にはSO MUCH HATEよりの男臭い哀愁メロディーを継承している。LBHTLIでも聴かせてくれたロジャーの忙しいテクニカル・ギターは減少気味だけども、やっぱり彼独特のサウンドになっているのがすごい。メンバーは現在DANGER!MANとして現役続行中!(O)
(FANS OF BAD PRODCTION/FOBP11)CD 1999年

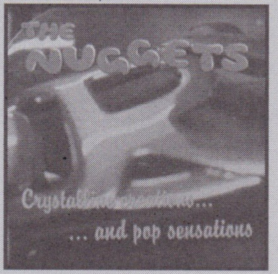
KWYET KINGS/THE SINGLES'N'SHIT



93年結成バンドでこちらは純パワー・ポップ・サウンドを聴かせてくれるバンド。7"シングルをまとめた作品で、オリジナル・アルバムよりも好きだったりする。70年代後期や80年代初期のパワー・ポップ・サウンドでキラキラしたポップを聴かせてくれる。STIV BATORSやTHE BEAT、THE LASTなどを思わせるメロディーが胸を締め付けてくれる。THE JAMの「DAVID WATTS」のカヴァーもあり。このバンドを聴いてノルウェー人ってポップ・センスに長けているなと思った。(O)
(DIONYSUS/ID123386)CD 2000年

インタヴュー2本に続いては、ノルウェーのパンクスが目にしたら「日本人のセンス(チョイス)ってワケ分かんねぇな」と思われるようなディスク・レヴューです。ここに載っている20枚の音源を全て持っているという人がいたら、節操なく音楽を聴きまくっている姿勢が最高だなと思います。
とにかく音楽なんて自由に聴こうぜ!FADER WARのパッチをつけたクラスト・パンツ穿いて、YUM YUMSのTシャツ着たっていいじゃないか!って、そんな人いないだろうけど、そんなノリの特集でした。そして、TURBONEGROを入れるの忘れていました…。それはまた次の機会に!
(山路健二)

NUGGETS/CRYSTALLINE CREATIONS...AND POP SENSATIONS



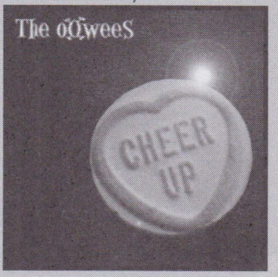
バブルガム・ポップの名盤コンピのタイトルをバンド名に付けちゃったバンド。BASEMENT BRATSのメンバーが解散後に始めたバンドで、後期BBのパワー・ポップ・サウンドを引き継いだサウンドかな。タイトル曲こそハープが入ってロックンロール・パンク色があるけど、スペインのCHEEKS同様モッド・ポップもあり、60'sバブルガム、サイケも吸収したパワー・ポップを聴かせてくれる。正直、スキップする曲もあるんだけど、良い曲が散らされてるからずるいんだよなぁ。(O)
(SCREAMING APPLE, 1+2/SCALP131, 1+2CD136)CD 2001年

SVART FRAMTID/1984



記念すべきX-PORT第1弾作品。割とこざっぱりとしたストレートな印象はあまり歪んでない音のせい?高音なヴォーカルのせい?しかし初期ノルウェーHCの重要作なのは周知の通り。初期スカンジHCに見られるDISCHARGEフォロワーな印象は薄くブチ切れ具合や爆発力はその後のKAFKA PROSESSやSO MUCH HATEで感じることができる。(P)
(X-PORT PLATER/X001)7" 1984年

OOWEES/CHEER UP



現在CAROLINE AND THE TREATSでベースをやっているグレンがギター兼ヴォーカルで活動していたパワー・ポップとラモーン・パンクの中間を奏でる日本人好みのキャッチーでノリもいいバンド。リーゼント・スタイルでドューワップもあったりと50'sの要素も含んだスウィート・メロディーはなかなかよろし、で単弦ギターも◎。7"とCDのみを1枚ずつリリースし完全沈黙中。何故か異様にパワーパフ・ガールズが大好きなことが足を引っ張ったのか(笑)?(O)
(GG/GG001)CD 2007年

TIP TOPPERS/DANCE WITH ME



YUM YUMSつながりでこのバンドも。モートンがKWYET KINGSのメンバーなんかとやっていたパワー・ポップ・バンドの1stシングル。モートンはギターで参加。カナダのDIODESとかを思い出すラモーン・パンクを基本に「うー」に「あー」のハーモニーを投入した甘酸っぱいメロディー。噂されていたオリジナル曲での2ndアルバムのリリースをせずに解散してしまいましたが、7"シングル数枚とアルバム1枚に、RAMONESの「Subterranean Jungle」の丸々カヴァー・アルバムもリリースしています。(O)
(SNEAKERS/SNEAK11)7" 2001年

PROCES/STENGTE DORER/SPLIT



ここにきて他の国のバンドの音源もリリースとなるX-PORT第4弾はユーゴVSノルウェー。リバーブのかかったヴォーカルにノイジーなギターとボコボコ・ドラムが印象的なPROCES。効果的?なサンプリングが入るがやや単調気味な曲が多い。STENGTE DORERはエナジー全開で追いかけるようなコーラスワークの冴えるスピーディーなHCでカッコイイ。スピード感は抜群。(P)
(X-PORT PLATER/X004)7" 1985年

TOAMOL/TRAGEDY OF A MIND ONCE LOST



ex KORT PROSESSとALLTID JAGETメンバーらによるカオティック・ハードコア。というわけで、NEUROSISっぽさやネオ・クラストな一面もあるが、SACRILEGEバリに刻んだ先鋭メタリック・パートでやっぱり燃える。全体を覆った薄暗い黄昏メロディも流石です。レコーディング/ミックスはSVART FRAMTIDなどなどのGunnarが担当。(Y)
(HEARTFIRST BEAT036)7" x 2 2005年

SO MUCH HATE/HOW WE FEEL



個人的にSVART FRAMTIDやKAFKA PROSESSよりSO MUCH HATE。LATE 80's HCはスピード命。ユーロ・ファスト・スラッシュは曲もカッコイイしスピード感が堪らん。凝った展開とリフはHERESYやNEGAZIONE級で最高としか言いようがない!しかしバンドを変えつつも歴史に残る音源を残してきたヴォーカルのGunnarって人は凄い。(P)
(X-PORT PLATER/X006)LP 1987年

YUM YUMS/SWEET AS CANDY



ノルウェー特集でこのバンド外したらマズいかなと思って。現在も数々のサイド・プロジェクトなどで精力的に活動するモートンの本業バンド。ぶっちぎりの疾走感のBUBBLEGUM POP PUNKでパワー・ポップ、ポップ・パンク・ファンを虜にしているバンド。BOMP! RECORDSの現行バンドと思えるほどのキラキラ感にポップ・センス、ロックンロール色が最高です。1stシングルで興奮して、このアルバムの1曲目の"CRAZY OVER YOU"で腰が抜けた(嘘)。それくらい好き。(O)
(SCREEMING APPLES/SCALP113)LP/CD 1998年

SUMMON THE CROWS/SCAVENGERS FEAST



DISHONORABLE DISCHARGEのメンバーも在籍している、オスロの次世代を担うダークネス・クラスト・コア。スカンジからの影響を受けた現行のアメリカのバンドに逆感化されたような荘厳重圧に迫りくるスタイルで、若干ブラック・メタルの要素もあり。速いのよりもミドル・テンポの曲の方が、動きまくるベースラインが活かされてて格好良いかも。(Y)
(CRADLE TO GRAVE SHACKLE 003/NAKKESKUDD PLATER NSP008)LP 2006年

V.A./NA ELLER ALDRI



前述の7インチよりスピードが倍増でヴォーカルのブチ切れが猛烈に危険なBANNLYSTに即死!この1曲の為だけにこのコンピを入手したくなること必至。続くPSYKISK TERRORはBANNLYSTと全く同じ音!同じバンドかと思うほど!このバンドも速い。KAFKAはSVARTよりスピード・アップ!B面はメロディーが際立つバンド多し。やっぱBANNLYSTが最高!(P)
(X-PORT PLATER/X003)7" 1984年



SCOTT HIDEO GOTO interview from DEFIANCE/BURNING LEATHER

PORTLAND HARDCORE SCENEにおいてDEFIANCE、BURNING LEATHERにてギタリストとして活躍するSCOTT君。彼のミドルネームを見れば分かる通り、日系である。日本と米国の魂を受け継ぎ、日本人の血が流れている事に誇りを持ち、左肩に日章旗のタトゥーを持つ彼は、必ずや日米ハードコア・シーンの架け橋になってくれるであろう!という期待も含め、今回のインタヴューを試みた。俺は彼が18歳の時から知っているが、なかなかのナイスガイである!11月にはBURNING LEATHERで悪AI意、THE SLOWMOTIONSとのJAPAN TOURも行われる予定なので来日した際はぜひライヴ会場に足を運んで頂き、ライヴ会場、そして打ち上げにて彼と飲み明かしてもらいたいと思います!

INTERVIEWED:Souichi(UNDER THE SURFACE/FORWARD/SMASH DETOX)

■生まれはどこだっけ?ハワイだったね?故郷はどんな所?

「1985年にオアフ島のホノルルで生まれたよ。ハワイはとても美しい町で様々な文化が融合している所なんだ。サーフィンしたり、泳いだり、ハイキングしたりできる場所が沢山あるよ。素晴らしい場所だと思うけど反面、人種差別、貧困、暴力、ドラッグが蔓延しているね(*筆者注:これは大多数の日本人が知らないハワイの陰の部分である)。昔はクリスタルメタンフェタミン(覚せい剤)文化においての世界の首都だったっていう事らしいしね(笑)。また実際小さな所だし、僻地だからっていう事には退屈してたよ」

■小さい時は自分は良い子供だったと思う?その時どんな物に熱中してたのかな?

「子供の時はすごく良い子供だったと思うよ。ビーチ行ったり、絵を描いたり、プロレスに任天堂のゲーム、バスケットボールに熱中していた。成長するにつれてそれらのものには興味が無くなっていって、しまいにはグレ始めて来て、酒飲んだり、ドラッグも覚えてね。ゴルフカートを盗んでトラブルに巻き込まれたり、高校を退学になったり。10代でよくやる馬鹿な事はやってきたよ。でも全体的にみても自分は良い子だったと思うよ」

■すごく個人的な事を聞くけど御両親は健在?君は日系人だけど日本に対しての思い入れみたいなものはある?

「俺の両親は元気でやっているよ。彼等は今もハワイに住んでいて60代半ばの人生を謳歌しているね。父親はオアフ島の全てのライフガードを統括している職に就いていて母親は精神科の看護師をしているんだ。そう、俺の父親も日系で札幌生まれだよ。彼は第二次大戦後の占領下の日本で最初のジャパニーズ・アメリカン・ベイビーだったらしいね。そして俺も日本人のように育てられてきた。日本の血が流れている事には誇りを持ってるよ。ただちゃんと日本語が話せればと思うね。年取ってくると言語を学ぶ事も年々難しくなるから」

■今迄日本に来た事はあるの?親戚とかどこに住んでるのかな?

「日本にはまだ行った事はないんだ。俺の日本の親戚とかはほとんどハワイにいるんだけども親戚の友人達は東京に住んでいるよ」



■パンクに目覚めたきっかけ、また最初に影響を受けたバンドは？

「俺がパンクに目覚めたのは14歳位の時だった。その時期、家族には色々とトラブルがあったんだけどパンク・ロックが俺に活路を見出してくれたんだ。最初に知ったバンドはTHE CLASHだったね。今でも大好きだ」

■ギターを始めた時はどんな種類のギターを持ってたの？また他のパートとかはやった事はある？

「ギターを初めて持ったのは母親のFender Mustangだった。その後にIbanez RGギターだね。今はGibson Les PaulとGibson SGを弾いてるよ。ギブソンのギターは好きなんだ！14歳の時にパンク・バンドを初めて作ったんだ。その時はドラムだったけどかなりひどかった（笑）」

■今迄どんなバンドをやってきたのかな？どんな音をやってた？

「最初のバンドはハワイでAMMUNITIONATIONっていうバンドだったんだけど当時の俺達の音はひどかったよ。CHAOTIC DISCHORDみたいなのでね。いつもひどかったね。その次にはTHE ERRATICSっての。82年のUKサウンドを目指してたんだけど、やっぱりひどかった（笑）。その後、MINDLESS REBELLIONていうクラスト/ハードコア・バンドをやってて皆でポートランドに引っ越したんだけど、程なくして解散してしまったんだ。そして、その後にBLOODSPIT NIGHTS/BOMB HEAVENのCoreyとDEADLY ULTRA SOUNDを結成した。俺達は日本のハードコアのサウンドを目指しててLEBENDEN TOTENのFrankのレーベルから1曲をスプリット7インチ用に出したんだけど、その後解散しちゃった」

■ポートランド・ハードコア・シーンについての質問だけど君から見てどう？また他の州のハードコア・シーンで好きな所はある？

「2003年、俺が17歳の時にポートランドへ引っ越したんだ。ポートランド・シーンは大好きだよ。小さい所だけどシーンはもの凄く大きいから。何時も何かしらライヴをやってるし良いバンドも沢山あるしね。POISON IDEAとTHE WIPERSは大好きなバンドだよ。沢山の素晴らしいパンク、ハードコア・シーンも他の州にもあるけど何よりも好きなシーンはポートランドとテキサスのオースティンだね。Chaos In Tejasは最高だよね。どういう意味か分かるよね？ソウイチ！あはは」

■普段はどんなバンドとよく対バンしているのかな？

「DOG SOLDIER、HELLSHOCK、TRAGEDY、DEATHCHARGE、THE CORPSE、POISON IDEA、LEBANON、RIPPER、PIERCED ARROWS、WARCRY、FROM ASHES RISE、PROBLEMS、TOXIC HOLOCAUSTとかかな。ポートランドは小さい町だから皆知り合いだし、ほとんどの所で皆とうまく付き合ってるよ」

■ポートランドのハードコア・シーンは本当に大きいと思うけど、他のシーンとの一番の違いはあると思う？

「正直に言うけど、あまり他の場所のシーンの事は良く知らないんだ。でもポートランドのミュージック・シーンは一般的に、いわゆる多芸多才なんだと思う。いつも沢山のジャンルとも共演する事もあるんだ。パンク・バンド、メタル・バンド、ロック・バンド、ハードコア・バンドetc。俺はポートランドとオースティンとミネアポリスはすごく似ていると思うよ。因みにポートランドの新しいバンドを挙げるとLEBANON、Tony Bartekの新バンドであるTHE CORPSE、GUIDED CRADLE、BELLICOSE MINDS、PIERCED ARROWS、DANAVAとか、沢山ありすぎて書ききれないね」

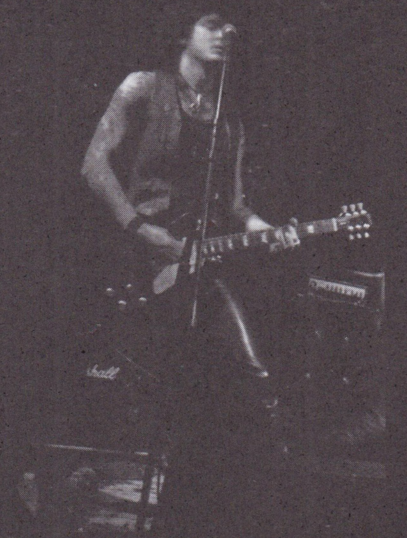
■君はどういうライフ・スタイルなのかな？パーティー好きなのは知ってるけどね。俺もだけど。

「大半の時間は音楽をプレイする事や、友達と遊んだり、また仕事したりする事に費やしているね。現在の仕事は、ピザを作ってデリバリーしてる。 やな仕事だけど、ライヴやったりバンドのツアーとか旅行の時は休みが取れるから良いんだけどさ。俺は沢山の時間を自分に使ってるよね。あと、そう、俺もパーティーは大好きだ（笑）」

■君はベジタリアン？ビーガンだったっけ？ほとんどの現在の日本人はベジタリアンでもないんだけどここ最近は増えて来た様に思うね。でもここではそういう人達が食べられる食品もまだまだ少ない様に思うけど、最近の若いパンクス達の中にはベジタリアニズムっていうのは確実に浸透して来てるよ。俺は違うけど。

「俺も昔はvegitarianだったけど今は厳密









に言うと違うね。今は魚を食べる様になった。日本料理が大好きだからね。沢山のveganやvegitarianがここポートランドにはいて、街のレストランには常にvegan、vegitarian料理が用意されているよ。勿論、俺はveganやvegitarianismを十分にサポートするけども、寿司も大好きだから。あはは」

■Brian Hopper(HELLSHOCK、BURNING LEATHER)がDEFIANCEを脱退した後に君が新ギタリストとして加入した訳だけど、一体何があったのかな?あと前回Hopperに会った時、彼はショーでステージ・ダイヴに失敗して誰もいない所に顔面から床に落下して、前歯を全て失ったと言ってたんだけど、それは本当なの?またそのショーには君はいたの?

「なんでHopperがDEFIANCEを離れたのか分からないんだけど、DEFIANCEにはいつもシンガーが2人要るっていうのは知ってた。俺は彼が沢山歌うとは思わなかったからね。Mike(DEFIANCE)は俺の親友で、その後に彼が一緒にやらないかと誘ってくれたんだ。で、俺も賛成したんだ。またDEFIANCEは俺が最初に聴いてた本当にリアルなパンク・バンドのうちの一つだったから。Hopperはしばらく俺にむかついていたみたいなんだけど、俺達は仲直りしたよ。俺が彼の代わりにギターを弾く事も、もう気にしていないしね。DEFIANCEは毎回メンバー・チェンジを繰り返して来ているからね。Hopperが前歯を失った時は彼がHELLSHOCKのツアーでSan Franciscoでプレイしている時だったらしいんだけど俺はそこには居なかったからね。ベイエリアのとあるホームレスがその前歯を付けている(笑)っていう話は何人からか聞いたよ」



■君はDEFIANCEやBURNING LEATHERの中でも最年少なのは知っているけど他のメンバーとは仲良くやってる?ジェネレーション・ギャップなんかはないのかな?あと他に新しくバンドを作ったりは?

「バンドのメンバー全員と仲良くやってるよ。彼等は自分達が若返る為に俺をからかって、俺は彼等に年を食わせる為にからかってるよ。あはは。彼等は色々な昔の出来事を良く話してくれてて、聞いてると俺もその時に居る事が出来たらと思うよね。結局の所、俺はこの世界で長い間やって来た人達と一緒にプレイ出来る事を誇りに思っているんだよね。最近ではベースをCYCLOTRON(仮称)っていう新しいバンドで弾いてて、メンバーにはTHE RIFFSとTHE HUNCHESのメンバーが居るよ。音的にはTHE FLAMIN' GROOVIES、ROLLING STONES、BEACH BOYS ON SPEEDって感じかな。パンク・バンドじゃないんだけどプレイする事は楽しいね」

■新曲とかは作ったりとかしてる?あと自分が入った事によって音が変わったっていう実感はある?

「Mikeと俺は今新曲を作っているよ、でもまだレコーディングも何もしてないんだ。俺達はまだHopperがプレイしている音源のリリースを待ってる所なんだ。俺が加入した事によって音が変わったかどうかっていうのはまだ実感としてはないね。因みにAlaric(ex-DEFIANCE、DOG SOLDIER)が歌ってる初期のアルバム2枚は大好きなんだ。彼のヴォーカルは最高だからね!」

■これからのツアーの予定なんかはあるのかな?

「今のところDEFIANCEで2011年の初旬にヨーロッパ・ツアーっていう予定はあるよ。近い将来には東南アジアをツアーしたいとも思ってるし。そして日本に戻りたいね!」

■ではBURNING LEATHERについて話してもらえるかな?メンバー紹介など。

「ヴォーカルはJason Roberts、彼の声は素晴らしいし、グレイトなミュージジャンだ。その上彼はドラムも叩けるし、ベースもギターも弾けるんだ。また彼はタトゥー・アーティストでもある。でも彼は変身ロボットのフィギュアが大好きなんだ(笑)。ベースはKelly HalliburtonでDEFIANCEでもプレイしてるね。また彼はPIERCED ARROWS、PROBLEMS、SEVERED HEAD OF STATEでもね。彼はいつもツアーに出ているよ。ツアーに出てない時には彼は建築の仕事をしているか、自宅の庭で遊んでいるかどっちかだね。Brian Hopperはもう一人のギターなんだけど彼の事は説明しなくてもみんな知ってるよね(笑)?彼はライヴをやってない時はバーでDJをやってるよ。で、ドラムはMarty Clay。彼等は素晴らしい人達であるから一緒にバンドをできることはすごく幸せな事だよ。全員パーティー・アニマルだけどね!」

■BURNING LEATHERの音を最初に聴いて思った事はサウンドがMOTORHEADに近いなと思ったんだけど、やっぱり皆もMOTORHEADが好きなのかな?あとモントリオールのINEPSYとかについてどう思う?

「BURNING LEATHERの音はMOTORHEADに似ている部分が沢山あるよ。彼等に一番影響を受けたんだけどまた俺達は全く別の音も出してるからね。人々の中には俺達の音がMOTORHEADのパクリだって馬鹿にする奴が居るけど、好きだと言ってくれる人達もいるからさ。俺達はそのスタイルでプレイする事を本当に楽しんでるよ。そしてもっとサウンドを進化させたいね。うん。INEPSYは大好きだよ。確かに俺達の音は似ているからね。何時の日か彼等と共演出来るのを楽しみにしているんだ。あっ、日本のCITY INDIANもMOTORHEADサウンドだよね!」



■曲は皆で作っているの？

「そう。皆で作っているよ。各々で曲を作ってくる時もあるし、最初から皆と一緒に作り上げていく事もあるよ。俺もいくつか曲を作ってて貢献しているね」

■日本のパンク、ハードコア・バンドは良く聴くの？お気に入りのバンドとかはあるの？

「ジャパニーズ・ハードコアは俺の大好きな音のうちの一つだよ！そこには心と魂がこもっているよね。率直だしパワーがある音だよ。ただ、願わくば、俺が歌詞を理解出来ればと思う事だね。バンド名の付け方のセンスも大好きだよ。例えば、G.I.S.M.、GHOUL、FORWARD、AI、CRUDE、JUDGEMENT、PAINTBOX、CLOWN、BLOWBACKとか。俺もいつかこういう感じで名前を付けたいよ。俺は日本の伝統的な音楽に基づいた日本のパンク、ハードコアが好きだ」

■今年の11月にBURNING LEATHERは悪AI意、THE SLOWMOTIONSとジャパン・ツアーを行うんだけど抱負を聞かせてくれないかな？

「すごく興奮してるよ！去年のChaos In Tejasで悪AI意と一緒に飲んだんだけど、彼等はすごくグレイトだったし、俺達は最高なライヴを観る事が出来たよ。小出さん（悪AI意）とはよくメールで連絡を取り合っているんだ。彼等と共演するのが待ちきれないね。THE SLOWMOTIONSも大好きだ。俺達と一緒に出したスプリットの曲も最高だったからね。あと「ダイアルを回せ！」LPも止まんない位聴いてるよ。ツアーは俺の夢が叶ったっていう感じかな。俺は絶対日本から帰りたくなくなると思うね！」

■君達はツアーで日本にもうすぐ来るんだけど特に興味のある都市ってある？

「日本の全ての場所に行く事に興味があるね。もちろん東京もだけど。多分、今迄見た事ない程の大都市なんだろうなと思うね。俺は未だニューヨークにすら行った事がないから東京はすごい所なんだろうと思うよ。大阪にはすごくおいしいものが沢山あるとも聞いてるし。出来る限り色々観てみたいよ。子供の時から日本に行く事は夢だったから」

■こっちに来るのを楽しみにしてくれているんだね。ツアーは本当に楽しみだ。

「出来る限りの事はしたいと思う。こっちで出会った全ての日本のハードコアの人達とまた再会したい。そっちの皆は酒の席では料理を沢山注文して食べると聞いているから、俺なんかそっちに行ったら食べ過ぎで心臓発作になるんだろうなって（笑）。俺は日本酒が大好きだよ！限界迄パーティーやろうぜ！Mr.ヒサタケ！」

■自分にとってのパンク、ハードコアとは？

「パンク、ハードコアは自分が正気でいられるもの。それがなければどうなっていたか分からないね」



■最後に日本のこれからのパンクスに一言お願いします！

「自分が幸せになる事をやって行って下さい。Stay Punk! Stay true! Kanpai!」

BURNING LEATHER(PDX,USA)/悪AI意/THE SLOWMOTIONS JAPAN TOUR 2010

11月
18(木)東京新大久保EARTHDOM w/CHERRIO, RANGE & THE DIRTY HOSPITAL, ISTERISMO ＊

19(金)新潟WOODY w/TBA ＊

20(土)横須賀かぼちゃ屋 w/RYDEEN, PROTESTATION ＊

21(日)浜松G-SIDE w/902

22(月)大阪KING COBRA w/NIGHTMARE

23(火)広島BORDER w/ORIGIN OF [M]

24(水)小倉FUSE w/狢

25(木)出雲APOLLO w/CARRIE

26(金)津山K-2 w/DISTURD

27(土)京都SOCRATES w/WARHEAD

28(日)三重CLUB CHAOS w/ACROSTIX ＊

29(月)名古屋HUCK-FINN w/九狼吽 ＊

30(火)東京中野MOON STEP w/FORWARD, NANOX, JABARA, G.A.T.E.S ＊

＊18日〜20日、28日〜30日 w/THE SLOWMOTIONS

info:UNDER THE SURFACE RECORDS
http://www.geocities.jp/utsrecs/
http://www.myspace.com/underthes

9 Questions Terror For Hardcore Punk Labels

前号で"PERSONAL PUNK HISTORY"という16人のパンクスによる特集をやってみましたが、同じ条件下でも人それぞれ反応/回答が全く異なり、並べることによって比較対照も出来るから面白いな〜と個人的に思ったのです。
そんなわけで今号では、海外のハードコア・パンク・レーベルに対して同じ質問を9つ送って、どんな回答が寄せられるのか試してみました。
自室のレコード棚を眺めて「そういえばこのレーベルってどういうスタンスでやっているんだろう?」と気になった10レーベルをチョイスし、薮から棒にメールしてみました。そして答えてくれたレーベルは6つ(得体の知れない日本のジンから突然連絡が来て、それにちゃんと応じてくれるのは大体このくらいの割合です)。
至極当たり前ですが、みんな音楽が好きだからレーベルをやっているということが分かりました(笑)。
こちらから送りつけた質問は以下。

①レーベルを始めた動機
②始めた当初お手本にしたレーベル
③レーベルの信条
④リリースする際に最も大切なこと
⑤インターネットとハードコア/パンクとの関係性
⑥活動を続ける上でのモチベーション
⑦最近のお気に入りのバンド
⑧今後のリリース予定
⑨読者に一言

ADULT CRASH FROM DENMARK

デンマークはK-Townを代表するレーベルの一つ、Adult Crash。
自国デンマークと隣国スウェーデンのバンドの作品が多いのですが、ファースト・リリースのHJERTESTOPに始まって、INSTÄNGD、SKITKIDS、U.X. VILEHEADSなどなど、安心して"レーベル買い"出来る貴重な存在です。

①「以前にやっていたレーベルが終わっちまったからAdult Crashを始めたんだ。俺は別の名前のレーベルで15年間、レコードのリリースに関わってきたんだけど、今でも地元のハードコア/パンク・シーンに貢献していきたいからね。DIYのハードコア/パンク・レコードのプロジェクトに携わるのは本当に楽しいよ」

②「これといって参考にしたレーベルってのはないかな。俺はいつも様々な非営利プロジェクトやDIY論理には概してインスパイアされているよ。例えばDischord Recordsみたいな、地元のシーンにのみ焦点を当てたようなレーベルが本当は好きなんだけど、コペンハーゲンは小さすぎるし、Adult Crashが"コペンハーゲン限定"タイプのレーベルであるにはバンドもちょっとしかいないからさ。それに俺には、あらゆる場所に素晴らしい友人たちがいるからね。刺激をくれるレーベルや人々だったらそれはもう沢山いるよね、本当挙げきれないくらい沢山いる」

③「リリースされたレコードを見たいと思わせるようなバンドの作品を、俺は楽しみながら出しているだけだぜ。気の合う奴らと一緒にDIY&アンダーグラウンドなことをやるのが好きなんだよな。全体的なクオリティを妥協することなく、出来るだけ全ての作品を安価に保とうといつもしている」



④「実際にレコードをリリースするまでの計画や、やることなすこと全てを正直に言えば俺が最も楽しんでいる。バンドが最終的な結果に喜んでくれれば俺も嬉しいかな。レコードが実際によく売れて、俺のベッドの下のスペースを長期間占領しないでくれれば、そりゃ明らかに良いことでもあるけどさ。最近はディストリビューションや販売、トレードなんかに俺はすげぇウンザリしているってことを認めなくちゃならない。最近ネガティヴなことに沢山関わっちまってね。ビジネス的な側面がイヤでしょうがないんだ」

⑤「インターネットはそりゃ便利だよ。近頃じゃセットアップさえしちまえば、トレードやリリースを告知するのはとても簡単だし、迅速に、より多くの人々に伝えられる。けど、俺が思うに負の面もある。全てがラクチンになってアクセスしやすい。そしてみんな、俺が重要だと思っているような、余計な努力をしないようになる。こんな考えは多くの人は分かりきっているだろうけど、それでも、あまりにも多くの奴らがFacebookやTwitter、Myspaceなんかでバラまかれた次のトレンドに容易くのっかっている」

⑥「狂ったハードコア/パンクの世界を通じて知ることとなった素晴らしい人々。このクソみたいな都市からグレートなバンドは少しばかりいなくなっちまったが、継続的に関わるべき(あまりにも多くの)プロジェクトがあるからね」

⑦「コペンハーゲンならDeath Token、Hjertestop、Love Potion、Moonless、Night Fever、そしてUndergang。今週俺が聴いていたのは、Herätys、Degial、Robert Johnson、Poison Idea、Incantation、Blue Öyster Cult、Ghost、Self Abuse、Framtid、In Solitude、Muddy Waters、Male Nurses、Diocletian、Rudimentary Peni、Hårda Tider、Sadistik Exekution、Bad Religion、Ättestupa、Uniform Choice、Panphage、Crass、Deskonocidos、Death Side、Creedence Clearwater Revival…。俺は自分がひでぇキチガイだってのは分かってるよ!」

⑧「自分のレコード・コレクションとして持っていたいものをリリースし続ける。いくつか新しいプロジェクトもあって、これらに関わることが出来て嬉しいぜ。
NUKKETEATTERI/Tervetuloa helvettin... E.P. - 再発/もうすぐリリース　HJERTESTOP/new E.P. - 新曲5曲がレコーディングされたところ　DEATH TOKEN/LP - 17曲がもうすぐレコーディングされる(そう願ってる)　NIGHT FEVER/2nd 12"　QUICK FIX/2nd E.P.　VA/K-TOWN HC E.P.　その他にも色々とあるよ」

⑨「トレードなりなんなり、気軽に連絡してくれよ。日本のハードコア/パンクは最高だ!!!!2011年1月の、Nuclear Death Terrorのジャパン・ツアーもチェックしてくれ。そこで会おうぜ…」



GRITA O MUERE FROM SPAIN

バルセロナを拠点とするレーベルで、数年前にはDISFACEやELEKTRODUENDESといったメロディアスなスパニッシュ女性ヴォーカル・ハードコアを出してくれていました。最近ではINFÄME(主宰者のAlejoが在籍)やHORRÖRなどのリリースでもその名が知られているのではないでしょうか。

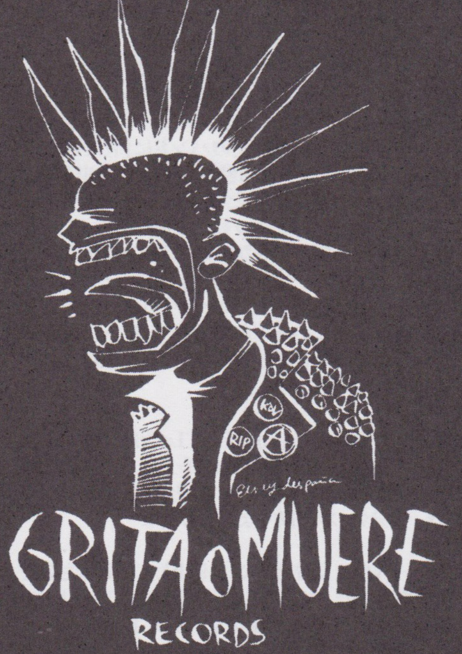
①「レーベルを始めたのは俺が昔やっていたKarton De Vinoってバンドのデモを出したかったからなんだ。それに他のレーベルの奴に頼んだとしたら、そいつがデモを出したいんだか、その真意を聞かないとならないし。(他のレーベルにリリースを頼んだ)Elektroduendesのデモの時点でも問題が発生していたから、全体のプロセスで再び遅れを生じさせたくなかったんだよ。自分のバンドのリリースを誰かに頼るのはD.I.Y.じゃないなって思って。俺がリリースしたレコードの50%は、俺が関わっていたバンドだしね。レーベルをスタートさせてからほぼ10年が経つけど、変わらない希望と熱意を持って続けるよ」

②「最初は手本にしたレーベルは一つもなかったんだけど、スペインのレーベルから次第に色々なことを学んでいったよ。Intelectual punx、El Lokal、DDT、Potencial HC、Kamilosetasとかからね…。学びはしたけど、彼らのようになりたいとは思わなかった。それからは外国のレーベルのやり方も参考にしていったね」

③「死ぬまでハードコア・パンク。パンク、パンク、もっとパンクを」

④「その音楽が好きであること。そしてジャケットもね…。俺が関わったバンドの90%は友達か知人でもある」

⑤「新しいテクノロジーは利用しなきゃならない。そういう関係性にあるとは思う。けど常に、紙のジンだったり、ヴィニール・レ





コードやテープなどという、現実世界で影響し合うものの存在を忘れちゃいけない」

⑥「ハードコア・パンクは俺の人生だからね。バンドを世に知らしめるためにもレコードをリリースしなくちゃね」

⑦「そうだな、今俺がプレイしているバンドはもちろんだな、ハハハ。INFÄME、TOTÄLICKERSにESKUPE。それ以外だと、Sotatila、Wolfbrigade("Comalive"アルバムはブルータルだよね)、Down To Agony、Primates、Antimaster、Disputa、Escroto De Rata、Amenaça、Disparo、Selfish、Signal Lost、Ratos De Porao(いつも好きだ)、Força Macabra、Lapin Pothajatとかかな…」

⑧「今は新しいリリース、ディストリビューション、そして金の補填に精を出しているよ…。来年2011年には、可能であればHIJXS TARADXSの新しいLPを出したいな。最近のリリースは、
TOTÄLICKERS/El poder absoluto aniquila la vida LP/CD - バルセロナのブルータルD-Beatパンク
ESKUPE/Romperlo todo LP/CD - The Varukersに似たパンク・スタイルのバルセロナのバンド
4 Way LP/BAD TASTE/TOTÄLICKERS/HIJXS TARADXS/ENTIERRO - ハードコア・パンクと少しだけロックンロール・クラスト
BAD TASTE - マヨルカ諸島のクラッシック・ハードコア・パンク
TOTÄLICKERS - D-Beatパンク
HIJXS TARADXS - クラスト・パンクをバルセロナでやっている中では現時点で最高のバンド
ENTIERRO - Holocaust In Your Head、Violent Headache、Disputaなどのメンバーがやっている新しいブルータル・クラスト
TOTÄLICKERS/POWER I POISON Split EP - 格好良い2バンドによるスプリット
ESKATOLOGIA/DISTRESS Split 10"」

⑨「興味を持ってくれてありがとう。日本のパンクスへ、スペインのハードコア・パンクも聴いてみてね。Grita o Muereに関する情報をもっと知りたければここにアクセスして。www.gritaomuere.es」

TADPOLE RECORDS FROM UK

正直これまで全然その存在を知らなかったのですが、日本のParasiteやVol.6で掲載したAUKのリリースなどで一躍注目の的に(…僕の中で、ですが)。現在のUKハードコア・シーンの活性化の一助にもなっているレーベルで、主宰者のDarrenはかなりのレコード・コレクターでもあるようです。

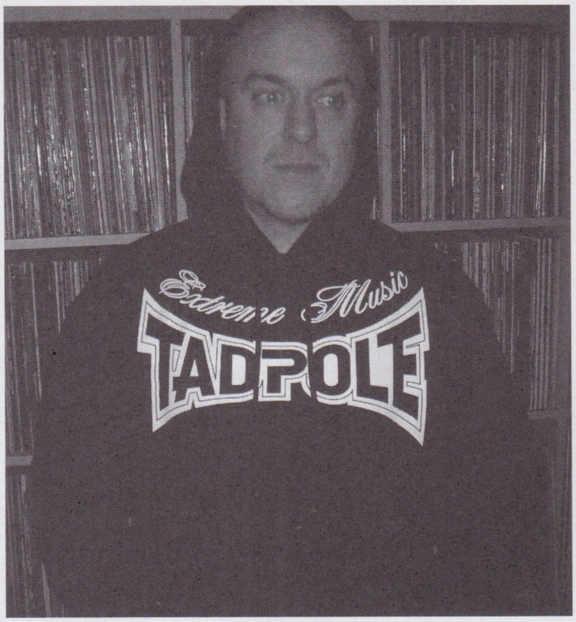
①「実はかなり前にレーベルを始動させていたんだが、1枚しかリリースしていなかったんだ。それはUnderclass 7"だったんだけど、リリースしたら本当やる気がなくなってレーベルは止めちまったんだよ…。何年か経ってから地元のバンドに新しい奴らが登場すると、ブライトンはエナジーと情熱、刺激が溢れ出してきた。Abandon ShipやBurning Timesといったバンドはかなり良くてね、彼らがプレイする度に俺はいつもぶっ飛ばされたよ。それで俺はBurning Timesに7"を出さないか尋ねてみたら、彼らはイエスと言ってくれた。それでレーベルをやり続けることになったのさ。俺はBurnt Crossが大好きだから、このバンドがやり続ける限り俺もレーベルを続けて彼らのレコードを出すぜ。けどいくつか新しいバンドが現れて、そのうち俺をまた興奮させてくれるだろうとも確信している。そう願っているんだよ…」

②「俺はFeral Ward、Prank、そしてLa Vida Es Un Musが大好きだ…。こういうレーベルの作品を買っていれば失敗することはないだろうね。俺もこういったレーベルと同じくらい良くなれればいいな。まぁ、多分いつの日か、なれるのかな…」

③「このレーベルは友達のバンドを出して楽しむものであって、ビジネスじゃないんだ。リリースした大部分は友達だよ、Burning TimesにBurnt Cross、Constant State Of Terror、Whole In The Head、Seein Redとかね…。ブライトンには小さいながらも、本当に素晴らしいD.I.Yの考えを持った人々によるノイズ・シーンもあってさ。Blood Stereo、Polly Shang Kuan Band、Jettaturaといったバンドの CD-Rをヴィニールでリリースしたりと協力しているんだ。それに俺が本当に好きなバンド、Violent Arrest、Mihoen、日本のParasiteなんかのレコードも出しているよ」



①レーベルを始めた動機 ②始めた当初お手本にしたレーベル ③レーベルの信条 ④リリースする際に最も大切なこと ⑤インターネットとハードコア/パンクとの関係性 ⑥活動を続ける上でのモチベーション ⑦最近のお気に入りのバンド ⑧今後のリリース予定 ⑨読者に一言



④「魅力的な人々と優れた曲。俺はパンク、ハードコア、ノイズ、そしてメタルが好きだし、興味を抱いた以上はそれらをリリースするつもりだ。デス・メタルのMalicious Disfigurementの7"を出したんだけど、それの売れ行きは芳しくない。でも、俺は彼らのことが本当に好きだから構わないんだよ」

⑤「古いテープをトレードしていた日々や手紙を書くってことなんかがなくなって残念だよ…。物事の変化に対して否定的にはなりたくないけどね。それでも近頃は全てが簡易的になってしまって、みんなeBayでレコードのコレクションを買ったかと思えば、翌週にはそのレコードがクールか否か判断して売っぱらっちまう。数年前はみんなもっと労力をかけていたと思うけどさ。一方では、俺は自分の欲しかった全てのレコードをインターネット上で見つけている。レコードを探すのにパソコンにずっと齧りついているよ。まぁ、バンドを調べるのには素晴らしい手段でもあるし、音が良くてそのバンドを気に入ったのならMyspaceだけじゃなくて、音源を買うよね。だから今の俺にとっては役に立っているよ」

⑥「好ましい音楽と人たちってのに限る。先述したように、俺はBurnt Crossの大ファンだ。けど、7"をリリースした日本のParasiteのようなバンドは、Myspaceで音を聴いて、俺は彼らの音楽に夢中になった。それから7"をリリースするのに興味がないかとメールして、彼らはイエスと答えてくれた。今じゃ俺たちはしょっちゅうメールしているし、2010年の終わりにはParasiteの10"を出そうと動いているところだよ(ハローNaggy)。だから魅力的な人たちが俺にTadpole Recordsを続けさせてくれているんだよね…」

⑦「今だと、Cressとのスプリットep に収録されているBurnt Crossの曲かな。それにDestino FinalとGlamのレコード。La Vida Es Un Musから出たやつね。Lotus Fuckerの全てと、新しいDouble NegativeのLP, "Action"コンピ7"に収録されていたSkizophreniaの曲に、540 RecordsからのViperの7"、Heratysの12"、Vaasankatu SSの7"、Knife Fightの"Demo 2002"7"、Crimen d Estado/Sudorのスプリット12"、Lapinpolthajatの7"、Otanの2枚の7"…。スパニッシュ・パンクと日本のノイズ・パンクが今は最高だな。あまりに格好良いレコードがあるから挙げ続けるのは大変だ、でもベストは尽くしたぜ、ハハハ。それと、Parasiteの新しい10"の曲が楽しみでしょうがないよ。最高のものになるだろう」

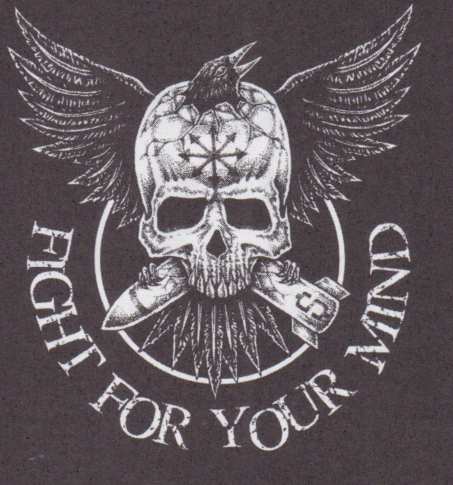
⑧「Burnt CrossのLPの再発、Seein RedとMihoenのスプリット10"の再発、Whole In The Headのセカンド7"、そしてParasiteの10"を年内に計画している。来年は別のノイズのレコードを、俺の友人でChocolate Monk Recordsを主宰しているDylanと一緒に出すつもりだよ。それにもっとBurnt Crossを出せたらいいな。Burnt CrossやParasiteみたいに俺を熱狂させてくれる、新しいバンドを求めているよ」

⑨「日本のパンクはベストだね。もし君がメタルパンクのParasiteが好きならMyspaceを見てね(ライヴセットも今、アップされているよ)。俺は日本のパンクとメタルの大ファンで、これらのレコードが欲しくてしょうがないんだ(助けて)。Rednecks/Lose A Border 7"、Skizophrenia/Raw Punk Eater 7"、Ferocious X/Våga Tänka Själv 7"、G.A.T.E.S/Devastation 12"。レーベルに関して連絡があれば:spudutat@hotmail.comまで。インフォをアップしているTadpole Recordsのブログもあるよ:
http://tadpolerecords.blogspot.com/
あと音源はここに: www.myspace.com/tadpolerecords
読んでくれたこととインタヴューに感謝するぜ」

FIGHT FOR YOUR MIND FROM FRANCE

フランスのレーベルですが、欧米のポリティカル・ハードコアを聴いている人にはお馴染みだと思います。マイペースながらもPREYING HANDSやWITCH HUNT、SISTA SEKUNDENなど、自国に拘らずに様々な国のバンドをリリース。EL BANDAとCONVERGEが好きというセンスも最高です。

①「やぁ、Kenji。君の質問に関してだけど、僕は自分が初めて組んだバンドのテープを出したくてレーベルを始めたんだ。SLUMSってバンドだよ(メタル・クラスト・グラインドみたいなバンドだね)。それと地元のDIYハードコア・シーンでもっと活動的になりたかったから、レーベルを始めたというのもある。すでに僕はレーベルと同じ名前のアナーコ・パンク・ファンジンを作っていて(4号出しただけで、5号は永久に出ないんだけど)、Profane Existence, Tribal War, Prank, Sound Pollution, Skuld Releases, Panx, Bad Card, 625, Slap A Ham, NNNW, Distortionなどといったレーベルからはかなり影響されていたんだ。レーベルのモットーはパンクスによるパンクスのためのパンクなレコードを出すってことだよ。そしてパンク・シーンに対して強く国際的な視野を持つこと。国際政治や社会に向けて賢いやり方で批判をする、音楽よりも政治的な活動をするバンドもいるよね」



②「手本にしたレーベルってのは本当にないよ。僕がさっき挙げたのは、僕の記憶が正しければ1997年当時に影響を受けたレーベルだからね。その当時、僕は17歳でそりゃ沢山のレーベルやバンド、ファンジン、書籍、人々、スクワットなんかを発見して廻っていた時期だった。FFYMはいつも他の多くのレーベルとはちょっと違っていたよ。凄く国際的なリリースをしていこうとしていた。西側諸国(アメリカ、フランス、UKとかね…)のバンドももちろんだけど、それだけじゃなくコロンビアやメキシコ、ベネズエラ、ブラジル、アルゼンチン、チリ、マレーシアなどのバンドもね。それにアナーキスト・ムーブメントにあるものなら、異なる類いの音楽だってリリースしている。僕がリリースしているのはアナーコ・パンク、クラスト・パンク、グラインド、パワーヴァイオレンス、パンク・ロック、ハードコア、フォーク・パンク、ヒップ・ホップとかだね。他のレーベルがやるにはリスクのあることさ」

③「うーん、難しい質問だな。レーベルの信条???このレーベルがスタートしてからというもの、何度も何度も変化してきているよ。僕は今31歳なんだけど、僕の生活だって僕がティーンエイジャーだった頃とは全く変わっているし、理想やユートピア思想に関してもね。アナーキズムやパンク・シーン周辺及びパンク・シーン以外のコミュニティーにしても、まだ僕が信じていることは沢山ある。そういったことは、僕が生き続ける上においてとても重要なんだ。けどコレクティヴ(集合体)やスクワット、それに僕が関わっている日々の生活など、内面と外面から様々に異なった経験をしてきているからね!人類に関してはあまり確信がない。僕自身としても。僕は相当ポジティヴな人間だよ。強く生きるために、そして異なった生き方をするために、人は前向きな考え方を持つべきだし、アナーキズムこそがポジティヴに向かわせてくれると思うんだ。レーベルの信条は何が何でも闘い続けることかな、世界はクソだが、僕たちは頭を高く上げてこのくだらない世の中を進んでいかなくちゃならない。君の人生や考えをめちゃくちゃにしようとする奴らと立ち向かいながら。政治家、警官、人種差別主義者、同性愛者差別者、性差別主義者、資本家をはじめとするクソ野郎…。Fight For Your Mindの根本は、自分の人生を自分自身で鍛え続けていくこと。人生を通して得られる経験と同じくらいのものを、自分の努力で血肉にしていくことだね。旅をし、本を読み、人と出会い、運動や音楽をやり、絵や文章を書く。食物を育てたりと、ありとあらゆることを。それが人を幸せにし、自分自身にも周りにいる人たちにもポジティヴな影響を与えてくれる。君を駄目にしようとするくだらない奴らはクソさ」

④「一番重要なのは、一緒に仕事をしたいと思うバンドだね。それはリリースと切り離せない。信じるのに値し、誠実な人たちが素晴らしい。そして素晴らしい音楽、ある意味、アナーキストな理想を持っていること。ひどいアティテュードはご免だ。願わくは、自分たちのやっていることに一生懸命に取り組んでいる人たちがいいね」

⑤「いい関係だと思うよ。Eメールでの手紙のやり取りやテープのトレードもしているし、紙のファンジンやあらゆる刺激的なものをインターネットを通して手に入れてもいるし…。インターネットの唯一クールな点は、情報が伝わるのが速いというところかな。音楽はもの凄い数の人たちに無料で広まる。だけど、何かが変わるのかどうかはわからない。インターネットが当たり前になっている新しい世代は、情熱が欠けているように感じるんだ。しかしそれが僕たちの時代の進歩なんだろうね」

⑥「モチベーション?社会と政治!楽しみ、それから連絡を取り合ったり、一緒に仕事や活動をしている素晴らしい人たち。それらがモチベーションになっている主なものだと思うよ」

⑦「難しい質問だね。CROSS STICHED EYES、LOS MONJOS、ICON GALLERY、PREYING HANDS、la URSS、EL BANDA、CONVERGEかな…。でも、実際には昔のバンドをよく聴いているんだ」

⑧「今後の予定はICON GALLERYのLPを出せるといいね。Maraldっていう偉大なアーティストの作品を収めた本も出してみたい。願わくはいつの日かCROSS STICHED EYESのレコードもね!(笑)」

⑨「日本は僕のパンク魂を燃えさせてくれるよ!いつか君らの住むクレイジーな国へ行ってみたい。フランスのSTATE POISONが、ちょうど今ツアー中だね。彼らを見に行ってくれると嬉しいよ。またSISTA SEKUNDENがI SCREAM 7 SHOWERSと間もなくツアーするはずだね。ついに君らはNUCLEAR DEATH TERRORも目撃することになるだろう…チェックしておいてくれよ…。サヨナラ、ハラキリ、それからスシ、ワサビを試してみたい。アサヒはクールだね。ちょうど今ミソを…アガガガガガ…。CROWを聴いたり、アキラ・クロサワの映画を見たりも同時にしている(笑)。どうかサメやクジラと友好的になってくれないかな。彼らは素晴らしい生き物だよ(笑)。フランスにもっと日本のバンドを送りこんでくれ!日本から来たバンドは、ARGUE DAMNATION、CORRUPTED、CRUDEしか見たことがないんだ。僕たちはもっとたくさんの日本のバンドを求めているよ!!!Kenji、インタヴューをありがとう。君は素晴らしい仕事をやり続けるだろうと思う。そしてポジティヴであるとね。
Au revoir mes amis(フランス語で:じゃあね、僕の友人)」

www.f-f-y-m.org
www.myspace.com/ffymrds



FUCK YOGA FROM MACEDONIA

バルカン半島、マケドニアのレーベルです。今号に掲載のDAžDをリリースしていまして、インタヴューをする際にこのFUCK YOGAレーベルのことも気になって調べてみたら、BOMBENALARMやIRON LUNG、YACOPSAEなど結構知られているバンドのリリースも手掛けていて驚きました。オーナーIvanから自身の変な写真が送られてきたのには、もっと驚きましたが…(笑)。回答も若干不思議なノリですが、雑談メールしていると至極真っ当なので、これがマケドニア気質なのかもしれません。



①「当初の考えでは、地元の奴らを音楽に夢中にさせれば、その結果としてここでの僕の生活がもっと楽しくなるかなと思った。でも失敗したね」

②「LIFE IS ABUSE、PRANK、BOVINE、HG FACTになるかな」

③「FUCK YOGAは、奇人の安息所みたいなものだと考えている。僕たちは僕たちのことをする。あなた方はあなた方のことをする」

④「バンドが僕の気分を良くしてくれることが必要だ」

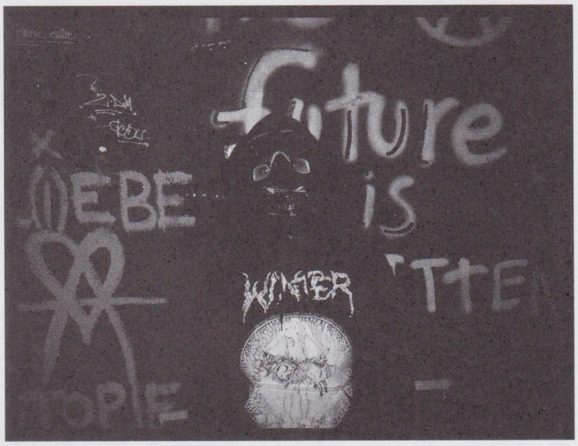
⑤「インターネットは神が人間に与えた最高の贈り物だ」

⑥「音楽を毎日聴いているし、金を注ぎ込み続けている。そんな理由じゃダメか?」

⑦「OD VRATOT NADOLU、SETE STAR SEPT、DAžD、ATENTAT NA SLUH、GAS CHAMBER」

⑧「次に出すのはOD VRATOT NADOLU(マケドニア)とSETE STAR SEPT(日本)のアルバム。両バンドとも実に良いよ。進行中なのは、NOOTHGRUSHの未発表の1994年のアルバム。APARTMENT 213とPOTOPのスプリットLP」

⑨「日本の読者へ。マケドニア人も気が狂っているよ。だから僕に手紙を書いて下さい。そして一緒に狂いましょう。サバイバリスト(生存主義)のプロパガンダはここにある。www.hellmilitia.com」



PUNKS BEFORE PROFITS FROM USA

レーベル名からして強固な意志が伺えるミシガン拠点のレーベルです。リリースしているバンドも一癖あるものが多く、分かりやすい○○シーン的なものに与していない印象が。

①「1999年に始めたんだ。バンドのライヴを見ていた時に自分も何かすべきだって思ったからね。それに当時、地元のバンドをもっと外にアピールしたかった」

②「今でも好きなレーベルとなるとBURRITO RECORDS、SIX WEEKS RECORDS、625 RECORDS、それにLENGUE ARMADAだな」

③「地元のシーンと共にあるってことだ。世界のどこに住んでいようとも、そこに焦点をあてるべきだと思う。このレーベルをやっていれば、バンドに恋して、そのバンドの一部となることも出来るからな」

④「ハードコア・ミュージックに向けられたバンドのアティテュード。ハードコア・ミュージックは自分を極限まで持っていってくれる。ハードに演奏しているバンドなら、客が3人だろうが100人だろうが、俺はライヴを見るのが大好きだしな。そして俺は幅広く色んなバンドが好きだし、何ら限定させたりしちゃいないぜ」

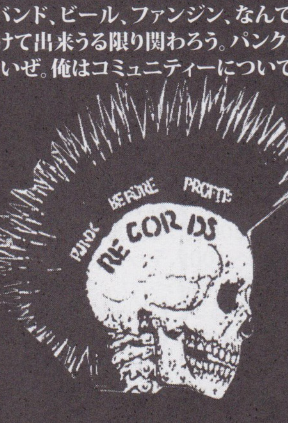
⑤「そうだな、インターネットは何かと取って変われるようなもんじゃない。ただ、シーンを盛り上げるのには役立っていると思う。MP3やなんかをバンドがEメールで送ってきてもそんなものは受け取らない。郵送された本物のコピーだけを受け付けているんだ。レコードを出したいのなら、それなりの労力をバンドは提示しないとな。俺はブログが好きで自分でもやっている(www.grscreamer.com)。こういったものの多くはシーンの一助になっていると思う」

⑥「パンクとハードコアそれにカルチャーも好きだ。俺はもうレコードを出すのは止めると言い続けている。俺はビジネスマンじゃねぇしかなりの大金を失ってきた。けど止めることはないんだろうな。パンクとハードコアの2つは、この世界に唯一残された本当の真実だ。止めるわけにはいかないぜ」

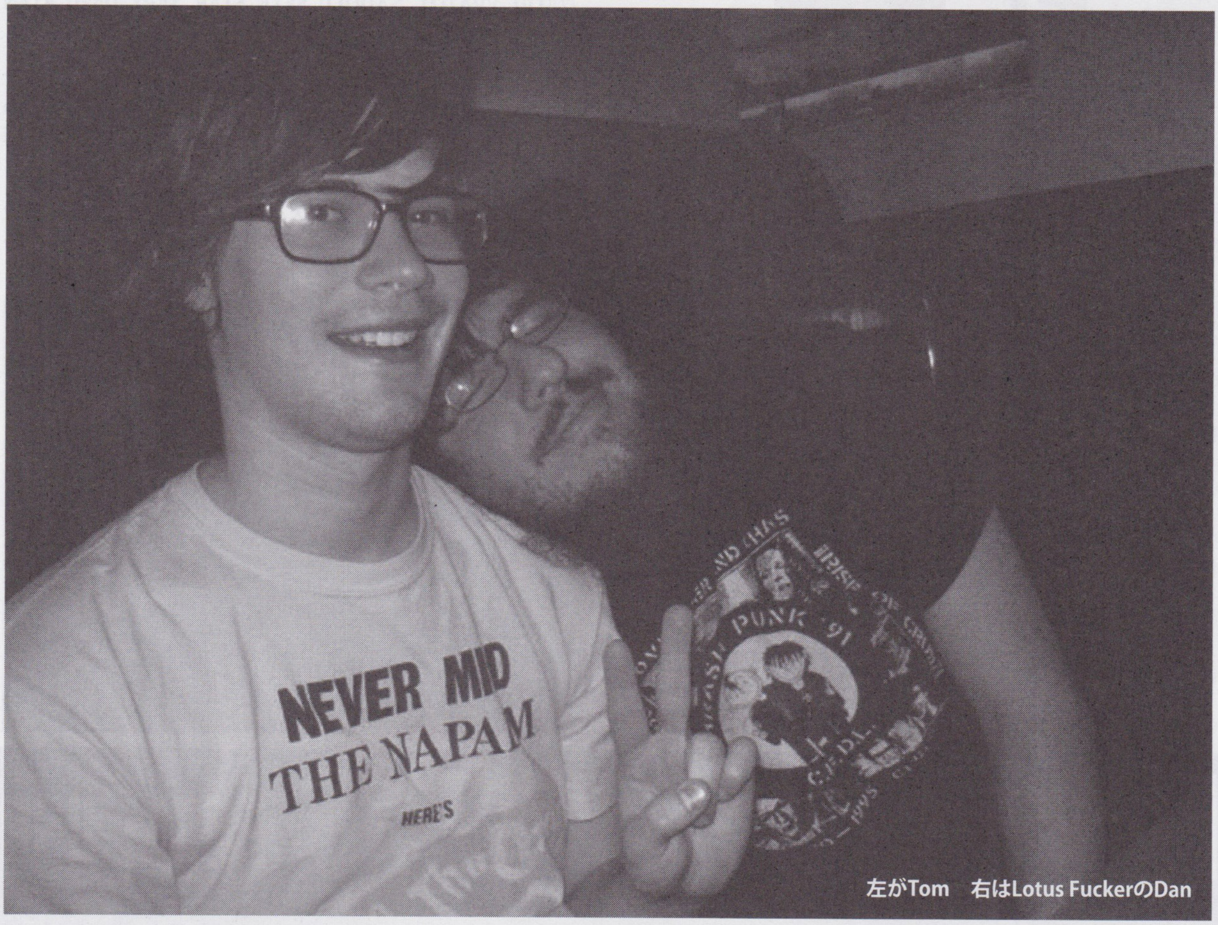
⑦「GERATRIC UNIT(UK)、DRAIZE(アメリカ)、BERNAY'S PROPAGANDA(マケドニア)、BUNNY SKULLS(アメリカ)、STATE(アメリカ)、ACTIVE MINDS(UK)、BURNT OFFERINGS(アメリカ)、BORED STRAIGHT(アメリカ)、LOTUS FUCKER(アメリカ)、EXTORTION(オーストラリア)、LOW THREAT PROFILE(アメリカ)、AMARGO(スペイン)、ANXIETY(アメリカ)。もっと大量にあるけど、興味があるのを並べ始めるとこうなるな」

⑧「パンクであり続けレコードを出し、破産した無能の負け犬であり続ける」

⑨「地元のコミュニティーこそが最も重要だ。住んでいる場所が今のお前を作ったんだ。地元に対して出来るあらゆることをサポートしよう。食べ物、バンド、ビール、ファンジン、なんであろうとも地元に最初に目を向けて出来うる限り関わろう。パンクについてのみ話しているんじゃないぜ。俺はコミュニティーについて言っているんだ」



LETS TALKING ABOUT PUNK FANZINE



左がTom　右はLotus FuckerのDan

Tom from EVIL MINDED

**ある日突然、Tomという人物から「僕が作っているファンジンを送ってもいい?」というメールが送られてきました。
「いいよー、ありがと」と返信したものの、こういう場合そのまま音沙汰なしというパターンが多いので全然期待していなかったのですが、数日後にちゃんと届いてビックリ。
で、封を開けると日本のいくつかのレコード屋さんにも入荷していた、アメリカの『EVIL MINDED』というA4/モノクロのファンジンだったのです。掲載されていたKRIEGSHOGやTHE ASSASSINATORSのインタヴューを楽しく読んでいたのですが、なんとEL ZINEのレヴューまで載っていて(しかもVol.0)、「Tomは実にマニアックな男だな〜」と感心した次第です。
手作り感溢れるDIYハードコア・パンク・ファンジン『EVIL MINDED』。その制作の背景と紙媒体の今後や、アメリカのファンジン事情も含めてTomに話しを聞いてみました!**

■日本の読者に『EVIL MINDED』のヒストリーを紹介してみて。このジンを始めた理由や時期は?

「『EVIL MINDED』を始めたのは2007年ごろだったよ。当時を振り返ると、僕の街のパンク・シーンは瀕死の状態だった。田舎の小さな街だったけど、それまでは小規模ながらパンクスやハードコア・キッズはけっこういたんだよ。ギグには200人ほど集まるし、ハウス・ショーには60〜100人やって来た。アナーキスト・ブックストアもあったし、ホームレスに食事を提供することもあったりして、DIY活動が活発に行われていたんだ。それが全て死滅してしまった。会場やパンク・ハウスは警察に閉鎖され、アナーキスト・ブックストアも閉じられた。多くが他の街へ移ってしまったんだ。シーンにいたやつらは消えていき、結局パンク/ハードコアは愛想を尽かされていったよ。ちょうど僕に娘が生まれたころだ。僕も子どもや仕事に忙しくてギグにも頻繁に通えなくなり、勢力的にパンクの活動もできなくなっていた。僕はコミュニティーのためにジンを作りたいと思っていたんだが、なかなか大きな動きに変えることはできなかったよ。2007年のアメリカはこんな感じだったと思う。僕にはパンクがエキサイティングには感じられなくなっていた。僕の嫌いな、どうしようもないアティテュードを持った人が多かったしね。そのころEDGUYというドイツのパワーメタル・バンドの1994年のデモ・テープを聴いたんだ。まだ学校に通う10代のキッズによるメロディック・パワーメタルで、歌詞を聴き取り、"これってパンクだろ!"と思ったよ。音質はひどいもんだったけど、メンバーはそんなこと気にしちゃいない。歌詞の内容は10代の学生が抱えるトラブルがほとんどで、くだらないことばかりを歌う退屈なアメリカのバンドなんかより、ずっとパンクだった。それで後に僕は彼らのデモ・テープ『EVIL MINDED』をファンジンの名前にしたんだよ。けど、も

しかしたらジンの名前を変えるかもしれない。今やアメリカのパンク・シーンはかなりエキサイティングになってきているからね!」

■『EVIL MINDED』はどのようにして作っているの?切り貼りの手作業で作っているのかなと思ったんだけど、どうですか?パンキッシュなレイアウトでいいね!僕は不器用なので、全てMac頼みだよ(笑)。

「そう、手作業でレイアウトしているよ。文字を打つのにコンピューターを使うけど、#4は全くコンピューターを使っていないんだ。使ったのは古いタイプライターとマジックペン、コピー機だけ。ハサミで切って、のりづけし、全てをまとめていく。のんびりな作業だね。1日中、コンピューターの仕事をしているから、紙の作業はすごくいいよ。それにコンピューターを使うと、自分が望んでいる雰囲気が出せないんだ。ロウなレイアウトが好きだし、音楽にも合っている。自分の気持ちを表現するのにもしっくりくるしね。もしかして#5の表紙は日本のジン『修羅』にインスピレーションを受けているのに気づいてくれたかい?(『修羅 Vol.6』を読みたい!!)それから『EVIL MINDED』はプロフェッショナルな作りにはしたくなかった。"こういうジンなら自分にも作れる"と思ってもらえるものがよかったんだ。僕のジンがプロフェッショナル過ぎたら、"作るのは難しそうだな"と思う人もいるかもしれない。UKの『Riot』ジンは全て手書きだね!本当にクールだ。パンクスは誰もがジンを作れるし、コミュニケートできることに気がつくだろう。パンクのDIYのかたちは僕にはとても重要なものなんだ。自分たちの手でDIYファンジンを作るように、パンクスに働きかけていきたいね」

■#4にある"SEMI-COHERENT NOTE FROM THE EDITOR"のコーナーはとても興味深かったです。パンク・ジンとインターネットに関する君のアイデアを聞かせて。紙媒体は死んだかい?

「紙媒体やジンは悲しいことだけど死にかかっているよ。ブログを読んだり、ブログから音楽をダウンロードしたり、MyspaceやFacebookのようなウェブサイトでギグを見る人が増える一方だ。 パンク・シーンにとっては痛手を受けるだけだと思う。特に若者たちの中では、レコード屋でジンを見つけたり、通りでフライヤーに目を留めたり、レコード屋に足を運ぶ人たちが減っているよね。唯一インターネットを通してパンクと出会い、パンクに興味を持つようになっているもんな。弾丸ベルトやパッチ、鋲ジャン、酔っ払ったパーティーの写真なんかの載ったMyspaceで、パンクやクラスト・バンドを知るんだからね。超がつくほどの昔のレア盤をブログで見たりとか。キッズはこれがパンクの全てだと思い込み、その根本にあるパンクの本質を理解していないよね。事を起こそうとしてエネルギーと金を費やし、世界中の人たちと連絡を取り合っていくことも知らないし。新作のレコードやCD、テープ、ジンも買わず、ツアー・バンドをサポートするためのTシャツも買わない。その代わりに、新しいパンク・レコードをダウンロードし、ファッション、酒、レアな昔のレコードに金をつぎこむ。そこにはもうDIYは存在しないよな。自分の手でシャツやパッチを作る人もいない。インターネットで買うからね。1982年のフィンランドか1985年のUKから生まれたようなパンクのサポートが重要なんだ。パンクスが自分の手で作り出していることを知るためにも、キッズはジンを読む必要があると思う。ジンを作るのに長い時間を費やし、制作に金を使い、情熱をかたむけている人がいるってことにインスパイアされるうえでも、ジンは重要だと思う。パンクに情熱を持っているなら、世界中のパンク・コミュニティーに立ち返り、社会や政府、感情的な問題に精神が押しつぶされないよう奮い立たせることが大切だ。インターネットの中じゃ、サポートしあうパンク・コミュニティーは見つけられないよ。ジンや紙媒体、フライヤー、パンフレット、ニュースレター、もっと個人的なもの、それらは人々を一つに結びつける」

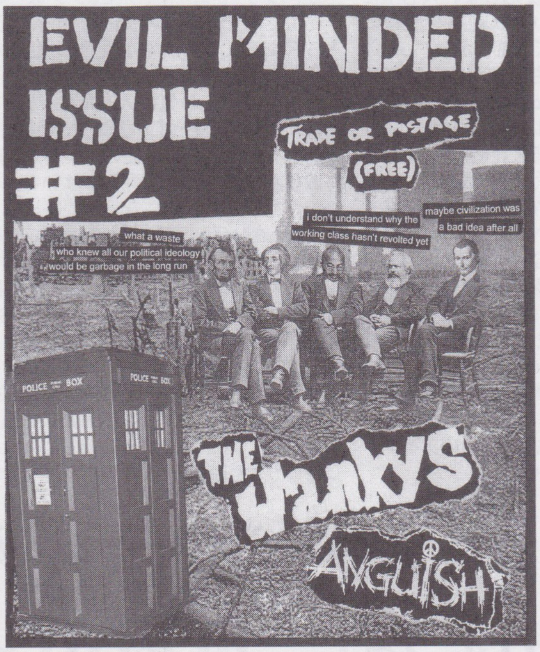
■ジンの理念も教えて。

「『EVIL MINDED』は紛れもなくアンダーグラウンド・ハードコアDIYパンク・ファンジンだよ。アナーキズム、反戦、反人種差別、反性差別。僕には重要なものだね。ポーザーはファック、エクストリーム・メタル・アティテュードにもファックだ。自分のコミュニティーをサポートし、友達を助けることかな」

■アメリカの"パンク・ファンジン・シーン"はどうなのかな?素晴らしいジンは沢山ある?

「いい質問だね。パンク・ファンジンは死んでるよ。アメリカもだし、世界中どこでもそうだろ。過去の『Maximum Rock'n'roll』を見れば、毎号に多くのジンがレヴューされていたけど、今は紹介のスペースも小さいよね。人々は今、アートや個人的な生活に関するジンを作っているように感じるんだよね。そういうのはクールだが、僕は興味がない。アメリカで素晴らしいパンク・ミュージック・ジンを作っているのは、ほんの一握りの人たちだね。今現在、好きなジンをいくつかあげてみるね。『Not Very Nice』、『Warning』、『Deprogram』、『7 Inches to Freedom』、『Dirge』、『Fronteras Desarmadas』、『Radi

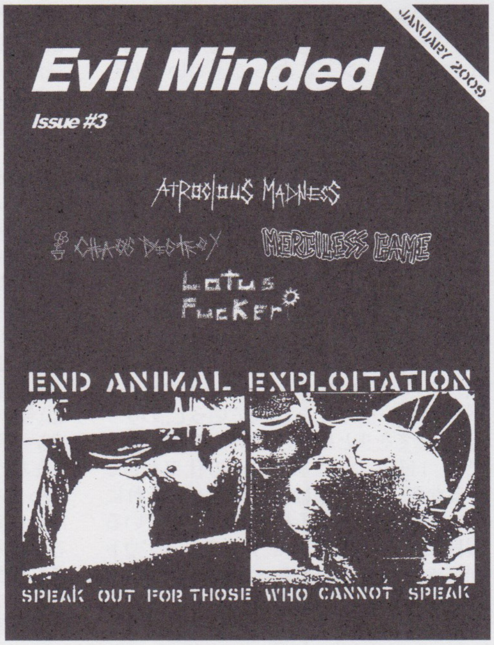




D-CLONEやアメリカの独りブラック・メタル、PANOPTICON、そしてレヴューを掲載した#1。#2はUKノイズ・コア、WANKYSのロング・インタヴューがメインの内容。

#3はアメリカのATROCIOUS MADNESSに、LOTUS FUCKER、日本のメタル特集など。レヴュー・コーナーでは、FOLKEIISやZYANOSE、LAST SENTENCE、KRIEGSHOG/DEATHTRIBEのスプリットなども紹介されてます。全24ページになって、一気にヴォリューム・アップ。左が表紙で右は裏表紙。





ation Sickness』。他の国にも良いジンはたくさんあるけど、USのジンで好きなのはこれだね。もっとみんながジンを作ったらいいよね。地元のパンク・コミュニティーを成長させることにもなると思うんだ」

■『Profane Existence』って今はもうジンを発行していないみたいだけど（レーベルとしてはAMEBIXの新しいLP/CDなどをリリース）、『Profane Existence』は常にポリティカルな記事を掲載していたよね。パンク・ジンとポリティカルな記事との関係性についてはどう考えている？

「ポリティカルな記事は重要だと思うけど、ポリティカルな記事に反応しない人も中にはいる。僕はポリティカルな記事を読むのが好きだし、アナーキズムをサポートしている。だけどいつもいつも書きたいわけではない。僕は『Profane Existence』を楽しめないが、常にポリティカルな記事を書き続けているところは尊敬するよ。パンクを聴いていながら、苦しみ、政府、弾圧、戦争、人種差別、性差別に目を向けていない人がいるとしたら、どうか目を開いてほしい。パンクスはCRASSやDISCHARGEを繰り返し聴いているだろう。ぜひ歌詞を思い出してほしいんだ。悲惨な出来事は毎日起きている。人はそれらを無視することはできない。パンクスは常に権威や社会から圧力を受けている。僕たちは自由や平等を求めて闘わないと。官僚を焼き払えと言っているんじゃないが、心の自由を守る闘いのためのアイデアは常に持ち続けていなくちゃ」

■日本のハードコアとメタルの大ファンだよね。日本のレコード・ショップにいつも注文しているの？情報はどうやって手に入れているのかな？

「うん、日本のバンドは好きだね。PUNK&DESTROY、BASE、NATなどの店やレーベルにオーダーしているよ。Feral WardのYannickのようなアメリカ人の中にはクールな日本の作品をストックしている人もいる。ジンや友達を通して新しいバンドやレコードを見つけ続けているよ。日本のウェブサイトでクールなレコードを発見することもある。オンライン・パンク・メッセージボード・フォーラムにも2つほど参加しているよ。僕がパンク・レコード、デモ、ジンなどの収集が好きなのをみんな知っているんだ。だから常にみんなと情報を交換し、色々なデモ作品を買ったり、トレードしたりしているよ。バンドのデモが気に入ったら、たいていその後にレコードやCDを買っている。関連作品もチェックするし。他のパンクスと連絡を取り合うのが情報を得るにはいいんじゃないかな。僕が夢中になっている日本のメタル作品は、ほとんどネットを通じて連絡を取り合って知ったものだけど、メタル作品のファンはパンクよりも少ないね。僕の好きな日本のメタル・バンドのほとんどが、80年代のバンドなんだ。どの国にも言えることだけど、新しいメタル・バンドはあまり好きじゃないな。新しいメタル・バンドは商業的過ぎる。あのアティチュードが大嫌いなんだよ。知らないバンドを知るのは楽しいし、まだ聴いたことがないバンドもたくさんいる。いつも新しい知識を追い求めているよ」

■日本のバンドのどんなところに魅力を感じている？

「そうだな、何だろう。あらゆる国のパンクが大好きだけど、日本のバンドには好きなのが多いよ。他のどの国でも見つけられないサウンドだからだと思う。日本は年々、バンドが素晴らしくなっているよね。他の国では素晴らしいレコードがリリースされるのは、1年に何枚かに過ぎないけど。日本のバンドの魅力の多くは音楽と、それにエモーショナルな面にも感じるな。熱い気持ちのこもった日本のバンドを聴くと、パンク・ミュージックは内面を動かすパワーに満ちていると思わされるよ。誠実さを感じるんだ。多くの日本のバンドにみなぎるエネルギーが大好きだね」

■"Chaos In Tejas 2010"に行ったんだよね。感想を聞かせてください。

「あはははははは！実は行っていないんだよ！空港に向かう間に、車が壊れちゃってね。旅がまるごと無しになった。高い飛行機代も無駄になってしまったよ！大失敗さ。週末はずっと落ち込んでたな。SF映画を見ながら寂しくポテトチップスをかじってた。今年は素晴らしかったと聞いたよ。ポートランドのバンドを見逃したのも残念だったし、もちろん、BASTARD、CROW、SLANGを見られなかったのも悲しかったな。でも後で友達がレコードやBASTARDのシャツを持ってきて

パンク・ファンジンは死んでるよ
アメリカもだし、世界中どこでもそうだろ

くれたんだ。"Chaos In Tejas"の規模が大き過ぎだとか、値段が高いとか言って、このイヴェントを嫌う人もいるけど、僕には価値があるし、本気で楽しいよ。商業的過ぎると思う人もいるみたいだ。テキサス州オースティンには"South By Southwest"という巨大な音楽フェスティバルがある。人気のある最悪バンドが多数出演するフェスで、"Chaos In Tejas"が"South By Southwest"のパンク・ヴァージョンになってしまうんじゃないかと心配している人もいるんだよ。僕は何の心配もしていない。もし一般的な人たちが素晴らしいハードコア・パンク・バンドを見に来たら、それは一般的な人にとっても良いことだと思うんだ。パンク・ミュージックを聴く生活に変わっていくかもしれないだろ!2011年の"Chaos In Tejas"には行くつもりでいるよ。日本から来る人がいたら、僕に声をかけてよね!」

■住んでいるのはケンタッキー州のレキシントンだよね。どんな街?君の地元のパンク、ハードコア・シーンも知りたいです。

「中規模サイズの街だよ。緑と木々が豊かで、とても美しいところだね。でも炭鉱会社や競馬産業が占めているような街でもある。一握りの裕福な層と大部分の貧しい人たち。でもレキシントンは平均的な街だと思う。今のパンク・シーンはかなりのんびりした状況で、勢力的なバンドも少ないけど、毎月のようにグレートなギグが行われている。最近の2つの大きなショーには、THE WANKYSやLOTUS FUCKER、フロリダのMAUSERなどのロウでノイジーなパンク・バンドが出演したよ。パンクが盛り上がっているとは言えないが、僕たちはあきらめない!こっちに来ることがあれば、君のために旨い料理を作ってあげるよ!」

■『CHEAP RESISTANCE』、『ADVERSE』、それに『EL ZINE』をレヴューしていたよね。ありがとう!でも日本語だから読めないと思うんだけど、それでも楽しいものなのかな?

「そう、日本語は読めないんだよ。色々な国のジンを買っているんだ。ポーランド語もフィンランド語もイタリア語もわからないんだけど、ポーランドのDEZERTERもフィンランドのBASTARDSもイタリアのWRETCHEDも大好きでね。アートワークや写真、レヴューを楽しく見ているんだ。無性に読みたくてたまらない場合もあって、そういう時は日本語を勉強している友達にちょっと手伝ってもらったりしているよ。でもたいていは好奇心にかられて、ジンを手に入れているんだ。あらゆる地域に存在しているパンクを熟知している人のことも、様々な土地でジンを作っている人たちのことも好きだから、ジンのレヴューをしているんだよ。読むことはできないけど、ジンを見て、デモやレコードに興味を持つこともある。ジンを見なかったら、一生聴くことのなかった作品もあるね。何が何でも、僕は世界中のパンクスをサポートしていく」

■世界中からこのジンへの反応があるんじゃないかな?

「そうなんだ。だいたい25%がアメリカで売れて、75%が他の国で売れてるなんて妙な感じだよ!ヨーロッパからたくさんの手紙が届いたよ。ファンジンを本当に気に入ってくれたみたいなんだ。アジアやアメリカ、それに日本からも手紙をもらったな。ほとんどはEメールだね。『EVIL MINDED』を南アメリカでトレードできたらいいんだけどね。何人もの人と連絡をとろうとしているんだけど、南アメリカのパンクスと連絡をとるのは難しいんだ。手紙やEメールをもらうのは嬉しいね。友達でつながるDIYネットワークは生き続けている!!IRC(チャットのようなもの)やEメールを送ってくれたら、返事を返せると思うよ。外国語の変換もできるから。完璧じゃないが、コミュニケーションはとれると思う。Eメールなどで話をしたり、ビデオや音源のトレードをしよう」

■#5で"BEST NEW RECORDS"を挙げていたけど(ALLIANCE、HARDCORE INFERNO、POST REGIMENT、DEZERTERなど)、今の君の"BEST NEW RECORDS"を教えて。

「今のベストな新作レコードだね。CHAOS DESTROY『Collection Not Collection』(LP)、GLAMの7"、CRIMEN DE ESTADO/SUDORのスプリット12"、MASSHYSTERIのニューLP、LEPROSYのデモ・テープ、V.A.『Downtown Noisepunker Vol. 3』(CD-R)になるかな。それから、間もなくリリースされる日本のバンドの作品も楽しみなんだよね。KRIEGSHOGのLPのことだよ!あとPEOPLEのLPも。彼らが素晴らしいことはもうわかっているよ!」

■次号の予定は?それはどんなものになりそう?

「次号の計画はあるよ。PERDITIONやDEATHCHARGE、SYNDROMEのインタヴュー、他にもクールな記事を掲載できたらと思っているんだ。いつか丸ごと日本のメタル・バンドを掲載した号を作りたいよ。記事の内容を全て自分で手がけているから、1冊作るのに時間がかかることもある。ひどい怠け者だし。たまにのんびりしたバンドから、なかなか返答がないこともあるしね(笑)」

■インタヴューに答えてくれてどうもありがとう。最後に日本の読者にメッセージをお願いします。

「こちらこそインタヴューをありがとう、Kenji!ずっと長く、『EL ZINE』を続けてくれよ。ビデオやテープのトレードに興味がある日本のパンクスがいたら、僕はいろいろな作品を探しているから、英語ができなくても連絡してみてほしい。パンクスから反応をもらうのは嬉しい。Vivaアナーキー、Vivaパンク!!」





#4は"知られていないバンド"のテープ音源特集に始まり、KRIEGSHOGにMORPHEME、HELLKONTROLLにレヴューなどなど。28ページと更にちょっぴり増量。
最新号にあたる#5は、THE ASSASSINATORSのロング・インタヴューからUBR、AGHAST、それにLAシーン・レポートがメインといった感じです。引き続き全28ページ。

L.A. SCENE REPORT

TEXT:Kiwi

続いてはEVIL MINDED #5に掲載されていた、Tomの友達Kiwiが書いたLAシーン・レポートを転載させてもらいました。昨年に書かれた記事のようで(多分)、少しだけ情報が古くなっていますがLengua Armadaから先日立て続けにリリースされたLAハードコア/パンク・バンドのことも色々と載っているので、ゼヒ読んでみて下さい。

ロサンゼルス(LA)のパンク・シーンはもう何年もの間、ロウなエナジーを失ってしまったままでいる。これはかつては有名な話しだったわね。パンク・ショーはめったに開催されなくなり、代わりにおびただしい数のレイヴやダンス・パーティーが開かれるようになっている…と、のん気な議論まで交わされていた。パンク・ショーには人が集まらず、ハコが空っぽだった時、"パンクス"の多くは自分たちのシーンをサポートする代わりに、パーティー会場にいたわ。当時、私の友達がこんなことを言っていたのよ。"女の子はダンスに行っている。男って女の子の集まる場所に行きたいものなんでしょ"ってね。良い点をついていたわ。

だけどありがたいことに、私たちのシーンは力をフルに満たし、また蘇った。過去にはシーンで活躍する最高のパンク・バンドが解散するのを何度も見てきた。ASKO、VAKRAANT、HIT ME BACK、SABER M、MALA-SANGRE、TRAICION、YA BASTA!、そしてこの瞬間に思い出すことができない数え切れないほどのバンドたち。しかし、その亡骸から多くの新しいバンドが生まれ、大きな動きを引き起こすようになったのよ。LAだけのことではなく、ウエストコーストにまたがった動きだった。



RAYOS X

まず最初にあげておきたいのが、VAKRAANT、ASKO、MUGREの元メンバーで構成されるRAYOS X。彼らは最近、TUBERCULOSISとウエストコースト・ツアーから戻ってきたところね。デモ『Mirando A Traves De Sus Mentiras』(英語にすると"seeing past their lies")がたくさんのパンク・ジンにレヴューされてて、興味をそそられるような良いコメントをもらっていたわ。個人的にもLAバンドの中で今一番好きなバンド。スタイルはスペインの昔のパンク・バンド(ESKORBUTO、RIPなど)に近い。Southkore RecordsとLengua Armadaから2枚の7"をリリースする予定があるようね(※Lengua Armadaからの7"はリリース済み)。

TUBERCULOSISはバンド名と同タイトルのカセット・デモやエネルギッシュなライヴで巷を騒がしているバンドよ。HIT ME BACK、ASKO、RESIST AND EXISTの元メンバーから成る。彼らも本当に素晴らしいバンドだな。ファストでアグレッシヴ、その上メロディックでもあり、怒りの女性ヴォーカルを擁しているの。来年にはLengua Armadaから7"をリリースするはず(※こちらもすでに発売されている)。

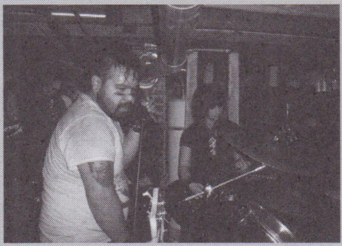
この2バンドのメンバーは、LAのパンク・コミュニティーでも精力的に活動している。頻繁にショーを企画するだけでなく、たくさんのプロジェクトの中心的存在でもあるのよ。プロジェクトをあげておくわね。最近、サウスLAに新しいパンク・ハウスを手に入れている。他に『Fronteras Desarmadas』(サウス・セントラルLAの唯一のパンク・ジン)、そして地元LAのバンドの作品をリリースするSilenzio Staticoレーベルにサウス・セントラルLAの唯一のレコード店"Musica para La Destrukcion"(ベストな世界中のパンク・レコードを扱っている)、地元のパンク・バンドの曲を中心に流しながら、世界中のあまり知られていないバンドもかける海賊ラジオ局"Solo se Oye Punk"。木曜日の午後7時－9時にwww.Raisethefist.comか、(地元の人なら)98.5fmに合わせてみて。

次にあげたいのが、ロウなD-beatバンドKRUEL。ノルウェーのBombs Awayから7"がリリースされる予定。彼らは最近、ABOR









左上から時計回りに:

TUBERCULOSIS/POLISKITZO/KRUEL/GENERACION SUICIDA/ASKO/MUNDO MUERTO





TO SOCIALの前のヴォーカルを獲得した。そのため今はツイン・ヴォーカルでやっているわ。

ここにはPOLISKITZO（元YA BASTA!）もいる。彼らは今年のあたまに活動を始めたばかりだけど、本当に素晴らしいの！彼らのサウンドはメロディーがすこぶる良くて、ダンス/ポゴにはもってこい。私はスペインのLA BANDA TRAPERA DEL RIOを思い出したな。評判も上がっているし、最近ではカリフォルニア北部へのツアーも大成功に収めたわね。

最後にMUNDO MUERTO（MALA SANGREの元メンバー）。彼らはRIPやUVIに近いスタイルのバンド。ポートランドのパンクス、NERVESKADEとのツアー（場所は忘れちゃった）から戻ったばかり。LAのキッズはこのバンドが好きみたいね。彼らはQue Punkというレーベルから7"を1枚出している。

ここであげたバンドはどれも素晴らしいけど、LAのパンクスは彼らだけじゃない。新しいパンクスもたくさん登場していることにも感謝しておきたいな。今ではショーは警官に捕まらずに正当に企画できるようにもなっているわ。また定期的に行われるようにもなっているしね。

ツアーでやって来るバンドの流れも把握しておかないと。言い忘れているバンドもたくさんあると思うけど、COMPLICATIONS（カナダ）、RIPPER（オレゴン）、SILENT MAJORITY（オレゴン）、D-CLONE（日本）、HJERTESTOP（デンマーク）、DESKONOCIDOS（テキサス）、DESTINO FINAL（スペイン）、LIBYANS（ボストン）など。今年はもう既に素晴らしい年だけど、残り年内に起きることにも興奮しているわ。私は常に新しくてエネルギッシュなバンドに目を光らせている。そして、LAのパンク・ハウスで開催される新しいプロジェクトの情報を今か今かと待ち構えているのよ。次のバンドの登場も予定されているみたいね。ロウ・ハードコア・パンク・バンドのATAKE DE NERVIOS。COLERAやRATOS DE PORAOのようなブラジルのバンドに似ている。GENERACION SUICIDAはスペイン語だけどMASSHYSTERIにかなり近いメロディアスなバンドね。女性と男性のツイン・ヴォーカルよ。

LAのパンク・シーンには素晴らしいことが起きている。だから注目していてね。なぜなら、私はまさにこれが始まりだと感じているから。



曲の大半はユーゴスラビアの戦争にインスパイアされたものなんだ

バルカン半島に位置する旧ユーゴスラビア連邦・セルビア。コソボ紛争の勃発を引き金に、NATOによるセルビアへの爆撃が起こったのはほんの10年ほど前のことなので、当時のニュース報道などを記憶している人も多いのではないでしょうか。
そんな民族的にも宗教的にも歴史的にも複雑な事情を抱えているセルビアで活動しているバンドがDAžDです。
どこか呪術的な雰囲気も漂う暗黒のメタル・パンク〜ドゥーム・サウンドは、"西側"諸国のバンドには出し難い、そしてある意味彼らにとってはナチュラルなものなのかもしれません。
アメリカのORDER OF THE VULTUREとのスプリットや昨年末にリリースされたアルバムは日本にも入って来ているので、気になった方は是非チェックしてみて下さい。ギター・ヴォーカルのRomacに話しを聞きました。

■まずはDAžDのヒストリーを聞かせて下さい。

「1993年にベースのIvanと僕とで、名前もメンバーも違うバンドをはじめたのが始まりだよ。曲はその時代からある。Ivanはデンマークに移り、数年間そこで暮らしていたんだ。1999年にここへ戻ってきたとき、Ivanの行き着くところは精神病院だった。ここはあまりに過酷な状況(戦争・爆撃・危機)にあったから。ドラッグと魔力の組み合わせも理由にあるな。Ivanは現実に立ち向かうことができなかったんだ。その後、回復へ向かい、僕たちはまた真剣にバンドをやり始めるようになったよ。新ドラマーのSinisterを見つけ、新曲を作り始めた。過去に僕が作った古い曲も作り直したよ。曲の大半はユーゴスラビアの戦争にインスパイアされたものなんだ。2005年から地元のアナーコ・パンク/メタル・シーンの中で、DAžDの名で精力的に活動している。作品も何枚かあるよ」

■最初に聴いたのはどんなパンク/ハードコア・バンドでしたか?ユーゴスラビアのバンドだと、TOZIBABEやU.B.R.なんかは日本のパンクスにも人気があります。

「そうだな、それらはガキのころに見つけたバンドだね。でも最初に本気で好きになったのはDISCHARGEだと思う。後になって、フィンランドやスウェーデン、日本、それに世界中のバンドを聴くようになっていった。僕は常に世に埋もれた非商業的なバンドが大好きでね。昔のUKクラストの影響が大きいな。今では人気もあり、多くの人たちに聴かれているけど、インターネット以前の時代には、そういうバンドを見つけ出すのはとても難しかったんだ」

■DAžDは英語で"rain(雨)"になりますか?この名前をつけたのはどうして?

「雨は自然の力。破壊的であるのと同時に、実りをもたらすものでもあるね。雨にはそういう両面のバランスがある。力は人間よりも大きく、文明よりも大きい。雨は汚れて腐りきった世界を洗い流してくれる。それに雨は広大な海の水でもあり、僕たちにインスピレーションを与えてくれるものだ。地球の水はこの世界に生命を与えてもくれる」

■DAžDからはクラストや、ドゥーム、ブラックメタルなど色んな要素を感じるから素晴らしいです。曲を作る際に最も大事にしてい



ることはなんですか?

「僕たちは良いミュージシャンではないけど、自分たちの内側にインスピレーションを追い求めているんだ。怒りや悲しみ、激しい気持ちを表現するために、自分たち自身を表す真実の感情を見つけ出そうとしているよ。音楽的にはパンク、ハードコア、メタルや他の音楽など、様々なものにインスパイアされているけど、他のバンドが既にやっているようなサウンドを作ろうなんて気は全くない。自分たちを無理やり追い込んだりせず、インスピレーションが湧き上がってくるのを待ち、自然に曲を作っているよ」

■NAKOTやORDER OF THE VULTUREとスプリットをリリースしていますね。レーベルからの提案ですか?

「NAKOTは古い友達なんだ。NAKOTの初代ベースが1994年にうちのバンドで最初のドラムをつとめていたんだよ。それから、このスプリットをリリースしたレーベルの人間は、今はUSAに住んでいるがボスニアにいたときからの長い付き合いの友達だしね。だからこれは友情の証みたいなものだね。ORDER OF THE VULTUREはFuck Yogaレーベル(この人も友達だよ)が紹介してくれたよ。でも最初から自分たちで連絡を取り合い、全員がスプリットを作ることに賛成して実現に至った」

■歌詞は主にセルビア語を使っていますね。日本でも母国語(日本語)で歌うバンドもいれば、英語で歌うバンドもいますが。

「自分の感情を表現するには自国の言葉が最適だと思うよ。曲を書くとき、歌詞は"詩"のようなものだし、音楽と一つになるように考えてもいる。歌詞を英語で書いたら、それが納得いくようにできるかわからないな。その逆、僕が何を叫んでいるのかわからない人もいるけど、ポイントを100%理解してもらうのが重要で、聴いてくれる人にエネルギーを伝えることも僕には重要なことなんだ。常にどんな歌詞なのかわかるように訳した歌詞も掲載している。でも英語に訳すのは簡単じゃないね。詩的な部分が失われてしまうんだよね」

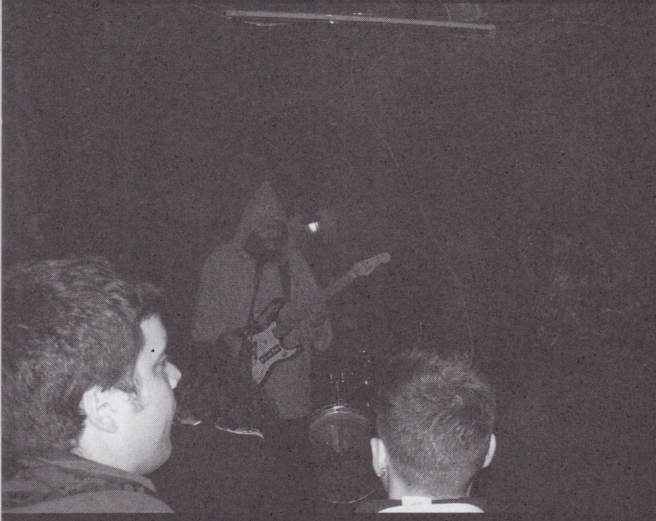
■ベオグラード(セルビアの首都)のハードコア・シーンも知りたいですが、あなた方がいつもギグをやっている場所はどんなところですか?スクワットやバー?ベオグラードには良いバンドが多いのですか?

「ここにはスクワットはないんだよ。小さなクラブやカルチャー・センターでやっているよ…。バンドはいくつかいるけど、そのほとんどは数年間活動して、解散してしまう。ベオグラードには数百万人が住んでいるが、本物のアンダーグラウンドなハードコア/パンク/メタルに夢中な人はほんのわずかだ。コンサートに来るのは30〜100人、あんまり多くないよ。大多数の人たちは商業音楽に夢中だね。特に15歳以下は。僕が個人的に知っている面白いバンドをあげてみるよ。KATMA、NAKOT、VOX POPULI、MORTIFER、ENTROPIJA、ATENTAT NA SLUH、MOR、DEAD SHELL OF UNIVERSE、JATAGAN、PRLJAVI DRIPCI、TERRARIUM、PATH OF DECAY、TEMPLE OF THE SMOKE。他にもバンドはいるけど、あげたのは僕が把握している素晴らしい人たちばかりで、イデオロギーの面からも納得できる。右翼思想のバンドもいるが、僕はそういうバンドは嫌いだ。何のイデオロギーも持っていないバンドも嫌いだ。人は態度を決めなければならない。戦争やナショナリズムに目を向けなければいけないし、僕たちはそういうものには断固立ち向かっていく」

■90年代に映画『UNDERGROUND(アンダーグラウンド)』(監督はエミール・クストリッツァ)を見たのですが、あなたはこの映画を見ましたか?僕はこれを見たとき、初め









てユーゴスラビアについて意識したのです(ユーゴスラビアのバンドはいくつか知っていましたが)。もし見ていたら、この映画に対する意見を聞かせてください。

「クストリッツァは有名な監督だけど、ある時代、悪い政治家をサポートしていたことがあるんだ。だから彼には肯定的な意見は持っていない。その反面、彼はひどい監督ではないよ。でも僕は彼の初期作品にある、ごく普通の平凡な人たちの問題を取り上げた悲劇的な社会ドラマのほうがいいね。後に彼はジプシーの人たちや社会の底辺の人たちに強く興味を持つようになっていったね。『UNDERGROUND』は商業的な作品でもあり、ファンタジックでコミカルな要素もある。でも全体的なアイデアは興味深いものだし、世界は見方を変えれば面白さを見つけ出せる、という作品を作り出した。これは深い考慮を求められるテーマだと思うよ。ユーゴスラビアには面白い映画がたくさんある。でも今それについて話している時間はないよね。古いホラー映画を2つあげておくね。『LEPTIRICA』(1973年)、それと『Sveto Mesto』(A HOLY PLACE/1990年)。http://www.imdb.comに記事が載っている。どこかで映画をダウンロードしてみるといいよ」

■ところで、EUについてはどう考えていますか?(現在、セルビア政府はEUへの加入に向けて交渉中)

「EUと距離を置くか、共同体に入るかは、資本主義の問題が全てだと思うんだ。金は神、人々は奴隷。EUの良いところはパスポートなしで旅ができるところだね。西側の国々はここ東側よりも多くの金を得ることができる。でも西側の国々には金はあるが、それは彼らが第三世界から搾取しているからだ。彼らは自分たちに有利なルールを作っている。僕は資本主義が崩壊することを願っているよ。僕たちは自らの手で資本主義とは別のものを組織できる。僕は世界が変わることを望んでいる。あるいは破壊されることを」

■日々、どんな暮らしをしていますか?働いていますか?

「本屋で10年間、懸命に働いているよ。本を売っている。今はディストリビューターに商品を注文する担当だ。英語の本もだね。この国の人たちは少なくとも何らかの仕事はしなければならないよ。僕たちには西側のように国からの援助がないんだ。必死で働かなければならないし、今なお満足いく収入は得られない。EUよりも給料は少ないが、EUと同じように値段は高いね」

■インタヴューに答えてくれてどうもありがとうございます。日本の読者にメッセージをもらえますか?

「興味を持ってくれて感謝しているよ。日本の人たちが僕たちの音楽やアイデアを好きになってくれたら嬉しい。文化は違うかもしれないけど、僕にも日本人のスピリットを感じることができるから、みんなにも僕たちのスピリットを感じてもらえるんじゃないかと思っているよ。前に友達にこんな話をしたことがあるんだ。日本のバンドが僕たちの曲をカヴァーしてくれたら、バンドとしてこんなに嬉しく満足できることはないだろうってね。いつかそれを聴いてみたいよ。それじゃ!アナーキー/ピース/カオス/マジック」



KOMATSU (K) x SAKATARUIDE (SR)



サカタルイードの『とびっきり対談・ブレインジャックは蜜の味?ガンバレ深井っ!編』

死ぬるぜ。高気圧を抹殺したいぜ。こ〜ゆ〜場合余裕で『反戦反対』っ!このままいくと愚痴だけで終わりかねないのでたまには静岡県磐田市のハナシでもしましょうか。
それはボクが中学生の頃『磐田夏まつり』がとても楽しみでたまらなかったのです。それは勿論『ライヴ』の感覚、『何か』が起こるから!この日の為に限界まで伸ばした坊主頭を緑色に染め、ラッカースプレーで歪んだ稲妻を入れたカラスマスク…「最高にキマってるぜ!!」…(涙)。気分は『民子命』とばかりに鬼ハンのケッタ(チャリンコ)でひとたび町に出るとそれはそれは恐ろしい『パンク』があちらこちらに居るワケです。ほとんどのヒトが約1mの天を突き刺すモヒカンに我が町のハッピ!JR磐田駅を完全に占領して構内放送用マイクで『ハイ〜こちら磐田パンクスでーす』なんてやってる外側から警察に包囲されてるワケで。ほとんど『どおくまん』の世界。良く分からないけど何かが物凄く…コワイ。
今から2年前に『浜松G - SIDE5周年』としてボクの企画でGAUZEワンマンを行った際(もち最高!)の打ち上げでシンさんが「おい!磐田のヤツでよ〜20年くらい前にオレん家の近所の信号ブッ壊したヤツ居ただろ?!」「…ボクです(澤さん)」「あとよ、電車の座席外しちゃったヤツ誰だよ?!」「…ボクです(澤さん)」結局全部澤さん(ZONE)の仕業だったのですが(笑)。
つまりボクが『パンク』を知ったのは『ライヴハウス』でも雑誌『宝島』や『フールズメイト』でも無く磐田第一中学校に通うフツーの生活から、という事になるのです責任取れコノヤローっ!ケンさん(BOUND)やホリエさん(ZONE)にもよくガン飛ばされたな〜。「当時はここら辺だけで9バンドくらいあっただに〜」(澤さん談)。この記事を本人に見せると多分『オレん言葉そんなナマってねぇら!?』と怒り出す姿が目に見えるので皆さん内緒で宜しくお願いします。
今回の対談はOUTSIDER『こまっちゃん』こと隣町の大先輩KOMATSU氏。浜松キャットアグリーの『ズッキーニ永田(KY爆弾)』引き連れ行ってきました豊橋へ!「ヒトと違うコトをやる」のが『新しい』なんて考えこそユージュアル。自分の使命をまっとうすれば良い、それだけ。ガンガン行こ〜っ!!

SR「今回ね、せっかくこまっちゃんがヴォーカルなワケだし、歌詞とか載せてもイイ?」
K「イイよイイよ。あ、そ〜いうカンジ(笑)?」
SR「ナニ行こう?『Freedom Rock』?」
K「あぁ、イイね」
SR「あと『She Was A Punk Rocker』!こまっちゃんもスキでしょ?あの曲」
K「うん。…好きだね〜」
SR「(歌詞カードを見ながら)コレ…は、彼女はパンク・ロッカー『だった』ってコト?」
K「『だった』って事だよね」
SR「ど〜いう風に作ったの?」
K「コレはね、『She Was』てのは別に『彼女』って意味だけじゃ無くて」
SR「『元カノ』とかじゃ無くて?」
K「うん、語呂が良かったってのもあるし。だけどコレ、みんなに『だった』っていう『過去』?『だった』よ、でも『今』は?っていう『問いかけ』」
SR「あ〜、イイね〜」
K「昔は『パンク・ロッカーだったよ』こうだったよ、そんトキ持ってたモノを今はどうしちゃった?」
SR「聴いたヒトに考えて欲しい、と?」
K「うん」
SR「しかもコレのサウンドも何か『横タテのり』みたいなカンジで(笑)。聴いててキモチ

\- SHE WAS A PUNK ROCKER -

白く世界が濁った
曖昧な意味になった
おとぎ話だと知った
ひどく暑い午後だった

歪み溶け出す太陽
理想が残した傷
濡れた孤独を許す
満たされる事は望んじゃいなかった

SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS YOUNG

吐き出した言葉だけ
ちりばめた夜の空
だから全てを憎む
お前を愛しているなんて言わなかった

疑う事　裏切る事
信じる事　手放す事

SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A PUNK ROCKER
SHE WAS A YOUNG

MORE MORE 燃えた SHE WAS YOUNG

がイイ」
K「あ～(笑)」
SR「『ダンスビート』っつ～のかな?アレがイイんだよ」
K「で、歌詞もさ過去形だよね、『だった。だった。』って」
SR「やっぱりこまっちゃん自身が前進して、そんで居なくなっちゃう周りのヤツにもう一回『言ってる』?」
K「そ～う、そうそう。今はど～なっちゃったの?ってネ」
SR「こまっちゃんて、多分ボクが知り合った頃から『ひとりで居る』様なイメージがあって。例えば同期の人間とか仲間って居たりしたんですか?」
K「それはもう、丸っきり居なかった(笑)!オレはそう結局『蒲郡(がまごおり)』でやってて、今は豊橋に住んでるんだけど。当時は全然居なくてね。学生の頃はバンドやってます～、つって就職するとみんな辞めちゃうよね」
SR「田舎は特にそうかもね」
K「で、たまたま深井(元Gone Mad)と知り合って。声かけてもらって、それから豊橋に遊びに来るようになった」
SR「深井がレコード屋で働いてる頃?」
K「うん『ハードコア聴くんだねぇ』なんて声かけられて(笑)!」
SR「イイね～(笑)。それこまっちゃんが幾つ



位の時?20歳…とか?」
K「ん、21っ!で深井が19…か。でツルむようになって」
SR「OUTSIDERの前はこまっちゃん何なの?」
K「『DISREGARD』!1回ね、テープを出したじゃんね?『豊橋CITYハードコア』の。それが初のちゃんとした『カタチ』かな。今日着てきた革ジャンの背中にも書いてあるよ、ハハハ(笑)」
SR「ホントだ～!写真撮っておいてイイ(笑)?」
K「イイよ(笑)。それまでは…コピー・バンドみたいのをやってた。最近じゃ全然来ないけど『ナガイ』とか『タンタン』とか色んなヤツが居てさ。それ3～4年やった…のかな～」
SR「じゃ『バーニングスピリッツ』とかコッチ来たら一緒にやったりとか?」
K「やったやった!ブタマン君(鉄アレイ)に『おい、ディスチャージだか何だかってバンド～!』なんて言われて(笑)!」
SR「(笑)。…それで直ぐOUTSIDER?」
K「ん、すぐ…結構そうだね」
SR「それはナッチュー(前Gu)と?」
K「違う。ツヨシ(Ba)と一緒にやりたくてさ～。目を付けとったじゃんね(笑)。『パンク』だなぁ、って」
SR「あぁ」
K「そしたらナッチューが『入れて』って言ってきてさ。何だかんだそれで落ち着いた…と」
SR「ナッチュー最近ナニやってんだろ?連絡とってる?」
K「う～ん…多分ギターのチューニングしとる(笑)」
SR「アハハハ(笑)!早く戻って来ればイイのに、アイツ面白いから。前に『オマエの声うるさいよ』って言ったら、『オレの声は良く通るんだろうな』だって(笑)」
K「アハハハ!『ポジティヴ』(笑)!スタジオ終わって外で喋ってんじゃん?すると苦情が来んじゃん。オーナーが出てきてさ、『ちょっと静かにしてくれんか?特に夏目(ナッチューの本名)君っ!』」
SR「アハハハ(笑)!」
K「今はまたメンバー代わって」
SR「ギターが『ユウサク』とドラムが『トモアキ』?ふたりは正式ですか?」
K「うん。一応『正式』のつもりで!」
SR「イイと思うけどね、アイツら」
K「バンドってさ、結局『人間性』ってトコロになんじゃん?長くやれば余計に。そう考えたらあのふたりは…やり易いよネ」
SR「あ、そうか!やっぱ昔から知ってる、っていうのともうひとつ、『OUTSIDER好きで入ってきてる』ってのはデカいかも」
K「そ～かもね。ユウサクもそう言ってくれるもんね」
SR「トモアキも『まさか自分がOUTSIDERで叩くとは!』って言いながらステージ上がって行ったからネ」
K「そうなんだ?」
SR「好きなヤツはやっぱり『生き残る』っていうと大袈裟だけど結果『居てしまう』からね」
K「そうなるよね。あと、ハードコアって極端な部分ってあるでしょ?」
SR「ど～いう風に?」
K「ほら、簡単に言うと『個性』だとかさ、普通のヒトからしたら『ちょっと…』みたいな。そん中でやっていく、ってのはやっぱり、ね」
SR「あぁ。ライヴはやっぱり『名古屋』とかが多いんですか?」
K「今ね～、ほんと『まんべんなく』。誘ってもらえたらガンガンやってる」
SR「名古屋とか近いし『Home』的なカンジも少しはある?」
K「やっぱ付き合いが長い分、多少は…あるかもネ。『分かってもらえてる』カンジはする」
SR「うんうん。今日あと1曲…『ブレインジャック』だっけ?違うわ『Freedom Rock』。どんな内容か…?」
K「コレは『パンク・ロックは、もっと自由だったんじゃないか?』って歌」
SR「そうなんだ?!」
K「ていう、つもりで作ったんだ。パンクと言っても…」
SR「『凝り固まってる』トコロがある?」

3. FREEDOM ROCK

人が人を試し　裁き　欺き　築く　ONE NATION
人世人世の巧みな仕組みに気付く　GENERATION
いくつかがひとつになる前に
いくつかのひとつを研ぎ澄ませ
叫び続ける　叫び続ける　叫び続ける
FREEDOM ROCK

FREEDOM ROCK　FREEDOM ROCK　FREEDOM ROCK

避けて　裂けて　くだらなさを受け入れるつもりはないし
憂鬱　カモフラージュ　ため息　君はそんなんじゃない
人知れず戦う　outsiders
むき出しの命は透明さ
解き放て　soul　解き放て　soul　解き放て　soul
FREEDOM ROCK

FREEDOM ROCK　FREEDOM ROCK　FREEDOM ROCK

繰り返す時　邪な俺　立ち上がる君　近づく

解き放て　soul　解き放て　soul　解き放て　soul
FREEDOM ROCK

K「うん。そうかな?やっぱだからそこに対して。『もっともそうじゃ無い!』って。社会に対して『不満を感じた』んだろ～っ!っていう、さ」
SR「うん、ロックだからね」
K「実際その『パンクは自由だったぜ』って言葉はひとつも無いんだけれど」
SR「パンク・シーンに対しても?」
K「うん」
SR「今は『通販』とかでパンク・ファッションなんて直ぐ仕上がっちゃう(笑)」
K「当時は『安全靴』ね(笑)。そこそこ受け入れられちゃってるのかな?」
SR「オレ達のスタイルが」
K「その分ね、逆に『自由さ』を失ってきてるカンジもするんだ」
SR「『チャレンジ精神』みたいなのね?」
K「うん。オレとしてはこれからも豊橋でずっとやっていくのは『当然』だけど、それで盛り上げて行きたい!ってのはあるしね」
SR「うん。最近どうですか?『ニュースクール』みたいなバンドもちらほら居るみたいだけど?」
K「う～ん…あんまり…知らない(笑)。それより『自分達がやっていかないと』って思うよ」
SR「『CELL』とか出てきてイイじゃん?カッコいいし」
K「あぁ、一時期に比べたらね。とにかく『パンクであり続ける!』っていう、さ」
SR「あぁ。それがこまっちゃんの…」

K「『パンク!』だね。今の豊橋は絶対数が少ない状況だから。…常に『今回しか観ないヒト(お客さん)も居るだろう』と、それを踏まえた上でライヴやってる。全力でやるしかないよ。自分達を『初めて』観た、そして『最後』になるかも知れないから」
SR「うん」
K「『最高』のコトをやるべきなんだよ。『使命感』じゃ無いけど…」
SR「オレはこまっちゃんがいつも髪も革ジャンも『ビシッ』と決めてるトコロが好きなんだよね。たまにマータ(CELL)ともそんなコト話すけど」
K「やっぱね、オレん中でパンクってのは『ファッション』!かなりデカい。コレをする、っていうのが社会への『アピール』だしさ」
SR「そうだね」
K「ライヴという『空間』?だけでこんなんやって『後は知らないよ』じゃダメだよ。それじゃアピール出来ない」
SR「最初にガツンと来たのは何ですか?バンド?」
K「最初…つ〜か『マッドマックス』じゃんね!」
SR「『2』?」
K「そう『マッドマックス2』観てね、お〜!スゴいな〜っ、って。それが映画の中だけじゃ無くて実際にこういう格好のヒト達が居るんだ?!って。それからもう『ス〜っ!』っと」
SR「格好イイもんね〜」
K「未だにね、オレん中でアレを越えるモノは無いね。バンドでは…直接的に影響受けたのは、やっぱ『CHAOS U.K』…かな。その前は『スターリン』聴いててさ」
SR「あぁ、うん。やっぱ普通に(スターリンは)聴いてた?」
K「友達の影響でね。んで貸してくれたヤツよりオレの方がハマっちゃって(笑)」
SR「あるよね〜(笑)。こまっちゃんは『日本語』っていう部分にこだわってますか?」
K「ん…歌も『音』なんだ、って感覚では居るつもりだけど『言葉遊び』が好きだったりもするみたいネ。あと『言い回し』のひとつふたつでフタ空けてみたらエラい違う、とかさ」
SR「あるね」
K「普通の歌謡曲とか、ほとんど下らないけど。何か、ちょっとしたトコロでさ『今のイイな』とか」
SR「『引っ掛かってくる』みたいな?」
K「そう。使い回しがイイな、とか『流れ』が気に入ったり。反応しちゃうよね」
SR「曲はツヨシが作ってるの?」
K「うん。あとナッチューだったり」
SR「『コレに歌詞載せて』って渡される?」
K「そう」
SR「説明とか最初にあるの?『コレはこういう曲だよ』的な」
K「無くてね。任される」
SR「それにしては上手くいってるよね『世界観』つ〜の?」
K「ちょっと時間がかかったりもするけどね。練習で何回もやって、慣らしていく作業があって、イメージを広げてさ。だけど…『ボツ』も多くて(笑)」
SR「そう?」
K「作った曲、ホントは倍くらいあんじゃないかな、いっぱい」
SR「何でボツになるの?」
K「誰かひとりが『やめよう』って言ったらやめちゃうから。オレは心の中で『あの詞は結構好きだったんだけどな』っつ〜のもある(笑)」
SR「あぁ、『いつか活かしたい』みたい?」
K「そうそう(笑)」
SR「首藤クン(E.A.S.T. PEACE)が出してるでしょ?その…知り合った経緯は?」
K「あれは…首藤クンが声をかけてくれた。オレらのライヴ観てくれて『こういうの(レーベル)やってますけど』って。録音とかはやったコトあるけど、さぁ『どう出すんだろ?』って思ってたから。じゃ是非!って。それがファーストの時」
SR「それで仲良くなって次(セカンド)も?」
K「うん。『お願いします』って」
SR「首藤クンて元々名古屋のヒトなのかな?」
K「確かそうだよ。名古屋はさ『シーンがある』っていうか、色々あってスゴくイイんだよね。色んなモノを聴ける」
SR「変わった町だよね。ある意味『独特』?」
K「自分達の空気を持ってるんだろうな」
SR「うん。あと…何か言っておきたいコト無いですか?」
K「とにかく…とにかく『パンクでいろ!』と」
SR「メッセージ?」
K「そう!一歩でも踏み込んだら、もう」
SR「『ブチ抜け!』と?」
K「うん」
SR「パンクより面白いモノが見付かったら仕方ないかも知れないけど。オレはやってて、スゴく面白いな」
K「とりあえず『寄ってみました』じゃなくてさ、『やれるよ』って」
SR「うん!OKです。今回ホントありがとうございました!」
K「いやいや〜(笑)。あのさ、いつも誘ってくれてありがとうネ」
SR「『誕生日会』とか(笑)?」
K「そう。あ〜いうの無いと普段はウチから出なくなっちゃう(笑)」
SR「みんなそうじゃないスか?だから喜んで来るっ」
K「あ、そうかそうか(笑)」

いかがでしたか?こまっちゃんには月1〜2ペースで行われる浜松シーンの飲み会にも毎回快く(キメキメで)参加してもらっています。これからもお互い盛り上げて行きましょう。
…ハナシはかわって四日市でThe LITTLE MIRRORS演ってきました。サカタルイードとホンガシ(BEYOND HATE)、マサ(902)に加え今回からベースにケイタ(DILDOS)、ドラムにナオロウ(BEYOND HATE)の新体制。ステージでは久々に『生きてる』ってカンジがしたな〜。対バンのMUSTANGも良かったし何よりシン(ACROSTIX)の色男っぷりにビックリ(ホレた)!お客さんも楽しそうであの日ケイオスに居た全てのヒトがキラキラしていた。リョウ(The scooterz)の糞野郎を除いてはっ(怒)!…まあイイ。今冬にイケイケレーベル『人間堂』からDVDがリリースされる予定なのでそちらもヨロシク。
そしてVEKTORは待望の新メンバー決定です!まずはBassのアラカワBOY、『「BABY SKINDEEP」って曲が好きです!』なんて全裸になられちゃたまらない(笑)。ガンダムにやたら詳しいトコロも高得点っ。続いてDrumのグッさん、色んな縁があり連絡を取れるようになったので『グッさんが入ってくんなきゃベクターは無くなります』とメールしたら『そういう言い方は良くないですよ…入りますけど(笑)』…やった!!『全員正式のバンド』って実際やるのは初めてだぜ!ここから徹・底・的・に・他との差別化をはかって行くのでご期待あれ!この号が出る頃にはオゼキ大統領(902)の大誕生日会も無事終わっているコトでしょう。…コトを祈ります(笑)。

NEW「VEKTOR」Photoムネ(笑)



WORLD MELODIC POP PUNK TRAVELLING

TEXT:
Yuki SP(Y)/WSオニギリ(O)

Vol.8 333xUP&DOWN

BAD NEWS/WHAT'S BEST FOR YOU



個人的333xUP&DOWNシリーズ・ベスト作品！ドイツのグレイトPOWER POP PUNKバンドの4曲入り作品。フィンランドのUSHER BOYS(ex.MOPOT)ともタメをはるほどの爽快痛快ブギウギ・サウンドは、現行のバンドの中に放り込んでも全く古臭さを感じさせません。B-1"SHE'S MY BABY"は現在盛り上がるカナダのOTTAWAシーンのバンドが好きな方は悶絶必至のスウィートPOWER POPソングの最高峰。(Y)
(INC.074)7"　1995年

DISGRACE/NOBODY'S TOY



元々はミニ・アルバムをリリースする予定だったものの、バンド側の経済的問題から3曲しか録音出来なかったということで、このシリーズに登場。フランス産キラー・パンク・ロック・バンド。BACK TO FRONTなパンク・ロックを奏でるバンドの一つ。タイトル曲は結構ベタなパンク・ロックかなと初めは思わせ、サビになった瞬間にジャケのイメージとは異なる哀愁メロディーを爆発させてきて、初めて聴いたときに、これ手に入れて正解って喜んだ記憶があります。(O)
(INC.035)7"　1992年

BROKEN TOYS/HUNGOVER, AGAIN



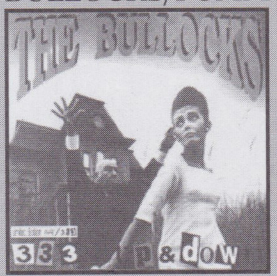
カルト的人気を誇る米国産ポップ・パンク・バンド。70'sパンクやガレージ色もありのロックンロールを基本としながらも、そのポップ・メロディー・センスは一部の人間を熱狂的にしている。実際彼らの作品は海外で現在も高値で取引されている。が、日本ではホントに一部というか恐らく20人未満の人にしか評価されていないのでは。タイトル曲で、また二日酔いになっちゃったってなダメダメな感じも愛してやまないバンド。(O)
(INC.025)7"　1992年

FUCKBOYZ/GOIN' NOWHERE



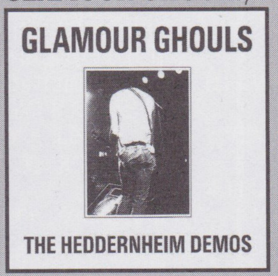
BAY AREA産B級ポップ・パンク・バンドも登場しているところにこのレーベルの恐ろしさを感じる。当時のUSアンダーグラウンド・シーンの重要レーベルSHREDDERも2ndシングルを91年のベスト・リリースの一つに挙げている。彼等の素行やヴォーカルのMattyがオーバードーズで死んでしまったりとそっちの面で有名だけど、彼等は純粋に90年代を代表するかっこいいパンク・ロック・バンドだった。ディスコグラフィーCDもリリースされているのでぜひ聴いてみて欲しい。(O)
(INC.053)7"　1993年

BULLOCKS/FUMMY



INCOGNITO大絶賛のドイツ・パンク・ロック・バンド。まさにBACK TO FRONTパンク・ロックな初期衝動を90年代にやっている。そしてそれを発掘するセンスも凄い！今回のレーベル・インフォは的確でBUZZCOCKSとADICTSのミックスがまさにこのバンドのサウンド。BUZZCOCKSをADICTSのスピードでやったらこんな感じ。緊張感がある中にも疾走感とポップ・センスがきらりと光る作品。初期パンク・ロック、ポップ・パンク好きな人両方にんまりな内容なのでは。(O)
(INC.029)7"　1992年

GLAMOUR GHOULS/THE HEDDERNHEIM DEMOS



INCOGNITOからミニLPもリリースしているドイツの5人組グラム・パンク・ロック・バンド。88年録音のデモ音源をレコード化したもの。裏ジャケのメンバーの写真を見ると全員やばめの風貌で心配になりますが、情けなくも甘ったるいサウンドは中毒性が高く、ここ日本でも極々一部のメイニアックな方に支持されてるとかされてないとか。もちろん本国では全くの鳴かず飛ばず。(Y)
(INC.067)7"　1992年

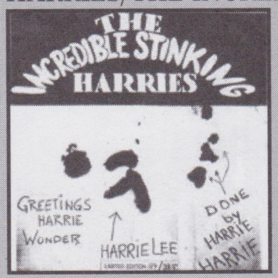
DIE SCHWARZEN SCHAFE/HELDEN FÜR EINEN TAG



ドイツ産メロディック・ハードコア・バンド、星の数ほどリリースされているシングルのうちの1枚。酒のニオイがプンプンする汚いライヴハウスで演奏している風景が容易に目の前に浮かぶ、ワイルドで投げやりなパンク・ロック・サウンド。メロディーの起伏が非常に乏しいので、ずっと聴いてると全部一緒の曲に聴こえてくる3曲入り。(Y)

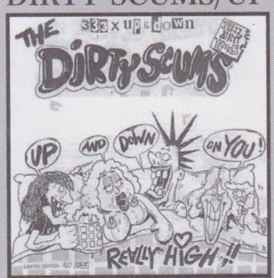
(INC.031)7"　1992年

HARRIES/THE INCREDIBLE STINKING HARRIES



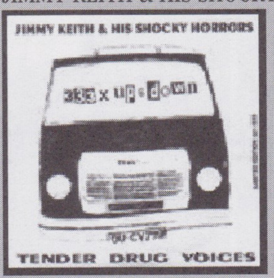
ダッチ・パンク！TOY DOLLSばりのコーラスワークといい疾走感もあるし、メロディーの良さでもっと評価されていいのではと思うけど。この手のサウンドに必要なアホっぽい甲高いヴォーカルの声質もバッチリハマってるしね。HARRIESのベスト音源とも言える4曲収録。ピアノも入れた"YOUR BABY"が最高すぎです。僕はオールディーズ聴くならこの曲聴きます。そのくらい激ポップ！ポップ・パンク・ファンも避けていちゃもったいなさすぎるグレート・メロディー・バンド。(O)
(INC.038)7"　1992年

DIRTY SCUMS/UP & DOWN ON YOU



シリーズのタイトルを曲名にもってきたベルギーのダーティー・パンク・ロック・バンド。ベルギーの最初のパンク・ロック・バンドで1981年結成で未だに現役続行中という大ベテラン。このシリーズの中でも結構人気のある作品で、彼等のへっぽこな初期ハードコア・サウンドが人気というよりもB面に収録のRAMONESメドレーが目当てなんだと思う。このメドレーが作品としては面白いけど、別に優れてるわけでもない(笑)。まぁ、でもこれは買っちゃうよな。(O)
(INC.034)7"　1992年

JIMMY KEITH & HIS SHOCKY HORRORS/TENDER DRUG VOICES



日本盤も後にリリースされるドイツのロックンロール・パンク。この作品より前にリリースされたアルバムに収録の曲がクラブでもしょっちゅう流れていて、日本でもそこそこ話題になったので結構知名度は高いと思う。タイトル曲はノリノリかつ激キャッチーなラブ・ソングでかっこいい。でもロックンロール色がたまに濃すぎる時があるので苦手な曲は苦手です。でも、たまに爆弾があるから買ってしまうってノリです。(O)
(INC.045)7"　1993年

90年代にKILLED BY DEATHシリーズと並び70's パンク・ロックの再評価を世界規模で推進した最強のコンピレーション・シリーズ、BACK TO FRONTのリリースであっという間に世界中にその名が知れ渡ったドイツの帝国INCOGNITO RECORDS。まさに、狂気のレコード・コレクターっぷりでも有名ですが、彼等が333 x UP & DOWNシリーズとしてリリースしまくった7"シングルは49枚。そして、そのシリーズからいくつかの作品を抜粋してリリースされた編集盤CD1枚（ちょっと内容中途半端）を足してトータルで50枚！という驚きのものだった。正直リアルタイムで買い続けるのは経済的にも困難だった。しかし内容は、多くのバンドがベスト音源なのではと思えるものをリリースしているし、とても面白いものだと今改めて聴きなおしてみても思う。と、いうことで今回はその333 x UP & DOWNシリーズからお気に入りの音源を紹介させていただきます。初期パンク・ロック・スタイルから、メロディック/ポップ・パンクと言われるバンドまで、彼等のセンスにより選び抜かれた作品。いくつかの作品は高値だが、中古で結構な安値で売られてもいるので、興味を持っていただけたら救出してもらえればと思います。

MARIONETTES/ PRETTY BABY



後のMARIONETZがMARIONETTES名義で活動していた頃のデビュー直後の79年録音作。SEX PISTOLSなどの初期パンクにモロに影響を受けており、おもしろみも全く無しのダサダサRAW PUNKの応酬に、おかしいなーと首をかしげながらそっと針を外してしまうこと必至。歌詞も英語で全くいいところなし。(Y)

(INC.039)7" 1992年

SUICIDE PACT/WE WERE HEROES...



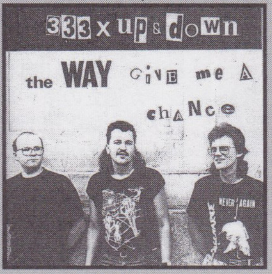
スイスの若者3人組。THE SECT/SKIMMERのKEVINのような青臭いヴォーカルは耳に清涼感を与えてくれますが、「マネー！俺はお前の金に恋してる！」なんて曲を歌っているので全てが台無しです。ジャケットに「シングル・オブ・ザ・イヤー」と自分たちで書いちゃってるあたり、これぞまさに若気の至りというものでしょう。歳をとってから赤面することは間違いなし。当然、この後リリースなし。(Y)
(INC.061)7" 1994年

MARIONETZ/TICK TACK



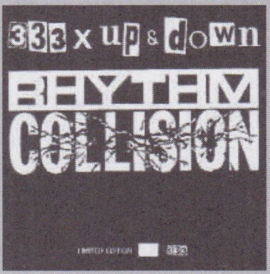
今作はMARIONETZ名義でのリリース、82年録音作。針を落とした瞬間、ガッツポーズが三日三晩止まらなくなるほどの最強ポップン・ミュージックが流れてきて、前述のMARIONETTESの悲惨さも全て水に流せます。歴史的大名盤である1stシングルをも越えているのではないかと思える極上サウンド。絶妙なタイミングでの裏声コーラスやシンセサイザーなどなど完璧としかいいようがありません。ドイツPOP PUNKの玉手箱や～！(Y)
(INC.046)7" 1993年

THE WAY/GIVE ME A CHANCE



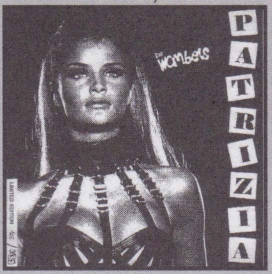
オーストリアの初のパンク・ロック・バンドらしいBOESLINGEのメンバー含むおっさん3人組。なんと2作続けて333xUP&DOWNシリーズからリリースするという偉業を成し遂げております。どこか不安的な国の情勢が反映されているのか、裏声のフーフーコーラスがなんとも危なっかしい雰囲気を醸し出しています。「ギブミーアチャンスー！」と連呼する様子を見ると手を差し伸べてあげたくなりますが、彼らはこの後も元気に活動を続け着実にリリースも重ねていったので一安心。(Y)
(INC.058)7" 1994年

RHYTHM COLLISION/NOWHERE



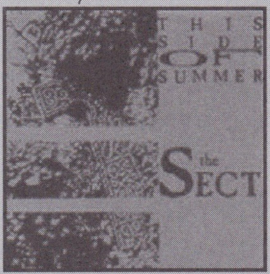
シリーズ第2弾に登場のカリフォルニア産メロディック・パンク・バンド。B級まっしぐらの彼等は好きな人は好きだけど、はっきりいって人気はない(笑)。活動当時もメロコアとポップ・パンクの中間という中途半端と思ってる人が多かったのでは。しかし今聴いても色褪せないのはその微妙な立ち位置だったからなのでは。レーベル・インフォではCLASH-STIFF LITTLE FINGERS-punkと記載があるがそれを求めて手に入れた人は「はぁ？」ってなったのは間違いないだろう。(O)
(INC.023)7" 1992年

WOMBELS/PATRIZIA



333xUP&DOWNシリーズでも人気の高い1枚。ドイツのカルト的人気を誇る3人組。「パトリシア～」と連呼するタイトル曲はショボPOP PUNKアンセム。編集盤に収録のものとはヴァージョン違い。86年録音の初期音源なので、パトリシア以外も総じてスカスカかつ心に染みる素晴らしいサウンドの曲を連発。熱心なWOMBELSファンは編集盤で満足せず、このレコードもぜひ手に入れて欲しいものです。(Y)
(INC.027)7" 1992年

SECT/THIS SIDE OF SUMMER



プレス数の少なさとINCOGNITOコレクターのおかげでSECTの作品の中でもコンプリートを目指す人の多くを悩ませる作品。初期のSECTではなく、この時期完全にメロディック・パンクとなったSECTをリリースするのは結構驚きでした。しかし、このシングルはSECTファンにとっては号泣一直線な名曲3曲をぶち込んで来ているのだから、たちが悪い。SECTが好きなら何がなんでもこのオリジナル盤をゲットすべき。メンバーは現在もSKIMMERとして現役続行中。(O)
(INC.032)7" 1992年

ZAKONAS/LITTLE JOHNNY....



333xUP&DOWNシリーズの記念すべき第一弾リリースを飾るのはSONIC DOLLSの前身バンドZAKONASの2曲入り。70年代パンク・ロック・サウンドをチープな英語で頑張って歌いあげる様は、全く知らない人でも応援したくなるような気分にさせてくれるはずです。この他にもフルレングスやSPLIT FLEXIなどもリリースされているので、気が向けばコンプリートしてみてください（誰にも自慢できませんが）。(Y)
(INC.022)7" 1992年

SONIC DOLLS/PIN-UP GIRL



このシリーズきっての有名バンドのリリース、ドイツのSCREECHING WEASELフォロワーSONIC DOLLSの2曲入り。もうなんだかこのレベルになると安心して聴けちゃいます。B面なんてもろSWで思わず笑っちゃうくらい。ジャケットの紙質も心なしかいつもよりいい気がします（笑）。ZAKONASと同じヴォーカルだなんてシンジラレナ～イ！(Y)

(INC.077)7" 1995年

ZONA A/SUCAST STROJA



現在も現役続行中のチェコのZONA Aがこのシリーズに登場したのは必然だろう。80年代初頭から地下で活動を続けてきたこのバンドのサウンドは初期パンク・ロックのもつ猥らしさをずっと持ち続ける貴重な存在。ベルリンの壁崩壊後、一時だけチェコ国内では何千人も集める大人気のバンドとなった。が、何よりも初期からなんら変わらない東欧特有の暗いメロディーを持ちつつも、合唱当然なコーラスを毎度のことながらぶち込んでくる確信犯。(O)
(INC.040)7" 1992年

GIVE THE ANARCHIST A CIGARETTE

第七回

TEXT:PAINTBOX　宗



あのちょっと編集長!発行の間隔狭いよ!(笑)自爆とは言え、ただでさえVol.6に二回分載せちゃったし……。
とか言って編集長のせいにしておりますが、とっくに締め切りは聞いていたらしく、確認しようと編集長にメールしたのが締め切り5日前。
何となく分かってはいたものの、何も手をつけていない俺は、締め切りもっと先だといいなぁ～なんて思ってたので、当然と言えば当然の締め切りにがっかり。

ちょうどライヴやイベントがあまり無く、書く事に困っており、連載当初の様にとりとめもなく思い付いた事を書いちゃおうかと思いましたが、何となくこれまでの流れを考えてしまうのは人として当然の事。
流れで行くと、やはり書きたいのは8月17日、新宿ロフトの「チェルシーの日」なんだけど、この号が出た頃には終わったばかりで、次の号にライヴ・レポート書くには間が空きすぎる……。
って事で、このコラムではライヴ・レポートはパスします。

そう、簡単にパスします(笑)。
これもなんかの流れ…チェルシーの意思…そう思ってます。
だってチェルシーいなくなって、追悼とか何回もやってもほとんどメディアに出ないでしょ?なんで?って思うもん。
きっと「流れ」なんですよ。多分ね。

この号がでる頃には終了している、今年の「チェルシーの日」。どうだったんでしょうか?
で、やはり気になるのは我らPAINTBOX!
今回のライヴは極端に練習量が少ない。二人がヘルプ・メンバー。俺も一年ぶりのヴォーカルでスグルも勿論、一年ぶりのドラム。再結成か、俺らは!って感じです。

去年の追悼は一本では無く、ツアーでした。
徐々にレベルアップすれば……なんて考えもありましたが(実際ツアーって最初とラストじゃ仕上がり具合が違うもんです)今年は泣いても笑っても一発勝負!と言う状況で、どれだけのライヴが出来たのか。

一本きりと言う寂しさにきっと打ちひしがれているのは明白なんですが、いいライヴだからこその寂しさなのか、悔いが残る寂しさなのか……。

そして、もう終わってるだろうから隠さなくてもいいのかもしれないけど、一応、言いませんが……PAINTBOXのリーダー、チェルシーが過去のキャリアの中、自ら作り上げた巨大な伝説と相まみえて、俺は何を感じ、見た人間はどう感じたのか。
ハッキリ言ってバンドとして、と言うか音楽的には確実に過去のバンドをPAINTBOXは越えていると思ってますよ、マジで。

過去の一時代を築いたスーパー・バンドを全く違うサウンドで軽々越えるチェルシーを身近に見てきて、そりゃ感心したもんです。
そう思うでしょ?好き嫌いは別としてね。
だけど、こんなミラクルが現実になるとは、っつーかあり得なかった事が起きると誰が予想した?

BASTARDとJUDGEMENTが対バンする?LIP CREAMとCOLORED RICEMENがやるか?

バンドをやって来た者が誰しも味わいたくない、というかなんつーか……、誰でも以前のバンドを越えたいと思ってる訳で、例えば音源で比べられたりは、仕方無い事だけど、まさかのまさか、自分の歴史の中の過去と現在のバンドが同じ日に出演!

ハッキリとした結果を持って(まぁ、人がなんと言おうと関係無いっちゃ無いけど)、リアルに現実として見比べられても仕方無い状況に置かれると?
無いでしょ、そんなの。しかもやっぱりさぁ、再結成って誰しも夢見てるから、見る方は嬉しいでしょ?当然。リップ盛り上がったでしょ?

格好つければね、チェルシーの過去と現在を一度に味わえて、尚且つ現在のPAINTBOXがどれだけ進化したもんか気付かせるチャンスだぜ!見とけ、この野郎!ぐらい言いたい所ですが、なにしろ強気に出れる状況じゃないんですよ、ペイントは。

さっきも書いたけど、二人がヘルプ、超練習不足、バリバリ活動してた訳じゃなく、ライヴ自体一年ぶり。いやぁ、プレッシャーだわな、間違いなく。
言っちゃえば向こうはある程度、完璧じゃなくても許されるでしょう、超久しぶりなんだから。しかも見る方は、嬉しさが先行するだろうし。冷静な人は少ないんじゃないかな?
しかし、これは俺個人の問題では無く、チェルシーのプライドがかかっている訳です!
音楽的進化を万人に見せつけなくちゃならない。
そして俺は勿論、決意を持って弾いてくれるスギちゃんとオサムのプライドだってかかってるんですよ、マジで。
言っちゃえばチェルシーを認める全ての人が、チェルシーの進化を見届けたいはずなんです!

いやぁ、ライヴ前に書かなくて良かった、これ(笑)。

だけど、マジでこんくらいのレベルの話だと思ってますよ、俺は。
チェルシーなんてアメリカ行った時にビラに「PAINTBOX(ex.○○)」って書いてただけで「過去は関係ねえんだよ、過去は!」って怒り出す男なんだから。
はてさて、どうだったんでしょうか、現実は。一応、策として色々考えた、俺も。

まず、再結成の驚きで客は冷静じゃないってのを利用します。例えば、

熱くなったふりをして、先にそのバンドのカヴァーをやりまくり、シラケさせる。

熱くなったふりをしてコーラスに入るがタイミングを間違えまくる。

熱くなったふりをして、ギターは俺が弾きたい!と無理矢理参加して全く曲を覚えていない。

熱くなったふりをしてペイントで感無量で歌えないフリをする。だから今日はイマイチでも仕方無い、と思わせる。よーするにはなから勝負をしない。

熱くなったふりをして、アンコールをやり

まくり、トリのバンドの時間を無くす。

どうですか、このどうでもいい熱くなったふり作戦。
完全に今（現在締め切り間近の朝の5時、場所はマクドナルド）、思い付いた事をただ書いただけというね、まあなんだ、全く面白くありませんな…。

生活もスランプ、文章もスランプじゃどうしようもないですね。多分、余裕のない俺は、俺じゃないんだな、と思ったりもします。
まともな事書いちゃった。しかし、自分の絡んだライヴの「予想」なんてあんまり書かないだろ、普通。
だからこれも、ある意味、常に新しい事にチャレンジするというハードコア・スピリットに通じる事だってのを分かれよな！……分かってみて下さい。

とにかく今年のチェルシーの日は終わってしまいました。
来年あるのか否か……ペイントが出るかなんて約束は出来ませんが、多分チェルシーはワガママなんで、きっと来年もチェルシーの日をやる流れになるでしょう。
だって来年は企画から俺が参加するの、決めてますから。
俺が仕切りになれば、チケット代は倍になり、地方のバンドには「追悼」と言うのを利用して、ギャラは出さない。シークレット・バンド多数出演予定、と書いておく。
入場者全員に限定Tシャツ・プレゼント！と言いつつ、当日に間に合わせず、必ず発送します！と言って送らない。しかも送料は貰っておく。
う～ん、どうですか！ホント冴えない（笑）。面白くねえな、いつにも増して俺は。
まあ、来年も「チェルシーの日」は開催するんで（完全に予定）、どんなメンツ、ライヴになるか楽しみに待ってて下さい。いつまでもチェルシーを忘れさせねえぞ、この野郎!!

急に話は変わりますが、最近うれしい事が一つ。現在、高校生からの連れであり、一番古いハードコア仲間が出所して来ました！
元SOLTIC、いやDOG FIGHTER、あれ？あ、EVANCE!のベースの千葉LAST WARRIOR奥山が（笑）。

EVANCEと言えば、大袈裟じゃなく、ペイントに入ったばかりの俺の良き仲間、いや最大のライバル、起爆剤だったバンド。ほぼ同世代だから、現在も気になる彼らです…。
彼らとの対バン回数は98年6月から数えまして、延べ33回!!!（2001年4月解散）

パンク、ハードコアはテクニックでは無く、センスだと、ハッキリと証明したバンド。
考えて、練習して、キャリアもあって、というバンド達が注目し、グングン登っていく様は痛快でした。
現在も、The Slowmotionsで味を出しまくってるドラムのイズミmotion、CROSSFACEでは度重なるメンバー・チェンジに耐えながら、素晴らしい歌詞を書き続けている、ヴォーカルの松尾伴内…、じゃなくて大坂さま！
京都に拠点を移し、非合法な香りのノイズギターをWARHEADで弾きまくるコーキ。
そして誰よりもEVANCEが好きだと言ったベースの奥山！
この決して上手ではない四人が産み出した、奇跡のバンドがEVANCEでした。

1st EP（トゥメローレコード、3曲入り）で、久々にいいの出たな！って話を良く聞きました。
イズミ君にしか叩けないあのドラムと、聴く音楽のセンス最低だが（笑）、歌詞の才能は常に俺をおびやかす大坂君が作り出す、EVANCEの曲、ライヴは奇跡の連続。
98、99年とツアーも同行しました。（98年INNER TOUR, 99年NO LIBERTINE EVANSCES IN PAIN w/LIBERATE）

「外の世界がみたい」は3rd EPレコーディング前日に作ったと言う、たった2コード（！）の名曲！全てソールドアウトだと思いますが、なんとか聴いてみて下さい。
パンク、ハードコアってこうだよな、って気付かせてくれます。
HG FACTからではない、1st EP、3rd EPは再発が待たれる所ですが、その気はないかもなあ…。
そんな、ベースの奥山には早くバンドをやって欲しいですな。
某所に行ったり来たりでロクにバンド活動出来なかったんだから、今度こそガッツリやって欲しいです。焦りは勿論あるだろうけど、まあ、ボチボチやろうぜ。

生前のチェルシーとも交流が深く、「千葉出身（俺、ジャッジさくら等）はチェルシーの相手が得意なのか？」と言われるくらいに上手くチェルシーとスイングしてました。
まぁ、謎の事件はひとつあった様ですが……、俺は本人から話を聞いたし、今更何もありません！

オッケーナウ。（by EGGS）
生き抜け！生き恥を撒き散らし！越えてみろ、愚かな常識の壁を！
GO CRAAAAAAAZZZZYY!

そんな感じで行こうぜ～！奥山!!!

練習しよう、まずは。とにかくベースを弾きましょう!!!
首締めてるのは、この手か、ちくしょーー!!!!（奥山、心の叫び）

てな感じで、最初から締め切りでゴタゴタしないで、こんな感じで気になるバンドでも書いときゃ良かったんだ、と今更気づいたのでした。
また次号で、会えたら会いましょう。

じゃあな！凡人ども!!!（笑）

今月の良く回った盤



GRIND SHAFT「Monolog and Dialog」



ガンフロンティア「清酒男唄」



BUZZY大和町BAND「ロマンスのかけらもなく」



FRICTION「軋轢」

ギタリスト解剖

metal punkやろうぜ!

vol.3 hiroshi

DISCLOSEマスター川上亡き今、正直に言うと、初めてD-CLONEを見た時に私が感じたことは「ああ、DISCLOSEの痒い所に手を届かせているバンドだな」っていうのが第一印象だった。その時に某大阪CRUST MASTERとD-CLONE良いな。これだけでも十分だね。と話したのを覚えてる。が、しかし川上君が俺に言っていたようにHIROSHIは本気だった。今思えば俺が最初に見たD-CLONEが丁度ゼロの地点、そして現在までメンバー編成、機材、録音、考えられる全てにおいての探究心を持って今尚Dロードを爆走中!
最早、日本を代表するDミリティア・ギタリストD-CLONEのHIROSHI君登場!

INTERVIEWED:二ツ木正康

■あなたのお名前、バンド名は?



「D-CLONE、Gu&Vo、HIROSHI」

■ギター歴は何年?

「11年」

■現在の使用ギター、AMP、エフェクターを教えてください。

「本体はB.C.rich it.jr.V(弦裏通しのロングスケールで、弦のテンションが強い)。リアPU、dimazio x 2n(クリーンが出ないほどハイパワー)に交換。vol&tone potを排除してなんとinput jack直付け(笑)。
エフェクターはroland beebaa fuzz、dod buzz box、boss hyper fuzz、dodとbossのグライコ、korgeのvolペダル、電源パワーサプライ、bossのチューナー。
AMPヘッドはrandall V-MAX(プリチューブだからパワー管交換なし!あと壊れにくい、fuzzをフルヴォリュームでかけるから、現行のフルチューブheadだと即ご臨終。今まで何台壊したことか…)。
englプリ&ステレオ・パワーアンプ(100w x 2のステレオで、爆音!高音ノイズ出すのに最適、今の時代ラックは人気無いから、安い!しかしクソ重い…)。
キャビはマーシャル1960AV x 2。ゲンズベンズ。MESAとかいろいろ」

■ギターのチョイスが現代風だよね?トラディショナルな形(レスポールやストラト)を今使ってみようという考えは無い?というのもPUはアクティブと思いきやパッシブタイプだよね?LPにEMG PUをつけるのはストレンジな行為って俺は感じるんだけどヒロシ君の場合はその逆を行ってるよね?わざと?

「D-CLONEを始めた頃は高級レスポールでした。投げたら折れました(笑)。確かに音は最高だったけど、もう使う気はありません。ギター投げたり振り回したり感情むき出しなライヴするようになって、いつブっ壊してもすぐ買える値段と、過激な見た目重視で、今のギターを使ってます。楽器に気を使いながらライヴしたくないので。個人的に音作りに関してはストレンジとか、そーゆーのは無いです。抵抗あるのはドラムのトリガーぐらい。昔EMGも試しましたが好みじゃ無かっただけです。PUも変えまくって今のに落ち着いてる感じです!」

■アームを使ってみたいっていうようなことはある?

「アームがあると表現の幅が広がるし、興味はあります!」

■自身のギターのチューニングと使用弦メーカー/ゲージ、ピックの種類と固さ。

「レギュラーで、弦はアーニーボールの一番太いやつ、ピックは滑り止め付のやつ」

■セッティングを教えてください。自分の音の拘り、特徴もお願いします。

「長くてオタクの領域だけど良いですか?(笑)
bossのチューナーでステレオにして、roland beebaa fuzz>dodグライコ>korgeボリューム・ペダルでステレオに>randallのheadで低音NOISE。ステレオに分けたbossチューナーからboss hyper FUZZ>dod buzz box>bossグライコ(noiseのon/offとして使用)>korgeヴォリューム・ペダルでステレオに分けてenglへ。こちらは高音NOISE。
ヴォリューム・ペダル、グライコ踏み換えでのnoiseのオン/オフを大切にしてます。
昔は一台のアンプでハイ&ローnoiseサウンドを爆音で出そうとしたけど、物理的に無理で二つに分けた。片方は完全にロー、もう片方は完全にハイにしてる。二つで1つの音を作る感じ。バランスが難しくて、エフェクター、アンプを試行錯誤しまくりました!」

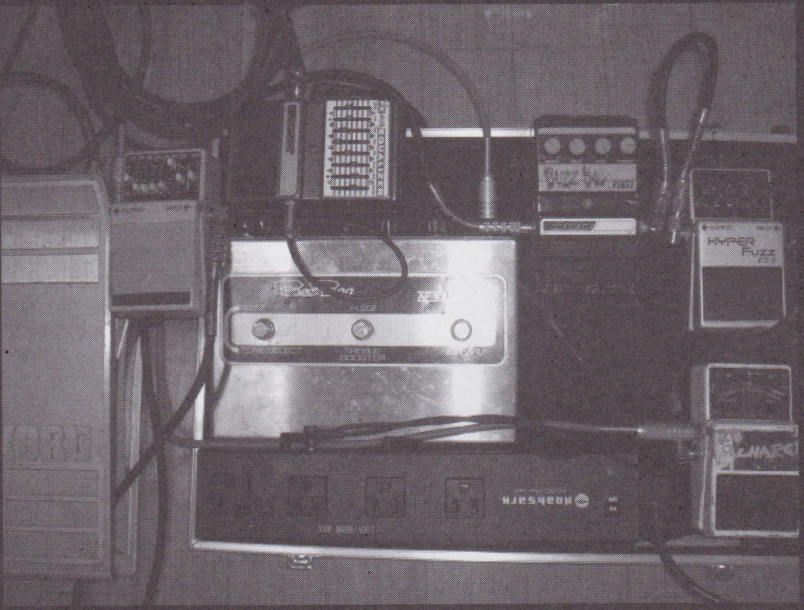
■INPUT JACK直付けのギターって俺も今まで一回見たことあるけど凄いね。足元にVOLペダルがあるようだけど、D-CLONEのギターはゼロからはMAX以外必要が無い!っていう精神面の現れですか?D-CLONEでアルペジオを弾くことは無い!ってことだね(笑)。

「相当常識はずれな配線ですよね(笑)。これも色々試した末こうなりました!D-CLONEはヴォリューム・ゼロかMAX!!そんなバン



スイッチ、ノブ類なし!!

ファズ、イコライザー＆ファズ、イコライザー!!!!



ドです!!主に怒りや憎しみを音で表現してるので、今後もアルペジオは使わないと思います。あ、家でギター触る時はアルペジオばかり弾いてます。暗ーいやつ…」

■ヒロシ君本人が大事にしていると言ってる様に一曲の中でのNOISEのON/OFFのメリハリは実際D-CLONEを見てかなりのモノだと俺は思ったけど、師匠KAWAKAMI君から何かその辺のアドバイス的なモノを貰った事は無い?KAWAKAMI君もNOISEに関するその辺のこだわりは凄いうるさかったよね(笑)。

「KAWAKAMIさんから音のアドバイスやNOISEの出し方を聞いた事は一度もありません。独学です。ライヴの時、エフェクターやアンプを見たり、DISCLOSEの音源聴いて大いに参考にはしてましたが、それはDISCLOSEに限らず他のバンドにも。当時、ワカゾーながらギターの音作りに異常な追求心持ってたのも、可愛がってくれた理由のひとつなんだろーと思います。よくオタクレベルの機材話しして、盛り上がってました(笑)」

■最初に買った、手に入れたギター、それは何故そのギター?

「たしかBC RICHのモッキン、当時Xのヒデ(初期)が好きで(笑)」

■XのHIDE氏に影響を受けたみたいだけど、今現在はBC RICHの変形を使ってるってだけで、何か他にはそのときの影みたいな影響の残りってある?実はツイン・リードギターが好きとか。フェルナンデスではなくBC RICHのモッキンを買ったってのはポイント高いね!ソレはHIDE(初期)だから?

「別にヒデに影響は受けてませんよ(笑)。見た目を含めXが好きで、たまたまギターや、激しい音楽を聴き始めるきっかけになっただけ。俺ら世代のPUNKSは多いと思いますよ!好きだったのは初期Xのみで、その頃のヒデのギターがBC RICHだったから、憧れて買ったんだと思います!昔から変形ギターが好きで、今でも変形が好きです!Xも…(笑)」

■現在までに影響を受けたアーティスト/ギタリストをあげてください。

「音作りをメインで考えると、Disclose川上さん、Isterismoしょうご君、Framtid(Gloom時代も含めて)JACKYさん、Zenocide前ちゃん、Ambervialみっふぃー社長、Contrast Attitudeごり君、Disgustスギさん、などなどエゲツナイ音を出してる人に影響されました&されてます!」

■その影響は今現在どのように自分のスタイルに反映されていますか?

「ライヴ見て、自分に欲しい音を出してる人の足元や機材を見て、参考にしてました。この機材使うとこの音が出るのかーとか。最近はアンプやエフェクターなどの機材で作る音にも興味が無くなりましたが」

■最近はアンプやエフェクターなどの機材で作る音にも興味が無くなった、と言ってますが物理的な限界を感じ、AMPを2台にして散々機材を試した結果、原点回帰して、更に初期のDISCHARGEのようなプリミティブなギターかき鳴らしで、物理的ではないNOISEにもっと目覚めて来たという事でしょうか?



「最近は本物のハードコア・パンク・バンドが出してる音に惹かれます。機材はシンプルなのに、なぜあんなスゲー音が出るのかな?と。その人自体から出てくる音、それを求め始めたので、以前ほどの機材に対するこだわりが無くなりました。
以前は機材で作る音の事ばかり考えてたけど、USAで見たPUNKSや、名古屋のハードコアの先輩と仲良くなるにつれて、音に対する感覚が変わりました。人の中身と機材の知識が合わさったら、とんでもない音が出せるんだろーと思う」

■個人的なギター練習はしますか?

「昔は全機材を持ち込んで、よく個人練習してました。今は家ではギター弾きながら考え事する程度」

■ギターのコレクション、所有している本数とその内訳、特徴。

「昔収集していたレスポール、rdカスタム、sg、他いろいろ。アンプやエフェクターが腐るほどあります。もう今のD-CLONEには使わないし邪魔なので実家の物置に放置してあります(笑)」

■SGにBOSSのDS-1＋マーシャル800でやるD-CLONEも個人的には見てみたい気がします。昔、DISCLOSEにはソレを言ったら断られましたから(笑)。

「そりゃー無理です(笑)。機材だけじゃなく、内から出る音を求めてるけど、どこまで行っても爆音とNOISEは捨てません!!俺、既に難聴だし…」

■ありがとうございました。

今回のキーワード

俺、既に難聴だし…



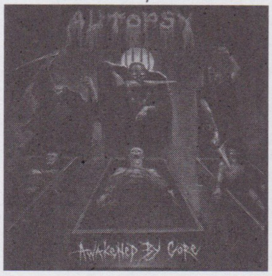
通称ナイトライダーチューナー!!イイ!!

SATANIC OCCULT DEATH III

TEXT:二ツ木正康

先月レヴュー・コーナーお休みしちゃいましたけど、レコード/CD/カセットは買ってるし、自分でリリースもしました。
KEEP ON BUYING RECORD!!昔はレコード・コレクターで生活が崩壊している人の話を良く聞きましたが今でもいるのですかねそういう人。

AUTOPSY/Awakened By Gore



デモ・アルバムNWN!盤。一般的な印象を簡単に言うと遅いデスメタル！という事に成りますが私風に切り込ませて頂くとAUTOPSYはギターが上手い、それも普通以上に即ち無意味なほどにトラディショナルなMETAL！当然そういうMETALやPUNKに影響を受けてきてこのサウンドになってPeacevilleと契約したんだぜ。誤解を恐れずに言っちゃうぜ！AUTOPSYはガンジャ・デスメタルパンク!!!!必ず聴くべし。
(NWN!/ANTIGOTH152)2LPs RECORD BOY EDITION TRANSPARENT GREEN VINYL

DESASTER/Zombie Ritual/Devil's Sword



Hellbangers。DEATHのZombie Ritualを A面に、B面は自身の初期曲Devil's Swordの2005年再録ヴァージョン収録の2曲入り。シェイプド・レコードは最近、日本でしか作れないと聞きましたがまたどっかで出来るんですかね？DESASTERファンとMETALアナログ・マニア以外は手出し無用のお勧めできない、レコードが人を選ぶ最高のレコード。

(Soulseller/SSR019)SHAPED PICTURE EP

NOIA/Necessary Extinction



このバンドもPISTONS同様に驚きでしたね。PISTONSのメンバーも在籍のようですがそもそもこのバンドはPUNKSがやっているのかどうかはわかりません。ジョークの感じが無い、DARKTHRONEがホントに本気でMETALPUNKをやっているような感じの音です。イタリアMETALPUNKといえばCOTですが、ライトな感覚の無いNOIAも侮れません。静かに見守りましょう。ジャケ・デザインはEx DEVIATED INSTINCTのMid。
(Plague Island/5th boil)CD

SACRIFICE/Crest Of Black



80'sジャパニーズMETALクラシックが遂に再発。遅いのに速いという感覚をいち早く実践していた日本が誇るべきアンダーグラウンド・メタルであり、伝統的な英国ヘヴィメタルを核にしている部分を見ても、現在10代、20代の諸君はこのCD化に際し、最早VENOMと同等にこの作品を聴くべし。86年デモの2曲も追加収録。

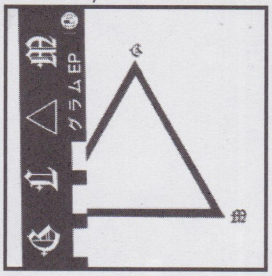
(BxTxHx/BTH-033)CD

TOXIC HOLOCAUST/INEPSY/Split



2000年代最高のメタルパンクSplitレコード。が！お互いがお互いをカヴァーするという、やってるヤツが一番楽しい買う方はドコまで付き合えるか?!盤だった。が！コレがビックリ正直、INEPSYもTHも今までで一番良いんじゃないの？ってな出来(笑)。これからはお互いがお互いの曲を作っていけば最高かも知れないと思わせる、人生は中々上手くいかないけど欲しがりすぎはいけないのかな?!と勉強までさせてくれるナイス・レコード。
(Tank Crimes/Unrest/TC039)12"

GLAM/ST



スペインから。ノイズコア系と聞いてグルーム系？スワンキーズ系？と直ぐ思ったがCHAOS UKタイプだった(笑)。しかしドランキー&PUNK ROCKな雰囲気は無く、ノイズコアという枠から突出したけどノイズコアと言うような、実は全くノイズってことを意識していないのではないのか?！と思わせる。オリジナル・ノイズコア思想な音。

(La Vida Es Un Mus/MUS40)7"

AMEBIX/Redux



YOUTUBEに沢山アップされてるライヴ映像のまんまのスタジオ再録盤。私はAMEBIXにも魂を売っているので当然購入ですが、音源で聴くと当然ですが昔のレコードには及びません。狂気性はアダルトな感覚に変わりけして悪くはありませんがMASTERのサバス・カヴァー良いよね！と言う様な感じの出来である。Profane Existence製ながらワッペンにバージンタグ、う～ん2010年！わっはは！
(Profane Existence/EXIST116cd)12"

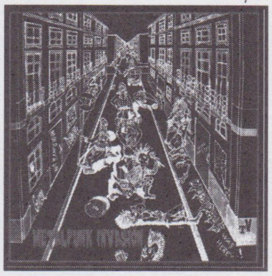
PORTAL/13 Globes/Omnipotent Crawling Chaos



オーストラリアン・ブラック・デスメタル2006年デモから2曲を収録したアメリカ・ツアー・シングル。MORBID ANGELを高速に数倍難しくしたようなDEATH METALを聴かせますが、とりあえずルックスが野球仮面ならぬ時計仮面といったものでラブクラフトに影響を受けているらしいですが…。とりあえずYOUTUBEでPORTALを確認して見てください!!!!!!!!!

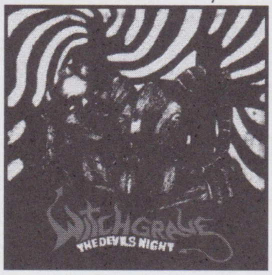
(Chrome Leaf/CHRM005)PICTURE 7"

GENITAL DEFORMITIES/SUBCAOS/Metalpunk Invasion Split



サブカオスのFJは熱心な人なのですが"俺は7"に10EURO以上は出さない！"って人。それでいてコレクターで到底10EUROじゃ買えないような音源を欲しがります。結論的にはポルトガルのジャイアン！っていうような人だと思いますが、7"なのに！と言う人は塩化ヴィニールの材料費でモノを考えているのでしょうか？僕には意味不明です。GENITAL DEFORMITIES健在です！
(Blood & Iron/IRON011)7"

WITCHGRAVE/The Devil's Night



スウェディッシュ・ヘヴィメタルの4曲入り12"。これまでの若手スウェディッシュ連とは志は同じだがアプローチの仕方が若干違う。超作為的に展開される伝統的なジャーマン・スタイルは紛れも無く80年代METALのそれであり、今後、アルバムで聴くと少々おなかイッパイになりそうな気分でもあるが解るまで、解ったふりをして聴き続けよう！

(High Roller/HRR087)12"

THE THUNDERBOLT! VOL.7

TEXT:TAKAYAMA（NIGHTMARE/PUNK AND DESTROY/FRAMTID）

こんにちは！皆様、お元気ですか？僕はというと忙殺の毎日、というのも、仕事の方でまたひとつ、大きなヤマを迎えまして、新しい物件を借りたので、そっちの開店準備！夢の2号店！という事で、産まれ持った要領の悪さもあり、無駄にあくせくどたばたと、あっちゃ行ったりこっちゃ行ったりしている訳です。そんな中、ライヴや企画の運営など、MAKING PUNK FUTURE方面でも忙しく動いており、前号の掲載文など四日市のライヴハウスでリハーサルの合間をぬって書き上げた事は、この連載を楽しみに読んでくださっているど変態で暇人の親愛なる皆様にはご存知の通り、で、なんとか締め切り当日に入稿を済ませたのですが、山路の親父ときたら、折り返し、「今回もばっちしOKです、で、次が8月5日締め切りなんですが…」等というたわけたメールを送ってきやがって、んー、もう、怒ったぞ！となっ！と、ストライキでぶっちぎっておりました。そして7月末某日、香川でコシが凄い事になっている美味すぎるうどんを食して帰宅するその帰り道、自転車で派手に転倒、自分のコシが凄い事になっちゃって（汗/笑）自宅にて絶対安静、仕事もまともにできない状態で寝たきりの身、よどむ自室の空気、落ち込む精神、そして山路の親父からの鳴り止まぬ電話攻撃…、とまあ、冗談はさておき（笑）無理言ってのばしてもらった締め切りの日を過ぎても一切手をつけていなかったこの文章にとりかかっているのは既に8月11日の出来事です（笑）。だって朝起きてメールチェックしたら真っ先に超怖い感じの、ひんやりつめた〜いメールが来てたので…、これは、「さすがにやばそうだな！（汗）」と、深夜、せっせと鍵盤を叩いている次第でございます…。そろそろ僕にもブルースが理解できるかもしれません…。サザナンデルはISTERISMOショウゴの対談に必死で相変わらず俺のは完無視で読んでくれないし（泣）ガオー！（T_T）

さて今回も書きます書かせていただきますみっちりアラウンド3500文字！今回のお題はずばり、「THE BLUE HEARTSとドラッグ」です。ちなみに、独断と偏見と勘違いが多く含まれる過激な内容です。神経質なファンの方でここ読んでる人なんて居ましたら、今回スルーする事を、べつにおすすめいたしません！（笑）よしよし、いくぜっ！

現在、活動中のザ・クロマニヨンズの3rdアルバム、「Cave Party」の中に、「メガトン・ブルース」というナンバーが収録されている。「ダガダガダッ！ダダッダダッダン Uh！」なんてところも、いかにもライヴで一斉に拳突き上げジャンプ！な感じの、超ノリノリなヒロトらしいナンバーだ！俺好み、うぇいっ！最初の、曲の大筋の骨組みとなる部分、仮にコーラスAの部分は、「核なんざ　んな　ちんけなもん/シャブなんざ　んな　ちんけなもん/オラオラメガトンブルース！」と、アップテンポにシンプルに繰り返される、単刀直入単純明快なもの。しかし、これは果たして本当に、聴こえてくるまんまの、そんなシンプル、単純なものなのでしょうか？

「ロックンロールさえあれば何にも要らない」、「戦争とか人類滅亡とかくだらないよ、ロックンロールを前にして」等と、ますます達観したような発言ばかり、なんだか、皆が想像しそうな事を、のらりくらり適当に悠々自適にかわしているようにも思えるこれらの言葉、歌詞、等ですが、インターネットでは、ソーシャルネットワーキングサービスなどという所で水を得た魚のごとく活躍する若者達も、単純に乗っかっちゃって、「イエィ！ロックンロール！」等と暇人丸出しの書き込みを連発し、当方のうんざりに拍車をかける、と言うか無視ですが…。the BLUE HEARTS時代、しつこい位に反戦、反核、反原発なメッセージを歌い続け、「チェルノブイリ」が検閲喰らったら自主制作で7"ep盤をリリースしたりする程、気合の入っていた人達が、本当に「ロックだけがあればいいんだ」と、言葉の表面上通りの意味だけで、いろいろな事がどうでもよくなったり等するとは、僕には思えないし、絶対そんな筈はなく、つまりこれは、いくら本気で訴えてみた所で、この世がよくなるなんて事はありえないと言う事を知ってしまった、解ってしまった挙句の、哀しきニヒリズムであると思って間違い無いのであります！

ヒロトにとって、シャブも核も、「ちんけなもん」なんかでは無い訳で、「ロックンロールがあればどうでもいい」と言う事すなわち、過去the BLUE HEARTSの若き頃に発言していた、「世界平和とか大げさなもんじゃなくて、みんなが親友の事だけ考えてたらきっとなんとかなると思う」なんて事の、また違った言い回しで、みんながロックンロールや、子供の頃からあこがれてたものに夢中になってれば、争いなど起こらない、んで、だけどそこには、「ルール破ってもマナーは守るぜ」の精神が不可欠、と言う事なんだと、今ひとつ、上手く言えてない気がしますが、自分では解釈しているし、完全に同意しています！そして、世の中そんなに上手いこといくもんでもない事も、彼等は嫌と言うほど喰らっている。「うんざりなんて　しってて当たり前」ってところですかね？

話をドラッグ方面に戻しまして、異常に痩せてはいるけども、ヒロトが今でも現役で薬物を摂取したりしているかどうかは、わかりません。見た感じや話口調なんかは、凄く健康的ですが、それはまあどうでもいい事だし、置いといて、さて、the BLUE HEARTSの記念すべき1st LPの記念すべき１曲目を飾る大名曲、まるであのSHAM69の「RIP OFF」をRIP OFFした様なナンバー、「未来は僕等の手の中」、US題the Future is in our handsですが、この曲の歌詞について好き勝手に解釈してみましょう！まずは冒頭部分から、「月が空に貼りついてら　銀紙の星が揺れてら　誰もがポケットの中に孤独を隠し持っている」とあります。僕は、この歌詞を読むと、なんとも、LSDを喰らった時のキマりを連想させるなぁ、ああ、曲がる、曲がるよなぁ！（笑）等とまぁ、そんな風に捉えて、POPな気持ちでいつも聴いてしまいます。そして２番、「生きてる事が大好きで　意味も無く興奮してる　一度に全てを望んで　マッハ50で駆け抜ける」。これはもうそのまんま、覚せい剤の事を歌ってるとしか、僕には思えない、うんうん、はやい、はやいぜヒロト！（笑）なんて感じですが、どうでしょうか？そういえば４枚目のアルバムには、まんま、「スピード」なんていうタイトルのナンバーも収録されていました。２つの歌詞がオーバーラップしながら同時進行する箇所なんて、あの、加速かかってしまった状態を上手く表現しているなと感心したり。その他にも、言わずと知れた誰もが知ってる名曲「情熱の薔薇」なんかも、そうだと思いませんか？「見てきた事や　聞いた事　今まで覚えた全部　でたらめだったら面白い　そんな気持ちわかるでしょう」とか、他にも、あれもこれも、あげだしたらキリが無いくらいだ。某雑誌のインタヴューには、マーシーと2人、深夜のレンタルビデオ店にて、ROCKERSか何かだったか確か？パッケージを手に取り、「これ面白そうやのお、マリファナばしばしやで」とか言って夜な夜な2人で色んなのを見て過ごした〜みたいな記述もありいの…。

まぁ、彼らがキマりもの、薬物、所謂DRUGを愛好していたかどうか、それには別段、興味がある訳でもないし、断言もしないし、できません、しかし、彼らの歌詞には、DRUGでキマッている精神状態の時に感じるあんな事やこんな事を想起させる言い回しが多い、ということで、今まで当たり前だと思っていた一般常識、間違いは無いと思っていた自分の、実にちっぽけだと言う認識、ありとあらゆるものが音を立てて壊れていく時のあの興奮と感動と、そしてそこから漕ぎ出す冒険の船出のスリル、そんな活き活きとした面白さ、ワクワクに満ち溢れている所も、大きな魅力なのです。

「人間やめますか？」なんて言われて、僕、幼な心に、「うお、人間やめますかって、どんなだろう、凄そうだな！?人間、やめてみたいなあ！」なんて強く思いましたが、皆は、そうは思いませんでしたか？（笑）まあ、経験上言わしてもらうと、DRUGなんてやってみた所で別段素晴らしい新しい世界が待っている訳でも無く、普通に、一般社会の中のまた、独立した愛好家達による社会めいたものが出来上がっており、そしてそこには当然いい事もありゃ悪い事もある、と言う、ただそれだけの話で、そんな悪いもんでもないし、たいしてロクな事もある筈なし、と言う感じでしょうが、それでは、DRUG等やらない、まっとうに生きる、貴方の世界、貴方の人生は果たして、そんなに優れた、素晴らしいものなのでしょうか？何故？どのように？何が？

と、ここまで書いて、よくもまぁくだらない内容をthe BLUE HEARTSに絡めてこんだけ書けるもんだなと、我ながらちょっと感心しちゃったりしますが、今回のテーマを締めくくるのにぴったりな彼等の言葉をもって、お別れの挨拶と代えさせていただきます！「何が正しいか知らない　何が楽しいか知ってる」。あと、突然ですが、次号は休載させていただきます（笑）。それでは皆様、次のときまで、お元気で！ウンコマンタカヤマでした！（^3^）/

LASHING SPEED DEMONS VOL.9

TEXT:大越よしはる

本誌VOL.4でTHE AVENGERSとXを紹介したら、同じVOL.4でLIBYANSのメンバーがAVENGERSとXを語っていた。とっちらかっていつつも、どうやらこの連載の方向性は間違ってない…ような気がする。そこで今回そのVOL.4以来の、EL ZINE誌上のインタヴューなどで名前が登場するハードコア以外のバンドなどを改めて紹介するコーナー、その2。何が出てくるでしょうか。バックナンバーをパラパラめくりながらどんどん書いていくんで、この時点では自分にもさっぱりわかりません。

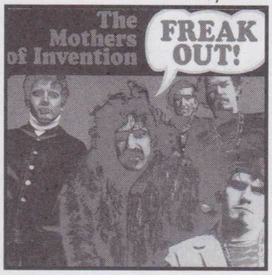
ASH RA TEMPEL/ASH RA TEMPEL



本誌VOL.6、「METAL PUNKやろうぜ！」より…っていうかDISCHARGE観ながらこのバンドに思いを馳せるとは、JACKY CRUST WARという人、ただ者ではありません。このバンドは時期によって全然音楽性が違うんだけど、初期2枚はAB面各1曲ずつで、A面が超トリッピーなハード・ロック、B面が超トリッピーな混沌のスロー・ナンバー。とりわけこの1stアルバムA面「Amboss」は凄い。

(SPALAX CD14244)CD 1971年

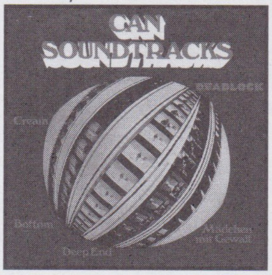
FRANK ZAPPA/FREAK OUT!



本誌VOL.4、SEXDROMEインタヴューより。全キャリアを通じて演奏面では常に高度なアンサンブルを追求し、故に音楽的にハードコアとの接点はほとんどないと思うが、大抵のガレージよりもサイケデリックよりも早く、65年のデビュー作の時点で既に炸裂している、まつろわぬアティテュード。DOLLでも書いたが、パンク/ハードコアの持つ反権力的な部分には通じるものがある。

(RYKODISC RCD40062)CD 1965年

CAN/SOUNDTRACKS



本誌VOL.3、CROWインタヴュー後編より。コレはマルコム・ムーニーとダモ鈴木という二人のヴォーカルが両方聴ける過渡期のアルバム。マルコムのヴォーカルとモノトーンでハードなリズムが素晴しい1stアルバムとどっちを載せるかかなり悩んだ。しかしこのアルバムでダモが歌う「Mother Sky」14分半はやはり捨て難い。登場時からニューウェイヴなんぞ先取りどころか既に超越していたバンド。

(P-VINE PCD-22202)CD 1971年

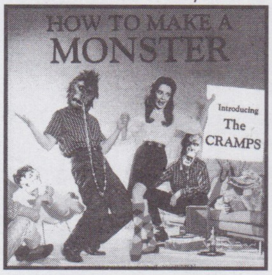
HAWKWIND/SPACE RITUAL



HAWKWINDは以前ここでベスト盤を紹介したが、本誌VOL.5のGASMASK TERRORインタヴューに名前が出ているところに、この7月末に初期5作が紙ジャケ&SHM-CD化ということで、代表作2枚組ライヴ『宇宙の祭典』を。ボーナス・トラック含め約2時間、バンド全盛期の荒れ狂う宇宙サウンドを堪能。レミーのベースがブンブン唸り、サックスとシンセと発振器がイカレたノイズをまき散らす。

(東芝EMI TOCP-95062/63)2CD 1973年

THE CRAMPS/HOW TO MAKE A MONSTER



本誌VOL.0の「KISS THE DISC」をよく見ると、CRAMPSの名前が2回も出てくる。ガレージでもサイコビリーでも必ず出てくる名前、ハードコア専門誌で出てくるのもやはりアリでした。そこでこのレア音源集、ディスク1のリハーサル音源もイイけど、ディスク2の77・78年ライヴが特に凄い。90年代以降ルーティンというかパッケージ・ショウみたいになる前の、本物のキチガイ&ポンコツぶり。

(VENGEANCE 677)2CD 2004年(76〜88年録音)

H.P.LOVECRAFT/ラヴクラフト全集2



小説もう1冊。本誌VOL.1、MOONLESSインタヴューより。METALLICAの「The Call Of Ktulu」をはじめとして一部のメタル系に与えた影響は大きい、怪奇と幻想のゴシック的世界。ハードコアとの関係はちょっとどうかなと思うが、MOONLESSみたいにオールド・ロックの影響を標榜するバンドなら、確かにアリだろう。この2巻は「クトゥルフの呼び声」を含む1920年代の有名な3編収録。

(東京創元社)文庫本 1976年

江戸川乱歩/江戸川乱歩名作集2



編集長の真似で、昔の小説も取り上げよう。本誌VOL.0、ACUTEのインタヴューでは"別冊太陽"の話が出ていたが、手元に今ある江戸川乱歩はコレだけ(他のが見つからない)。初版は乱歩が存命中の昭和37年…この装丁タマランですね。真っ暗な土蔵で執筆していたという伝説(嘘らしい)にも納得という感じのじっとり湿ったエロとグロが塗り込められたその世界は確かに一部の日本ロックに影響している。

(春陽堂書店)文庫本 1962年

光束夜/1st



本誌VOL.0、REALIZEDインタヴューより。高橋幾郎はそのVOL.0の本ページで紹介したHIGH RISEでも長く叩いていたが、その参加バンドは不失者他、とんでもなく多岐に渡る。何とも評し難い特徴的なプレイで、とりわけ故・金子寿徳(G)が率いたこのバンドでの演奏は凄まじく特異。REALIZED亀谷氏は高橋幾郎参加作のどのへんが特に好きなんだろうか(あっ、どっちも札幌在住だ)。

(PSF PSFD-132)CD 1991年

FAITH NO MORE/ANGEL DUST



本誌VOL.6より、INNER CONFLICTのヴォーカル、ジェニー(とってもチャーミング)のお気に入りはマイク・パットンだそうで、マイクといえば最近はイタリアン・ポップスをカヴァーしたアルバムとか出しているが、ヴォーカリストとしてのマルチな才能はこのバンドの時から炸裂していた。COMMODORES(ライオネル・リッチー！)「Easy」のカヴァーに、現在の片鱗は既に見えている。

(ポリドール POCD-1111)CD 1993年

METALLICA/GARAGE INC.



本誌VOL.4、TRAGEDYのビリー・デイヴィスのインタヴューより。今更ながら、やっぱりルーツにこのへんあるのね。一方でそのMETALLICAのルーツにはパンク/ハードコアがあって、このカヴァー集ではMISFITSやDISCHARGEやKILLING JOKEやANTI NOWHERE LEAGUEのカヴァーを聴くことが出来る。つながっているというより、このへんの影響は既に円環を描いている感じ。

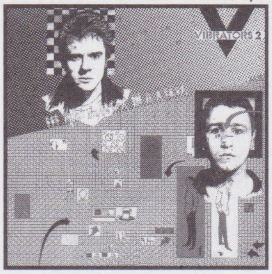
(SME SRCS8809〜10)2CD 1998年

MOTORHEAD/ANOTHER PERFECT DAY



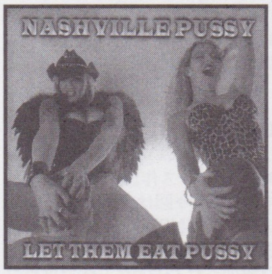
METALLICA同様、このバンドもEL ZINE的には今更という感じだが、本誌VOL.4でUNBROKEN BONESのニキータがお気に入りとして挙げているのが『ACE OF SPADES』でも『OVERKILL』でもなくコレ、というのにはグッときた。一般に人気薄めのアルバムかもしれないが、それまでとなんら変わらない疾走感たっぷりのR&Rに、それまでとは明らかに異質なギターが乗っている、実は傑作！
(ESSENTiAL! ESMCD438)CD 1983年

THE VIBRATORS/V2



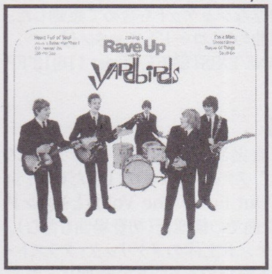
本誌VOL.4、チェコのレーベルPHRのインタヴューには、パンクといってもEL ZINE的に縁遠そうな名前が幾つも出てきて驚いたが、その中でも見逃せないのがこのバンドでしょう。ってなワケでTHE EXPLOITEDの有名なアルバム・タイトルになった名曲「Troops Of Tomorrow」が収録されている2ndアルバム。腰の据わった演奏とナヨッとした（？）ヴォーカルの対比がたまらんですね。
(CAPTAIN Oi! AHOYCD242)CD 1978年

NASHVILLE PUSSY/LET THEM EAT PUSSY



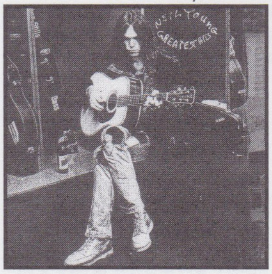
本誌VOL.5「KISS THE DISC」にて、行川さんがMOSTROSを初期NASHVILLE PUSSYと比較している。なるほど。ところでコレを買ったとき、不透明なビニールで包装されていた。開けてびっくり、この人たちパンツはいてないじゃん。中ジャケのコリー(B)、透け乳首だし…。ともあれヴィジュアル・イメージだけじゃなく、ナスティでファストなカッコいいR&Rが詰め込まれているデビュー作。
(AMPHETAMINE REPTILE AmRep069)CD 1998年

THE YARDBIRDS/HAVING A RAVE UP



本誌VOL.6「KISS THE DISC」より…the 原爆オナニーズの新作には「Shapes Of Things」のカヴァーが入ってるんですってよ。そういや前のライヴ盤のタイトル『FIVE LIVE the 原爆オナニーズ』もYARDBIRDSからだ。YARDBIRDSといえば"三大ギタリスト"とかよく言われるが、初期の直情的なリズムは確かにパンクに通じる…というのは以前DOLLでも書いた。それにしてもこの曲をカヴァーとは。
(ビクター VICP-61099)CD 1966年

NEIL YOUNG/GREATEST HITS



本誌VOL.5、MOSTROSインタヴューより。弾き語りでフォークっぽく侘しい歌声を聴かせたかと思うと大爆音のエレキ暴風が吹き荒れたり、歌詞にジョニー・ロットンを歌い込んだかと思えばカート・コベインの遺書に引用されたり、とこの人はいろんなスタイルでいろんな歌を歌いつつも、その根底にはパンクに通底する熱いロック魂が常に流れている。激音まみれのライヴ盤『WELD』もオススメ。
(ワーナーミュージック WPCR-11995)CD 2004年(69～92年録音)

V.A./CHLOROFORM



本誌VOL.4、悲鳴インタヴューより。帯に"Japanese Punk Compilation"と一言、この潔さ。70'sパンクに影響されながら、見事に96年のパンク・ロックが鳴らされている。今や伝説的に捉えられながら、後のDOLLインタヴューで当事者たちが"シーン"のようなものなどなかった、みたいなことを語っていたのは印象的だった。REGISTRATORS、THE YOUNG ONES、FIRST ALERT他7バンド。
(MANGROVE ROOT-007CD)CD 1996年

SONIC YOUTH/CONFUSION IS SEX



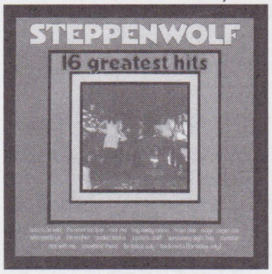
本誌VOL:3でのBROTTSVAG!をはじめとして、時々EL ZINEのあちこちにこのバンドの名前が出てくる。ルーツはニューヨーク・パンクどころかそれ以前に遡る人たちだけど、グランジ/オルターナティヴがブレイクした頃、極めてよくコントロールされたノイズをかっこよくロックに仕立てるそのセンスは影響力絶大だった。本誌的には初期音源がお勧めですね。ここではSTOOGESカヴァーも。
(DGC DGCD-24511)CD 1983年

V.A./SCANDINAVIAN METAL ATTACK



10年くらい前に安く買ったCDで、コレのオリジナルLPがBATHORY（本誌VOL.4にてBLACK BREATHが言及）の世界初披露だったというのは随分最近になってから知った。ついでだから（？）OZとかZERO NINEとか全然関係ないバンドも入ってるコレを紹介しておこう。この時点ではVENOMエピゴーネン丸出しという感じのBATHORYだが、コレ一人で全部演奏してたのか…。
(BLACK MARK PRODUCTION BMCD114)CD 1984年

STEPPENWOLF/16 GREATEST HITS



本誌VOL.4、山路編集長が書いてるウーメア・シーンの記事で、「Born To Be Wild」のスウェーデン語カヴァー、というのが出てくるんだけど、この曲のカヴァーで俺が真っ先に思い浮かべるのはRAVENのヴァージョンで、スウェーデン語の「Born～」って、一体どんな仕上がりなんだか、まったく想像もつきません。ただこのバンドがいわゆる一発屋じゃないことは、こういうベスト盤でよくわかる。
(MCA MCAMD-37049)CD 1973年(68～72年録音)

O.S.T/バーストシティ（爆裂都市）



本誌VOL.2、VEKTORインタヴューより。やっぱりバトルロッカーズですね。特に「セルナンバー8」ですね。今の陣内孝則しか知らない若い人は、ザ・ロッカーズよりもやっぱりバトルロッカーズを聴いてびっくりするがよいでしょう。一応（？）サントラ盤なワケだけど、時代の空気を反映したカッコいいパンク系R&Rオムニバスとして、映画関係なく聴けると思う。いややっぱり映画も。
(ポニーキャニオン POCA-01812)CD 1982年

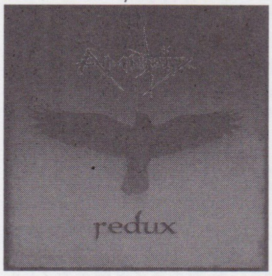
ハードコア・バンドの影響源やらお気に入りやら、こうして改めて見ると、本当に多種多様です。本誌VOL.0でINFECTEDがa-haとかDURAN DURANとか言ってるのにはぶったまげた。まあINFECTEDはハードコアじゃなくてスラッシュ・メタルだけどね。スラッシュ・メタルといえば、昔から聴いてるのにMEGADETHがいまだによくわかりません。前にも書いたけど、"インテレクチュアル・スラッシュ"の称号は一時期のVOIVODにあげたいと思います。それはそれとしてBULLDOZER来日観られるんだろうか俺。

KISS THE DISC

TEXT:行川和彦

例によってほとんどが現行のバンドで、リイシュー盤を含めてほとんどが2010年に発売されたものだ。本誌を売っている一部のパンク/ハードコアの専門店でしか買えないレコードも多いが、すべて国内のお店でも入手可能だからチャレンジしてみていただきたい。

AMEBIX/Redux



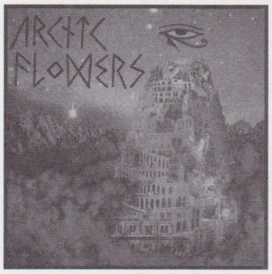
オリジナル・メンバーの兄弟にロイ・マヨルガ(ds、元NAUSEA[NY]〜SOULFLY)を加えた新生AMEBIXの初音源。3つの時期の既発表3曲のリメイクだが、17分のヴォリュームで迫る。メジャー・フィールドでも活動したロイの録音も功を奏し、いい意味で突き抜けた彫りの深い音像に目が覚め、鬼の形相の歌声にも震えを禁じえず、重厚なジャケットも含めて感動した。ライヴ4曲のDLコードとワッペン付。
(PROFANE EXISTENCE　Exist 116)12"EP

ANTISECT/Leeds 2.4.86



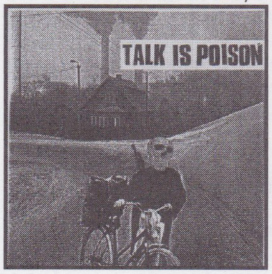
初の音盤化となるオフィシャル・リリースのライヴ。ファーストの曲は1曲だけで、シングル「Out From The Void」とセカンド用だった曲での構成だ(初登場曲も含む)。ミッド・テンポ主体のメタリック・クラスト・パンク路線なのだが、あの時期にこれらの曲が世に出回っていたら…と思うと切なくなる。音質も熱心なファンなら問題なかろうし、ライナーやインタヴューなどの資料もギッシリの10曲入り。
(ANTISECT　ANTILP001)LP

ARCTIC FLOWERS/Arctic Flowers



元SIGNAL　LOSTのギタリストを含み女性ヴォーカル擁する米国ポートランド産のデビュー盤。メロディアスなパンク・ロックも重み十分のハードコア・パンクも、ポーランドのPOST　REGIMENTの元メンバーがミックスした最後の曲も、聴き応え十分だ。英国のアナーコ・ポスト・パンク・バンドRUBELLA BALLETの曲名をバンド名に引用し、バベルの塔をモチーフにしたようなジャケットも興味深い。
(ARCTIC FLOWERS　AF-001)7"EP

TALK IS POISON/Rage To Infinity



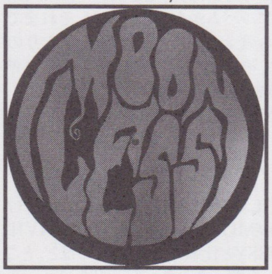
90年代後半のベイ・エリアのハードコア・パンクを代表するバンドのひとつの復活盤。DEAD AND GONEやBLACK FORKといったビリー・ジョー(GREEN DAY)が録音したバンド出身者や、LOOK BACK AND LAUGHをやっているメンバーも含み、80年代の各国のハードコアを二ひねりしつつまっすぐな表題どおりの音と詞に磨きをかけている。重い質感のジャケットも秀逸。曲作り中というアルバムも楽しみだ。
(TALK IS POISON　TIP 01)7"EP

MIGRAINE/Weird Tales



パワー・ヴァイオレンスの流れを感じさせつつもリバイバル勢とは一線を画す、カリフォルニアの4人組のセカンドEP。スロー・ヘヴィ・パート込みだが、NO COMMENTに初期SxOxBとVOIDが混ざったようなテンポ・チェンジと曲間でも雑音を絶やさぬ、鉛色のハードコア・パンク・チューンで根が非常にアウトローなのだ。若干くぐもり気味の音質も鬱屈感を増幅させ、どこもかしこも逸脱感が素晴らしい。
(COWABUNGA　CBR-31)7"EP

MOONLESS/Moonless



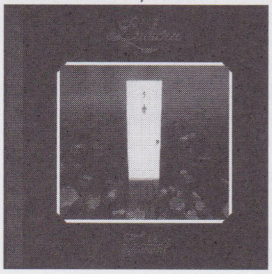
元GORILLA ANGREBのドラマーらによって結成され、本誌Vol.1の表紙も飾ったデンマークのドゥーム・ロック・バンド。これは2009年夏録音のデモ2曲(トータル十数分)を片面に収めた"デビュー盤"だ。ズバリCHURCH OF MISERY直系のサウンドだが、バンカラな歌声もコクのある音も本格派で聴き応え十分。ロゴがペイントされたもう片面には音が入ってないが、今後注目が高まること必至だ。
(MOONLESS　1)12"EP

JUCIFER/Thrones In Blood



90年代から活動している米国の男女デュオの2010年リリース作。最近リラプスから出していたが、今回はジェロ・ビアフラ(元DEAD　KENNEDYS)のレーベルからである。女性が中心に歌うドゥーム/スラッジ的な激烈ヘヴィ・ロック主体で攻めつつハードコア・パンクっ気も十分だし、アシッド・フォークもディープに聴かせるのだ。「Hiroshima」という曲も含み歌詞だけでなく解説も興味深い。DLクーポン付。
(ALTERNATIVE TENTACLES　VIRUS 414)LP

LUDICRA/The Tenant



オルタナティヴ・テンタクルズからも2000年代に2枚出し、シンガーとギタリストの一人が女性のサンフランシスコのユニークな"メタル・バンド"の新作。"AMEBIX meets　DARKTHRONE"とも言いたくなるサウンドでドラマチックに展開するが、ブラック・メタルもクラストも麗しくメロディアスに消化し、たおやかな表情も覗かせて惚れ惚れさせられた。凝ったプリントのデジパックの約51分7曲入り。
(PROFOUND LORE　PFL 056)CD

FISTULA/Goat



BURMESEとのスプリットCDも出したことがある、米国オハイオ州クリーヴランドのスラッジ・コア・バンドの約24分5曲入り。GRIEFとIRON MONKEYが残虐度の高いメタリックなリフの精度を上げてBUZZOV*ENを挟み撃ちにしたような猟奇性のスロー・チューンで追い詰めつつ、ハードコア・パンクに転化して走りもする。見つけ出して殺る!みたいなしつこい殺伐感がたまらないデジパック盤。
(CRUCIAL BLAST　CBR84)CD

KINGDOM OF SORROW/Behind The Blackest Tears



HATEBREEDのジェイミー・ジェスタ(vo)とCROWBER〜DOWNのカーク・ウィンドステイン(g、vo)のバンドのセカンド。前述3バンドの感触の音でスラッジ・メタルを展開した如き圧迫ヘヴィ・サウンドの応酬だが、ファスト・ナンバーもはさみこみ、ゴリゴリのタイトな音から滲むリリカルなメロディに感情が横溢する。日本盤はGUNS'N'ROSESのカヴァーと歌詞や曲解説の和訳付の三面デジパック。
(リラプス・ジャパン　YSCY-1182)CD

KVELERTAK/Kvelertak



ノルウェーの"メタル・パンク・バンド"のデビュー・アルバム。CONVERGEのカートのプロデュースも相まって最近のDISFEARやBLACK BREATHも思い出したが、百万倍ロックンロールだ。DARKTHRONEもAC/DCもBLACK SABBATHも喉の奥に詰まらせたままTURBONEGRO直系のセンスのリズムで走り、ヴォーカルは絶叫歌唱攻め。BARONESSのジョンのジャケもパーフェクトでオススメだ。
(INDIE RECORDINGS INDIE049CD)CD

WORMROT/Abuse



シンガポールのベースレス・グラインド・コア・トリオによる2009年のファースト・アルバムのボーナスCD付再発盤。約22分23曲入りの本編は、高低の声域を駆使するヴォーカルも多彩な楽曲も絶妙で全体の構成をよく考えていて一気に聴かせる。端的な歌詞もクールなのだ。ディスク2は2007〜2009年のデモ、EP、未発表テイクを34曲収録。INSECT WARFAREのカヴァーもハマったオールドスクール・グラインド・コアをいかに磨き上げたかがわかる。これもオススメ。
(EARACHE MOSH398CD)2CD

The WAY OF PURITY/Crosscore



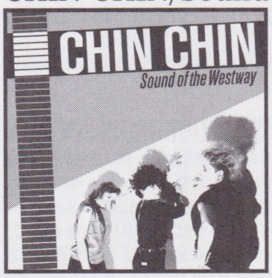
曲によってはメロディアスなヴォーカルもとる女性2人を含む5人組のデスコア・バンドのファースト。国籍等不明とはいえ連絡先のアドレスはスウェーデンのものになっている。いわゆるミリタント系〜ニュースクール・エネル・ハードコアの流れのメタリックな音と黙示録的な歌詞だが、初期CHRISTIAN DEATHの名曲「Deathwish」のカヴァーが象徴するゴシック系の暗黒テイストにゾクゾクする一枚。
(WORM HOLE DEATH WHD005)CD

CORPSE/Fight Against Rules



85年から10年ほど活動していたポーランド産の89年のデモ。同時代の英米のメタリック・ハードコア・パンクの影響を感じさせ、CONCRETE SOXをはじめとするUK寄りの音と曲にギター・ソロもガンガン挿入する。ヴォーカルがポーランド語を吐き歌うから当然クセも強いが、研究熱心な"優等生"にはマネできないムチャなサウンドに痺れるのだ。厚手の紙の20ページのブックレット封入の三面デジパック。
(REFUSE 048)CD

CHIN CHIN/Sound Of The Westway



女性バンドという点でKLEENEX〜LILIPUTの次世代に位置する、スイスのトリオが85年に発表したファースト・アルバム。ギター・ポップ風の曲も含むが、ポスト・パンクと呼ぶにはまっすぐで、RAMONESと初期JOY DIVISIONのミッシング・リンクのエネルギッシュな音と凛とした歌声がたまらない。ゲストのブルース・ハープやサックスもいい味を出している埋もれた名盤だ。DLクーポン付。
(MISSISSIPPI/SLUMBERLAND MR053/SLR112)LP

BOSSY/The Best Of Bossy



VIVIAN GIRLSのキャシー・ラモーン(g、vo)が2006〜2007年にやっていた米国の女性トリオの9曲を収めている。レーベルでいえばキル・ロック・スターズとルックアウト！の間を行く音で、ギター・ロックと呼ぶには音が刺々しくて突き放したようなヴォーカルにビリビリ痺れる。ニール・ヤングの「Hey Hey My My」のカヴァーも含む地に足の着いたサウンドも、手作り感覚のジャケットも愛おしい。
(WILD WORLD WW-003)LP

PEACHES/EFFI BRIEST/ALAN VEGA/Split



3分割スプリット盤。ニューヨーク・パンクのSUICIDEのカヴァーを、ジャケットのイメージにふさわしいドイツ拠点の奇才女性アーティストPEACHESはエロチックに、出したばかりのファースト・アルバム『Rhizomes』も素敵なニューヨークの女性バンドEFFI BRIESTは艶やかに披露した。そのSUICIDEのアラン・ヴェガは90年のソロ『Deuce Avenue』のCD収録曲を提供。見つけたら即買い！だ。
(BLAST FIRST PETITE)10"EP

MICKEY/Mickey



シカゴの奇天烈バンドFUNCTIONAL BLACKOUTSやDAILY VOIDの中心人物でソロ活動も精力的な、マック・ブラックアウトのロックンロール・バンドの6曲入り。グラム・ロックと呼ぶには汗臭くrawで甘いサウンドが、曲名どおりに"エレクトリック・ドリーム"を見せてくれるパンク・ロックだ。ガサツに見えて薔薇の形の特殊ジャケットにも表れたように実は凝り性で、何かが始まる予感の一枚。
(FDH FDH-104)12"EP

VEINES/Bourgeois Standard



フランスのトリオの1年ぶりのセカンド。シンプルなロックンロールがベースであるにもかかわらず、贅肉を削ぎ落としたからこそソリッドで太い音がフレッシュに迫る。パンク特有の"言い訳"をしてない作品だし、大半の歌詞が自国語と思しき芝居がかってないヴォーカルにも、フランスのバンドならではのプライドとスマートでは終わらぬ姿勢を感じる。パンク・ロックの美学をさりげなく見せてクール！
(DEMOLITION DERBY Nitro 33)LP

ARSENE OBSCENE/Zone Industrielle



そのVEINESでギター/ヴォーカルを務める粋な男がシングルに続いて出したファースト独演アルバム。VEINESよりもハードで、我が物顔のギターが曲からはみだしていてヴォーカルも気だるくシニカルに飛び、Iggy & The STOOGESの速い曲直系でカッコいい。ドラム・マシーンの音と思しきビートで宅録ながらも不思議とダイナミックかつストレンジなパンク・ロック。埋もれさせたくない輝ける佳作だ。
(P. TRASH FULL TRASH 52)LP

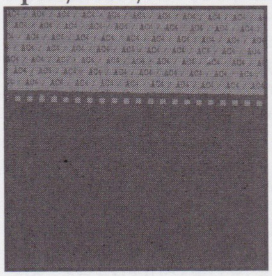
＜追伸＞ リイシューものも含めて新たに発売されたパンク・ロック/ハードコア・パンクのレコードやCDを、しかもオススメできる作品を毎月20タイトル紹介するのはけっこう難儀だ。本誌のこのコーナーではなるべくそのへんにこだわってレヴューしたいが、今回そういう作品に多くは出会えなかった。だからといってあまり旧譜をここで書きたくないから音楽的に幅を広げてやってみた。何かとやること山積みで2010年の6月以降更新回数が減っているから、自分のブログ(http://hardasarock.blog54.fc2.comなめブログ)で取り上げるべき作品も入れた。けどみな多少なりともパンク〜ハードコアとつながっていて、いわゆるインディ・ディストリビューションだ。

ES GIBT KEIN WERT

TEXT:山路健二

タイトルをSATANIC LASHING KISSにしようかと思いましたが、3人から一斉に怒られそうなので止めておきました。最近入手した20枚のレコード/CDを紹介させて頂きます。本誌のコンセプトがどこにあるのか自分でもよく分かっていないのですが、ここで取り上げるのはハードコア～パンク・ロック～メロコア～実験音楽～グラインドとかとかです。予定していたインタヴューが転けたから慌てて書いているわけでは決してありません(多分)。

Split/AC4/SURPRISE SEX ATTACK



オーストラリアの新興レーベルのファースト・リリースは自国SSAと何とUmeaのAC4とのスプリット!AC4は1曲のみ収録、しかもジャケが凝っているせいか12ドルとお高い!しかしそこにAC4がある限り買う他ないのです。AC4は当然の極上スラッシュ・ハードコア!対するSSAは意外とイケる爆走ハードコア。バッヂとCD-Rもついてきましたが、どちらもAC4のではないというまさかの展開が…。
(ANISEED RECORDS 001)7"

DAVE PHILLIPS/?



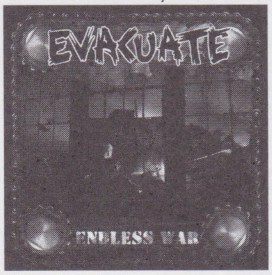
スイス発狂グラインダー、FEAR OF GODのメンバーだったDAVE PHILLIPSによる極北の実験音楽。CDの極限まで収録した79分のアルバムです。小鳥のさえずりとシャワーを浴びる音(?)という"日常"から幕を開けた後に、一転してテレビの砂嵐イメジのような"何か"へと展開。セックスやらアコーディオン、ピアノといった雑多な音が静謐に混じり合い、"日常"と"何か"との境界線を静々と溶解させていく。
(HEART&CROSSBONE HCB026)CD

NAILS/ST



ドイツのブレーメンとミュンヘンのレーベルによる、ベルリンのバンドの4曲入り1stシングル。ちょいジャパニーズ・ハードコアっぽいメロディーを使っていると思ったらメンバーにはex BOMBENALARM/MONSTERもいるみたいで納得。BOMBENALARMがスピード落としてパンク・ロック寄りになったと言えば想像しやすいか。小細工してない生っぽい音質も臨場感とキレがあって良いな。
(LA FAMILIA RELEASES MEMBER 40+10/TAKEN BYSUR PRISE SURPRISE 009)7"

EVACUATE/Endless War



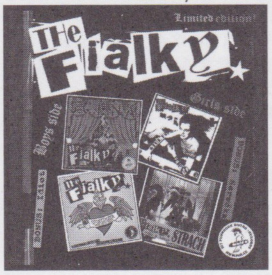
ex CHEAP SEX～THE VIRUSのメンバー等によるUSストリート・パンクの新バンド。CASUALTIESやUNSEEN、DEFIANCEといったバンドを彷彿とさせますが、もちろんまだクラスト・コアとシーンが分かれていなかった90年代の頃のです。ドラムがポコンポコンいっちゃっているのがちょい残念。こういうのを聴くと、「EAST COAST POGO ATTACK」ビデオを久し振りに見たくなります。
(VOLTAGE RECORDS/EVACUATE RECORDS)7"

JARNMALM/UR GRUVAN



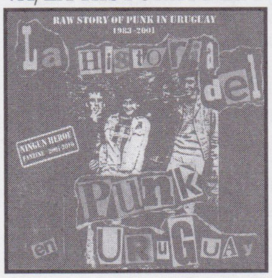
Vol.4の"WORLD MELODIC～"のコーナーで紹介されていたTRALLパンク・バンド、VARNAGEL。そのメンバーらによるニュー・バンドの5曲入りMCDがこちら。物悲し過ぎるメロディーはキーボードと時折導入される女性コーラスによって更に増幅され、まさに小雨降る灰色の世界に独り取り残された気分に…。スピードも抑えめの、泣きに泣きまくるメロディック・パンク。これで歌詞が能天気だったらイヤッ!
(BEAT BUTCHERS ORMCD3)CD

THE FIALKY/SCENA



BOYS SIDEとGIRLS SIDEに分けられた(真意は不明)、2000年結成のプラハ・パンク・ロック・バンドの最新音盤。これが予想外な程に良い!軽快な楽曲なのに湿ったメロディーに覆われてしまうのはお国柄もあるのでしょうか。メンバーは意識していないだろうけど、COCKNEY REJECTSの"I'M FOREVER BLOWING BUBBLES"っぽいフットボール・アンセムな一面もあり。チェコ語の歌唱も活きた逸品。
(PAPAGAJUV HLASATEL RECORDS PH106)7"

VA/LA HISTORIA DEL PUNK EN URUGUAY 1983-2001



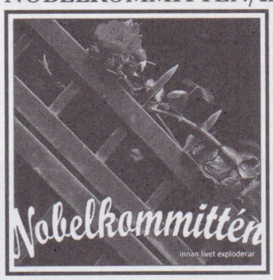
南米ウルグアイ・パンク/ハードコア・コンピ。凄いです!千切れそうなほどに伸びきったカセット・テープから起こしたとしか思えない、もうRawとかいっている次元じゃない音質。聴きながら脳内でノイズを除去する必要がありますが、意外なほどにキャッチーで格好良い楽曲の数々にはかなり驚かされます。全てが丸見えの時代、私たちに必要なのは想像力だと痛感させられるグレート・コンピ。
(NINGUN HEROE No Number)CD-R

Split/VICTIMS/KYLESA



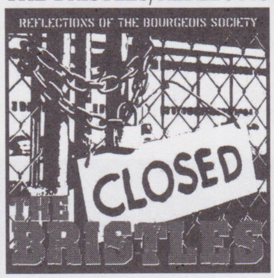
ex NASUMのメンバーも擁するスウェーデンのロックンロールD-BeatのVICTIMSはツイン・ギターの4人編成になってからの録音。KYLESA"Descend Within"の激走カヴァーもキマっててサイコー!来日も果たしたアメリカのKYLESAはハードコア・パンクの攻撃性を持って迫まり来る、うねり&歪みのヘヴィ・ロックで圧倒。スタイルは違えどもこの組み合わせは素晴らしい。
(LA FAMILIA RELEASES MEMBER 40+8)7"

NOBELKOMMITTEN/INNAN LIVET EXPLODERAR



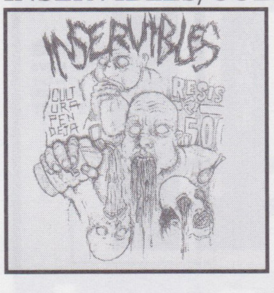
THE CONFESSION、CONSHITAS、ROYAL STAKEOUT、THE PARTTIMERSのメンバーからなるCLASHタイプのスウェーデンはマルメ産パンク・バンド(2007年結成)の1stアルバム。77スタイルとストリート・パンクの狭間を行くポップ且つ骨太な音作りに、スウェーデン語の甘い男性ヴォーカルが乗る。分かりやすいから気分転換に聴くのはいいけど、聴き込むほどの引っ掛かりもないか。
(HEPTOWN RECORDS HTR046)CD

THE BRISTLES/REFLECTIONS OF THE BOURGEOIS SOCIETY



2008年の再結成以降、精力的な活動を続けている80'sスウェディッシュ・ロウ・パンクの覇者、THE BRISTLESのニュー・アルバム!今は82年ではなく2010年なわけで、あの頃とは完全に別物だと思って聴くべきだし、実際そうなんですが、"Weapons Of Mass Destruction"での歌い回し&コーラスは初期を彷彿とさせてやっぱり興奮してしまいます。EXPLOITED～GBHからの影響は今の方が色濃く出ているような気も。
(SWITCHLIGHT RECORDS SWR004)CD

INSERVIBLES/CULTURA PENDEJA



ヤバいジャケットの期待を裏切ることなく、内容もバッチリ狂っています。地の底から木霊しているかのリバーヴ・ヴォーカルは、メキシコのバンドだからスペイン語なんでしょうが、もう言語の壁を超越しています。予測不能のリズムは、ラリった勢いでテキトーに演奏しているだけのような気もしてきました。ポンコツ・ブラック・メタルと南米ハードコアと無軌道ガキ・パンクのスカム・ミックス。素晴らしい。
(HBSP-2X RECORDS No Number)7"

Split/SEE YOU IN HELL/CONTRAST ATTITUDE



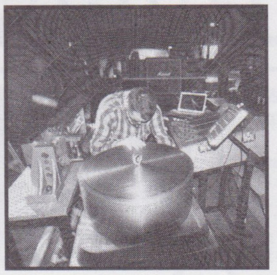
来日ツアーを終えたチェコのSEE YOU IN HELLと三重のCONTRAST ATTITUDEによるスプリット。これにて、CROW〜SYSTEMATIC DEATHと続いたSYIHと日本のバンドによるスプリット・シリーズは打ち止めみたい。今作ではギター2本ということもあってか、より安定感を増したスラッシュ・ハードコアのSYIH。CAは息をもつかせぬWall Of D-Beat Noiseで圧倒!音の一つ一つが際立っています。
(INSANE SOCIETY IS098)7"

POST FATA RESURGO/IL FUTURO E' GIA' PASSATO



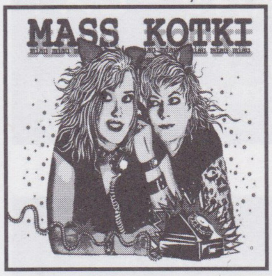
ローマの5人組が放つ7曲入りの1st LP。同国のCONTROPOTERE風の凝った曲展開とHIS HERO IS GONE〜TRAGEDY以降のネオ・クラストな疾走悲哀フレーズで駆け抜ける漆黒のハードコア・パンク!その系統が好きな人にとっては完全にストライクでしょう。全編に渡って怒りのイタリア語ヴォーカルですが、もちろん歌詞の英訳もついている&ゲートフォールド・ジャケ。
(AGIPUNK AG70)LP

AUTHOR&PUNISHER/DRONE MACHINES



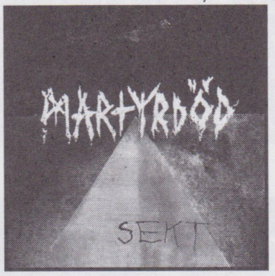
自作のスピーカーやこれまで見たこともない不思議な機材を用いた、アメリカ・サンディエゴのインダストリアル・ドゥーム・メタル・アーティスト。11曲収録のアルバム。BLACK SABBATHが人造人間だったらこういう音楽をやっていたかもしれません。意味不明かもしれませんが、そんな感じです。酩酊を誘う旋律と反復する金属摩擦の対比が心地よい。近未来が舞台の古いSF小説を読んでいるような感触。
(HEART&CROSSBONE HCB028)CD

MASS KOTKI/MIAU MIAU MIAU



猫の真似してミャーミャーミャーと連呼しまくる1曲目は、聴いてて若干恥ずかしいが以降はエレクトロ・ニューウェイヴ・ポップ・パンクでグッド!ポーランド女性2人組による打ち込み主体の楽曲だが、程よいチープさと分かりやすい大衆性に魅了される。アンダーグラウンドのハードコア・バンドと普通に対バンしているのが不思議なくらい。日本で活動していたら、秋葉原辺りで人気が出そう…。
(PASAZER No Number)CD

MARTYRDÖD/SEKT



ストックホルム・スローター!とかくWOLF BRIGADEを引き合いに出されることの多いバンドですが、所謂ダイナミックなスカンジ・ハードコアを基盤にブラック・メタルとネオ・クラストの要素もブチ込んだ、濃密濃厚な片面だけでもお腹いっぱいになるサウンドです。音に隙がなくみっちり詰まっているので、体が弱っている時に両面聴くのはしんどいでしょうが、もうコテコテしたのをガッツリいきたい時には最適です。
(LA FAMILIA RELEASES MEMBER 40+6/FAREWELL RECORDS)LP

TREVOLT/I ALL HAST



US直球メロコアとスウェディッシュTRALLパンクがミックスされた、要するにNOFXとASTA KASKの合体技みたいな、もう悪いわけがないスウェーデン産。エモ要素がないのは2008年結成だけどメンバー3人共に30代半ばだからでしょうか?キッズっぽい青臭さがありながら、実際にはキッズじゃ出せないツボを突いた至極のメロディック・パンク!90年代にBURNING HEARTモノを買い漁っていた人はぜヒ!
(HEPTOWN RECORDS HTR045)CD

DISARM/DISCOGRAPHY 1982-1987



80'sスウェディッシュ・ロウ・ハードコア・パンクのマスターピース、DISARMのディスコグラフィーが遂に出ました!って皆さん既にご存知でしょう。アナログは2枚組のゲートフォールド仕様で、レーベルの力の入れ具合も伝わってくる再発だと思います。現在、ヴォーカルだったHonsaにインタヴュー中なのですが、子供が生まれるのと仕事が忙しいとのことで一向に回答が届きません。年内には来るといいなぁ…。
(D-TAKT&RAPUNK DTAKT030)LP

LOOKING FOR AN ANSWER/BIOCIDIO



スペインのグラインド・コア・バンド。過去に発表されたKONTRAATTAQUEとのスプリットの楽曲と、未発表曲を収録した編集盤LP。高低を使い分けたツイン・ヴォーカルのオールドスクールな曲はもちろん激烈で完成度も申し分ないが、B面に1曲だけ刻み込まれたタイトル曲が突出している。真綿で首を絞めるかのスロウ・ハードコア・ナンバーは、速いだけがグラインドじゃないことの証左。
(AGIPUNK AG72)LP

INNOXIA CORPORA/JE STÁLE TĚŽŠÍ OTOČIT PRST PROTI SOBĚ



どう頑張ってもタイトルが読めそうにないチェコのロックンロール・パンク・バンド、今年の6月6日にリリースされたニューLP。タイトルは恐らく、"自分自身を指差すことはまだ困難である"だと、…思われます。ブルージーなベースラインも繊細なリフも含めて、大人な燻し銀のサウンド。この際、もっとロックに焦点を当てた方が面白いかも。B面ラストでいきなりポップ・パンクが飛び出してくるところが謎。
(PAPAGAJUV HLASATEL RECORDS PH111)LP

案の定ヨーロッパ、特にスウェーデンものが多くなってしまいました。あとMASSHYSTERIの2ndアルバムは既に紹介されているので省きました。今作もメチャクチャ格好良いけど、ちょっと音数が少な過ぎませんか?次作辺りでパンク・ロックからシンプルなサーフ・ロックなんかに行っちゃうような気も(格好良ければ何でもいいけど)。MOONLESSの12"も買いましたが、それも今号で紹介されているのでパスしました。出す前に解散するんじゃないかとちょっとドキドキしていたので、とりあえずリリースされて良かったです。では、また記事が転けた緊急時にお会いしましょう(笑)。

never trust divination

☆今月の 12 星座占い☆



牡羊座　3/21～4/19

レア盤セールに早朝から並ぶと素敵な異性との出会いが待っているかも♪無職の人は平日の朝からお酒を呑むと、一日が飲酒だけで終わってしまい虚無感に襲われるので要注意。こんな本を読んでいる場合じゃないよ。現実を見ないとね♥



牡牛座　4/20～5/20

クラスト・パンツをお母さんに洗濯されても怒っちゃダメ。今月は健康運が低迷しがちだから、KAAOS の T シャツを着て朝夕に軽いウォーキングをすると良いかもね。部屋の北西に 80's クロスオーヴァー系の LP を飾ると金運アップ。



双子座　5/21～6/21

警察につきまとわれる一ヶ月になっちゃいそう…。ガンジャの匂いが染みついた服はすぐクリーニングに出して！喧嘩にも巻き込まれがちだから、酔った勢いでライヴハウスで調子に乗るのもダメ。家に引きこもっていれば安全に過ごせるよ。



蟹座　6/22～7/22

公安につきまとわれる一ヶ月になっちゃいそう…。ビラを貼る時は周囲を警戒して！合コンの予定がある人は、パンク・ネタは絶対 NG。スカンジ HC なんて誰も知らないから。とりあえず表参道とアバクロって言っておけばモテるかも。



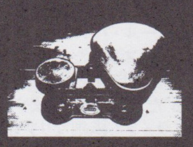
獅子座　7/23～8/22

友達が欲しい貴方は通勤電車の中で EL ZINE を頭から音読してみると、色んな人と知り合えるよ♥駅員とか警備員とか。自分には友達が沢山いると思っている人は、「ちょっと 3 万円貸して」とメールすれば現実がすぐに分かるハズ。



乙女座　8/23～9/22

気分がちょっと落ち込みがちな時期だけど、小学校の卒業アルバムを眺めながら人生を振り返るときっと前向きになれるよ（もっと落ち込むかもね♪）。青春パンクとメキシカン HC を聴いて健康運上昇。



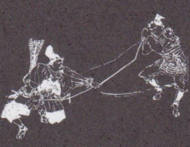
天秤座　9/23～10/23

カラー・ヴィニールだと思って買ったのに普通の黒盤だった！ってキレる人は既に十分 XXXX だよ。人生にはレコードの色より大切なことがきっとあるはず。対人関係にトラブルが起こるけど、それはこの先一生続くことだから気にしないで。



蠍座　10/24～11/21

今月は絶好調！お気に入りのキャバクラ嬢にモテモテ♥でも吉原に行く時は病気に気をつけて。ベーガンの友達を無理矢理焼き肉屋へ連れて行けば全体運上昇だよ。通勤通学時のお供は南米ブラック・メタルのカセット・テープで決まり！



射手座　11/22～12/21

自意識過剰で周りからドン引きされちゃいそう。謙虚に生きようね。相対的且つ弁証論的に物事について洞察を重ねて絶対矛盾的自己同一論に関する思考実験を繰り返せば無我の境地に到達できるよ。



山羊座　12/22～1/19

「え、限定 XXX 枚 ?! なら買わなきゃ！」と最早プレス数だけ見てレコードを買っている貴方は大切なことを見失っています。今月はレコード屋さんの HP を一切見ないでジャケ買いを楽しみましょう。今よりも楽しくレコードが買えるはずです。



水瓶座　1/20～2/18

恋人の浮気にヤキモキしそう。そんな時は、たまにはハードコア以外のライヴに行ってリフレッシュ！お客さんの行儀の良さにきっと驚くはず。髪を黒くしてユニクロで買った服を着て刺青も隠して行けば、違った世界が見えてくるよ。



魚座　2/19～3/20

仕事の失敗続きで落ち込んでも自暴自棄にならないで！中旬頃からもっと酷い失敗をして、月末にはクビになるけど、きっと生きていればいいことあるから。運気を上げるにはパチンコ雑誌に載っている開運アイテムが効果的！

自主制作盤、国内外の最新リリース、各種名作再発などなど常時入荷してます。

10.29(金) 30(土) 31(日)の3日間

15周年記念と致しまして粗品進呈！(数に限りがございます)

毎日の入荷状況はコチラから

http://www.recordshopanswer.com (旧サイト含む)

http://eachanswer.exblog.jp/ (PC、携帯共)

買い取り強化中！！ 80年代自主製作モノ、国内盤帯付きLP,CDなど、お気軽にお問い合わせ下さい！！

■ご注文はorder@recordshopanswer.comからまたは、お電話、FAX、往復はがきにてお願い致します。

■お支払いは代引き、現金書留、無記名為替、銀行振り込み(ジャパンネットバンク)、PAYPAL(手数料別途5%頂きます)がご利用可能です。

■発送は佐川急便より全国¥400(税込)にて発送させて頂きます。沖縄、離島の方は別

■少量の方はヤマト運輸メール便¥180(税込)もご利用可能です。

■¥10500以上お買い上げの方は送料、代引き手数料サービスさせて頂きます。

ANSWER

460-0011
愛知県名古屋市中区大須3-5-49 第2ハセビル B1
TEL/FAX 052-241-0667
12:00-20:00 365日無休



～新品&中古～
自主盤, HARDCORE, METAL, PUNK/POWER POP, PSYCHOBILLY, GARAGE, OUTLAW(辺境, post-punk, noise)



NA-T records

ホームページ http://natrecords.shop-pro.jp/
メール tokyonat@hotmail.com
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-7-33 新銘ビル2F
(*1F うどんの丸亀製麺と定食のやよい軒)
Tel : 03-3368-8262 / Fax : 03-3368-8245
営業時間 11:00 ～ 21:00 (年中無休)

POGO77 RECORDS 企画

激闘市街戦 2010 TOUR

OLD PUNKS

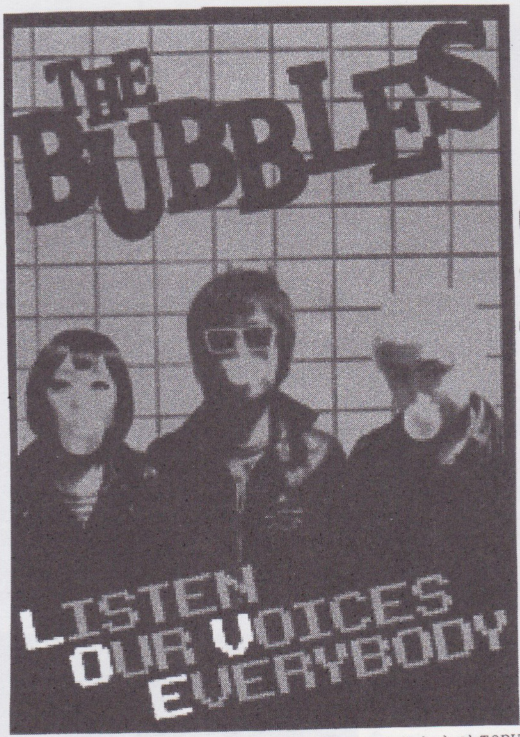


10/2(土) 東京
早稲田 ZONE-B
DON'T JUST SIT THERE Vol. 7
OPEN 15:00 START 15:30
ADV ¥1700 DAY ¥2000
PUNK AND DISORDERLY
THE BUBBLES
ROUGH STUFF
AVFALL . IDOT VOX . TANTRUM
CRUCIAL SECTION . SPY MASTER
INTRUDERS . HAT TRICKERS
(問) 早稲田 ZONE-B 03-3203-6022

10/9(土) 名古屋
今池 TINY7
NOISE OF MIND!! VOL. 29
OPEN 17:30 START 18:00
ADV ¥2000 DAY ¥2500
PUNK AND DISORDERLY
THE BUBBLES
ROUGH STUFF
△(サンカク). 牙. C.F.D.L. -REJECT-
(問) 今池 TINY7 052-731-9936

10/10(日) 大阪
アメリカ村 SOCIO
PUNK AND DESTROY VOL. 23
OPEN 18:00 START 18:30
ADV ¥1800 DAY ¥2000
PUNK AND DISORDERLY
THE BUBBLES
ROUGH STUFF
SKIZOPHRENIA . THE クルマ . AND 1 MORE BAND
(問) アメリカ村 SOCIO 06-6213-2060

POGO 77 FUCKIN' RELEASE ON SEP 20th 2010





THE BUBBLES
11 SONGS
BOX CD
デカバッチ
ステッカー
冊子 SET!!



ROUGH STUFF 11 SONGS BOX CD
バッチ、ステッカー、パッチ、冊子 SET!!

2010年あのthe bubblesがおなじみSEXUALあらためTORUがギターボーカル
になりBASSにFUMICO、DRUMにMEGUROをむかえて3ピースになってついに復活
相変わらずのやんちゃさプラス哀愁すら漂わせるリアルな歌詞を
七十年代のPUNKやMODリバイバルを髣髴とさせる切れのいい8ビートに
のせて時代の空気ともに真空パックしてお届けする！77年には
まだ生まれてなかった若者にも、初めてTHE JAMやSTIFF LITTLE
FINGERSに出会ったときの衝撃を忘れてしまった大人にも
この音は嘘偽り無い2010年のPUNKROCKとして響くだろう。
「これはチャンスなんだ、君が変わるための！」

1480 YEN

THE BUBBLES / LISTEN OUR VOICES EVERYBODY (POGO51)
2010年9月20日発売！
アルバムCD BOX仕様 11曲収録

ROUGH STUFF / STILL LOUD,STILL PROUD (POGO52)
2010年9月20日発売！
アルバムCD BOX仕様11曲収録
1曲目からライブでおなじみのあの曲でスタート！80'S
UK PUNK/Oi!直系。SKINS/PUNKS混合で結成されている
ことからも分かるが、音もその通り、いぶし銀のOi!、
ストレートに突き進む HARDCORE PUNKまで、あの頃の
バンドの映像が湧き上がる。新曲ももちろん録音されて
おり、お！あの辺？あ！この辺り？
とニヤニヤしてしまった。もちろんルーツ何か分から
なくてもいいし、どうで もいいわけで、彼らの今の勢いそのまま。
LAST RESORT、4SKINS、ONE WAY SYSTEM、THE BUSINESS等々、
彼ら の企画「DON'T JUST SIT THERE 」
毎回熱いライブが繰り広げられている。 王堂UK PUNK STYLE。

お取扱店：アンダーグラウンドパンク取扱店、ディスクロ、WEB
POGO77REC http://www.pogo77.com/
CREW FOR LIFE REC http://www.crewforlife-records.com/



これは CRUCIAL SECTION ヒロ氏 レーベル
CREW FOR LIFE records からだ

PUNK AND DISORDERLY 1st 7"
"Society's System........ep" C.F.L-018

840 YEN

77～84年を主としたパンクを軸にKILLED BY DEATH系、Oi!、HARDCORE PUNK
をカバー、オリジナル曲も増やしつつ、関東で活動しているPUNK
AND DISORDELYの1st7"レコードがCREW FOR LIFEからリリースだ。
今回のデビュー音源はアメリカ、イギリス中心に収録、オリジナルも2曲
加え、7"レコードに8曲詰め込んだOLD SCHOOL PUNKな激烈パン
クレコードだ。カバーは単なるカバーでなく、PUNK AND DISORDERLY
らしいRAWな仕上がり、オリジナル曲ももちろんだ。ジャケット通りの音は、
世界中のハードコアパンクスへ捧ぐ一枚！
メンバーは、NORI(TOM AND BOOT BOYS)、NAKACHIN(THE ERECTIONS/EX.THE DISCOCKS)
、KENTARO(THE ERECTIONS/THE SWIZZ)、HIDERAW(EX.HAT TRICKERS/EX.2ND DEGREE)
なアタックパンクスな面々。各メンバーのサイドバンドとは言わせない珠玉の
PUNK一撃！！

MORE INFO WEB!!



Oi!

STAY PUNK STAY FREE

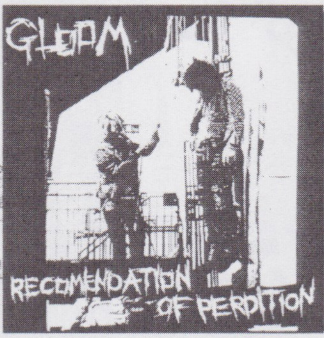
















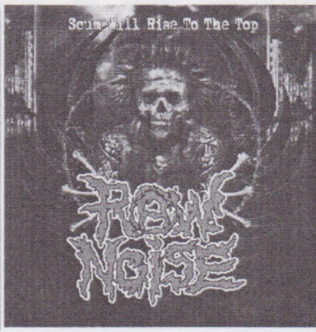


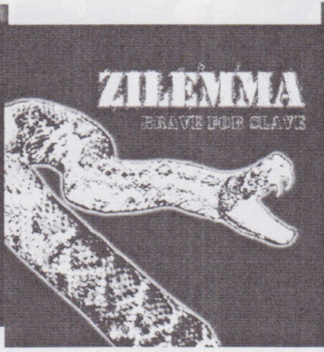














ONE-WAY TICKET TO THE WORLD OF MANIACS!

MCR company
624-0913 京都府舞鶴市上安久157
157 KAMIAGU MAIZURU KYOTO 624-0913 JAPAN
http://www.dance.ne.jp/~mcr e-mail : mcr@dance.ne.jp
Distributed in EUROPE by AGIPUNK

always tedious editor's notes

これまで表紙のバンドをVol.0がポーランド、Vol.1がデンマーク、Vol.2がスウェーデン、Vol.3がイタリア、Vol.4がアメリカ、Vol.5がオーストリア、Vol.6がイギリス、Vol.7が多国籍、と国が被らないようにしていたのですが、今回のCHILDREN OF TECHNOLOGYをもってイタリアン・バンドが2度目となってしまいました。多分、誰も気づいていないし気にもしないと思うのですが、自分に負けたような気がする今日この頃です。
5年くらい前に都内の某ロック・バーに行ったことがあるのですが、そこのマスターが「CDってなんで2000円とか3000円もするんですかね?高いですよね」と話しかけてきたのです。「そうですか?」と聞き返したら、「だって録音してプレスするだけだから、こんなの簡単に作れるでしょ。だから私はいつもTSUTAYAとかで借りてCD-Rに焼くんです」と。ロック・バーやっているのに音楽への愛情ゼロ!と驚いてすぐ店を出たのですが、なんで突然こんな話しをしたかと言うと、「編集作業に慣れてるからEL ZINE作るの簡単でしょ」と知り合いに言われてムカついた弾みで、このことも思い出したのでした。人の思考回路って面白いですね。
さて、1/2ページ分のスペースが空いたので、唐突に占いのコーナーを設置してみました。これでEL ZINEに決定的に欠けているであろう女性読者を獲得できるかな(無理です)?もちろん全てテキトーだから間違っても信じないでね。ほんじゃ!

発行者 山路健二

次号の発売は…10月頭くらい　※インタヴュアー及び執筆者名の記載のない原稿は全て山路健二が記した
EL ZINE vol.8 2010年9月1日発行 HP・BLOG・MYSPACE・MIXI・TWITTER→NO FUN E-MAIL→unno13@gmail.com

BACK ISSUES

PRICE : ALL Five Hundreds Yen

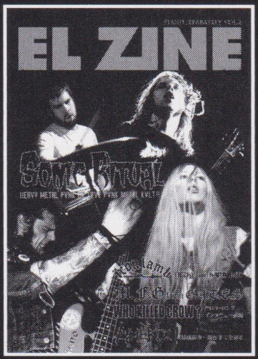
SOLD OUT : Vol . ZERO and Vol . ONE



VOL.0 UTOPIA



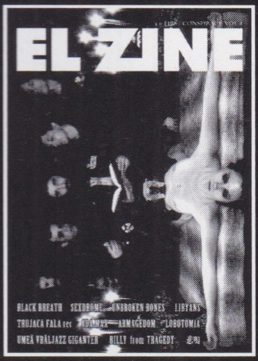
VOL.1 MOONLESS



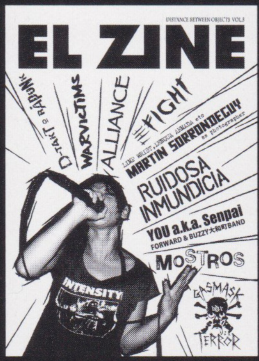
VOL.2 SONIC RITUAL



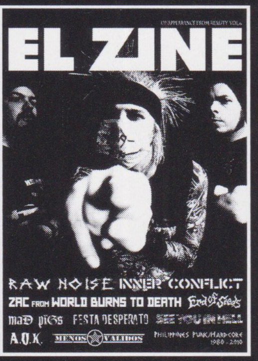
VOL.3 KALASHNIKOV



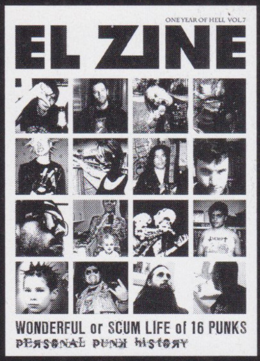
VOL.4 BLACK BREATH



VOL.5 RUIDOSA INMUNDICIA



VOL.6 RAW NOISE



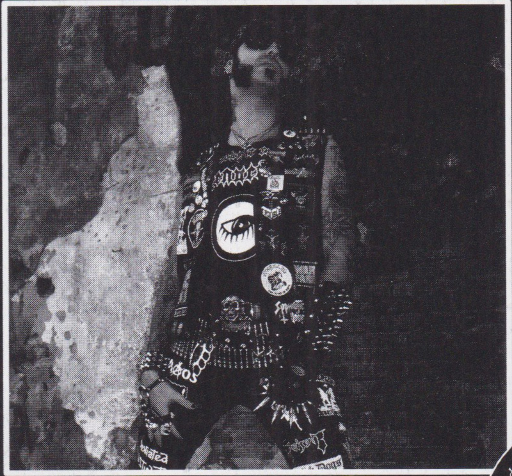
VOL.7 SIXTEEN PUNKS

SHOP and DISTRO

直納しているレコード屋さんetc　ANSWER(名古屋)　BASE(東京・高円寺)　BOY(東京・高円寺)　DISK UNION(関東圏)
G-SIDE(浜松/ライヴハウス)　HARDCORE KITCHEN(神戸)　K-CLUB(高知)　record KNOX(水戸)　MISERY(広島)　NAT(東京・西新宿)
PUNK&DESTROY(大阪)　XES(福井/ライヴハウス)　TIME BOMB(大阪)　WOODY(新潟/ライヴハウス)

ディストロして頂いている方々　FUJIさん(REALIZED/北海道)　SOUICHIさん(UNDER THE SURFACE/東京)　YUさん(SKIZOPHRENIA/津山)
はっちゃん(BURST HEAD/沖縄)　紺野さん(SPROUT RECORDS/仙台)　ONIGIRIさん(WATERSLIDE/東京)　YUKIさん(SP RECORDS/東京)
CR JAPAN(東京)　MCR COMPANY(京都)

CHILDREN OF TECHNOLOGY



DEATHLORD ASTWÜLF



SPLATTERHEAD



THERMONUCLEAR THRASHARD



GODDESS OF HAMMERING CHAOS

myspace.com/childrenoftechnology

...EN OF ...OLOGY



SPLATTERHEAD



GODDESS OF HAMMERING CHAOS

...drenoftechnology

EL ZINE

LIBERATED DISTRICT VOL.8

EL Z...



NORWEGIAN HARDCORE PU...

Dishonorable Discharge

CAR...

AND ...

ADULT CRASH

TADPOLE

GRITA o MUERE RECORDS